

アヌココロ アイヌ イコロマケナル
国立アイヌ民族博物館
年 報
2024（令和6）年度



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館



ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

国立アイヌ民族博物館

年報 2024（令和6）年度

National Ainu Museum Annual Report 2024

国立アイヌ民族博物館

年報 2024（令和 6）年度 名誉館長あいさつ

イランカラフテ

ランマ アヌココロ アイヌ イコロマケンル オッタ イキアシ エチエイカスイ ワ チェヤイコブンテク。

イヤイライケレ

いつも国立アイヌ民族博物館の事業にご協力いただき、ありがとうございます。

『国立アイヌ民族博物館年報 2024』をお届けします。

アヌココロ アイヌ イコロマケンル、国立アイヌ民族博物館は 2020（令和 2）年 4 月に、ウアイヌコロコタン、民族共生象徴空間（愛称ウポポイ）の中核施設の 1 つとして、文化庁が公益財団法人アイヌ民族文化財団に運営を委託するという形で発足し、ウポポイの他の施設とともに同年 7 月 12 日に一般公開を始めました。その設立理念に「この博物館は、先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する」とある通り、当博物館はアイヌの歴史・文化に関する正しい認識と理解を促進し、新たな文化の創造・発展に寄与する活動に特化した、我が国初の国立博物館です。

当年報には当館の基本設備とこの博物館の 5 年目にあたる 2024（令和 6）年度の事業がすべて紹介されています。担当者の努力の結果 5 年目の年報はようやく次の年度内に刊行の運びとなりました。関係者の皆様に感謝申し上げますとともに、このペースで今後も刊行できることを祈っています。すでに昨年度の年報でも触れました通り、2025 年 7 月に館長が交代しました。本来、この挨拶文は館長が書くべきものですが、2024 年度の事業についても私、前館長が把握していることから、この年度の年報の挨拶も私が執筆しております。

2024 年 7 月にウポポイは開業 4 周年を迎えました。運営母体である公益財団法人アイヌ民族文化財団は特別な記念行事は行いませんでしたが、7 月 12 日のウポポイ開業記念日には國場幸之助国土交通副大臣のご訪問がありました。ただ、開業 3 年目までの目新しさが失われたこともあるせいか、ウポポイ全体の来場者の減少を止めることができず、2024 年度は 316,398 人と前年比 16,700 人ほど減少しました。今後も、少しでも多くの方に先住民族アイヌの歴史と文化を正しく理解していただくために、一層努めて参りたいと存じます。

当年度の展示、研究交流、資料収集、教育普及の各業務の概要は以下の通りです。

まず、展示では昨年同様に 2 回の特別展示（第 8 回特別展示「生誕 90 年記念 藤戸竹喜の世界展」会期：2024 年 6 月 29 日～8 月 25 日と第 9 回特別展示「驚異と怪異 想像界の生きものたち」会期：2024 年 9 月 14 日～11 月 17 日）と 2 回のテーマ展示（第 7 回テーマ展示「収蔵資料展」会期：2024 年 12 月 14 日～2025 年 2 月 16 日と第 8 回テーマ展示「ウイマムレプンカ サンタン交易と蝦夷錦」会期：2025 年 3 月 15 日～2025 年 5 月 18 日）を特別展示室で開催しました。この年度の特別展示は、他の企業や博物館との共同開催になりまして、第 8 回特別展は北海道新聞社との共同主催、第 9 回特別展示は国立民族学博物館、公益財団法人千里文化財団との共同主催でした。両展示とも図録が刊行され、好評を博しましたが、入場者数という点では今ひとつ伸びませんでした。テーマ展示では、第 7 回の「収蔵資料展」は今後当館が所蔵する資料を順次紹介するというコンセプトの下に始まったもので、今後シリーズ化する予定です。第 8 回の「ウイマムレプンカ サンタン交易と蝦夷錦」は巡回展示ではありませんが、市立函館博物館が前年の夏に実施した展示（「北東アジアのシルクロードー北方交易と蝦夷錦ー」会期：2024 年 7 月 2 日～10 月

13日)の続編という位置付けの展示でした。

研究交流では前年度に続いて、A 基幹研究及び悉皆調査、B 個別研究、C 研究発表支援、K 共同研究(他の研究機関と共同実施する研究)の体制を維持し、Aを4件、悉皆調査を1件、Bを7件、Cを7件、Kを4件実施しました。他の組織との連携協定に基づく研究活動では、苫小牧市教育委員会との共催で、『「国際博物館の日」記念事業 国立アイヌ民族博物館・苫小牧市美術博物館共同シンポジウム「アイヌの舟と交易」』(開催日:2024年5月18日、開催場所:苫小牧市民会館3階小ホール)を行ったほか、それまでに締結された協会、大学、教育委員会、博物館との共同事業を実施しました。当館の研究員、学芸員の個人の研究活動、成果公開活動も活発で、数多くの論文(査読付きを含む)、エッセイ、記事、研究報告や講演が行われております。

刊行物ではニュースレター『アヌアヌ』を4冊(16~19号)刊行しました。当館の研究成果公開の柱である研究紀要については、第3号をネット版、印刷版で刊行しました。

ネットワーク事業(「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク(愛称プンカラ)」)では加盟機関等が73になりました。前年度に引き続き研修会を対面とオンライン併用で開催し、会報誌『プンカラ通信』の3号と4号をWebに掲載しました。前年度から始まったプンカラ協働展示では三重県の3つの博物館(松浦武四郎記念館、大黒屋光太夫記念館、公益財団法人石水博物館)で「三重から北海道へ—アイヌ文化と出会った人々」を実施し(2024年11月29日~2025年1月19日)、またプンカラ協働PRイベントとして三重の3館に京都国立博物館、京都文化博物館、京都府立図書館を交えて、京都で「Punkar network × KYOTO 2025 キヤウト コタン—京都でふれるアイヌ文化」を実施しました。この年度からプンカラ共同研究も始まり、「プンカラ重点課題研究」(A:課題設定型)を1件、「プンカラ共同利用研究」(B, C:公募型)を2件実施しました。

外部資金導入では、科学研究費助成事業への応募資格を取得して初めての年度で、当館から7件の応募があり、そのうち5件が採用されました。

2024年度は国際交流も活発に行われた年で、国際的な連携協定を1件締結し(フィンランドの国立サーミ博物館 SIIDA)、海外の先住民との交流が6件ありました。また、2024年8月にはドイツケルン市のラウテンシュトラウフ=ヨースト博物館から、世界で数点しか残されていない樺太アイヌのホホチリが当館に寄託されました。

資料の収集・保存・整備では、65件177点の資料を購入し、70件708点の寄贈を受けました。他館の展示等への貸し出しでは、6件228点の貸し出しを行いました。資料の登録では、旧アイヌ民族博物館の資料と2015(平成27)年度から2024年度第1回購入までの文化庁資料のデータベースシステムへの登録作業が行われました。その結果、2024年度末時点で、資料登録14,025件、画像登録17,304件(7,845件が新規登録)、音声登録14件となりました。資料の利用では、列品等の特別観覧が15件223点、資料等の画像利用が28件97点(いずれも職員の利用を除く)でした。

教育普及事業では、土日を中心に実施されるホリデーイベントが50回あり、延べ2,465人の参加者がありました。また今年度から研究学芸部の職員が展示室を中心に解説を行う「ギャラリートーク」が始まり、通算110回、延べ1,494人の方が参加しました。学校を対象とした教育プログラムでは、教育旅行で来館する児童生徒向けの入門コース「はじめてのアイヌ博」に137校、137件、引率含め9,210名が参加し、受講しました。そのほか、遠隔授業、出前授業なども行っております。教員向けの研修会、「教員のための博物館の日 at 国立アイヌ民族博物館」は当年度も対面とリモートの並行で実施し、対面参加23名、リモート

参加 14 組の教職員の参加がありました。また、社会人向けの研修は 20 団体（社会人、大学、教育委員会、官公庁他）845 名に実施しました。

アイヌの文化伝承に資する研修では、当館と協定を結んでいる公益社団法人北海道アイヌ協会のアイヌ工芸者技術研修事業に 2 名の参加者があり、当館にて資料熟覧などの研修を実施しました。さらに、昨年度から引き続き「展示資料（アイヌ衣服）複製事業」（2 か年計画）を実施し、講師 1 名、技術者 2 名が、昨年度の資料熟覧、原寸図作成に続いて、複製作成を行い、完成品を当館に納品していただきました。

運営では、アイヌ文化を担う方々やアイヌの歴史と文化を研究されている方々の意見を広く受け止め、それを中長期的な視野を持って博物館の運営に生かしていくために、2020 年度に設けました博物館運営会議を、2024 年度も開催するとともに、その下に設けた展示検討、研究推進、学术交流の 3 つのワーキング会議を当年度も引き続き開催して、それぞれの課題について助言、提言をいただきました。

このようにアヌココロ アイヌ イコロマケナル、国立アイヌ民族博物館は、開館 5 年目の 2024 年度にも様々な事業を実施しました。詳細はこの年報に収められていますので、是非ご覧下さい。今後とも皆様のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

（冒頭のアイヌ語は沙流方言です）

2026 年 3 月

アヌココロ アイヌ イコロマケナル

アツパケ タ アン サパネクル

エトゥナンカラ

国立アイヌ民族博物館

名誉館長 佐々木史郎

「アツパケ タ アン サパネクル」…「初代（最初の）館長」の意。

目次

名誉館長あいさつ	3
I 概要	9
I -01 理念・目的	9
I -02 沿革	9
I -03 館内におけるアイヌ語の表記・方言について	12
I -04 博物館のロゴマークについて	14
I -05 位置と周辺環境	15
II 管理運営	17
II -01 組織	17
II -01-01 組織図	
II -01-02 人員構成	
II -01-03 専門グループ	
II -02 運営組織	22
II -02-01 国立アイヌ民族博物館運営会議	
II -02-02 国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会	
II -02-03 その他の運営組織	
III 施設	29
III -01 施設概要	29
III -01-01 整備の基本方針	
III -01-02 施設概要	
III -02 建物の整備の基本方針と計画内容	30
III -03 建物の平面図	32
III -04 1階の施設	33
III -04-01 1階来館者ゾーンの施設	
アパサム	エントランスロビー
イノカヌカラ トウンブ	シアター
ウエネウサラ トウンブ	交流室
カンピソシヌカラ トウンブ	ライブラリ
イコロマケシルイホク ウシ	ミュージアムショップ
チエトウン スウォプ オマ トウンブ	ロッカー室

イカオイキ トウンブ	救護室	
アシンル・セブ アシンル	トイレ・バリアフリースイレ	
ニカラ、トウシエリキンペ、シモイエニカラ	階段、エレベーター、エスカレーター	
III -04-02 1階管理・運営ゾーンの施設		
カンピヌイエ トウンブ	調査研究室	
ヤイパカシヌ トウンブ	研修室	
イコロ ウワンテ トウンブ	分析調査室	
CT トウンブ	CT 室	
イパカレ トウンブ	燻蒸室	
イノカウク トウンブ	撮影室	
III -05 2階の施設		43
III -05-01 来館者ゾーンの施設		
インカラ ウシ	パノラミックロビー	
イコロ トウンブ	基本展示室	
イアシケウク	導入展示	
アエキルシ	プラザ展示	
イタク	私たちのことば	
イノミ	私たちの世界	
ウレシバ	私たちの暮らし	
ウパクマ	私たちの歴史	
ネブキ	私たちのしごと	
ウコアブカシ	私たちの交流	
イケレウシ「テンパテンパ」	探究展示 テンパテンパ	
シサク イコロ トウンブ	特別展示室	
III -05-02 管理・運営ゾーンの施設		
イコロ プ	収蔵庫	
イコロ プ セム	収蔵庫前室	
イコロ プ	一般収蔵庫	
シサク イコロ プ	特別収蔵庫	
サパネクル トウンブ	館長室	
ウエカブ トウンブ	応接室	
IV 2024 (令和 6) 年度事業		55
IV -01 2024(令和 6)年度主要事項		55
IV -02 入館者数 (月別)		57
IV -03 展示		58
IV -03-01 基本展示における展示業務		
IV -03-02 特別展示の企画立案・計画策定、開催		
IV -03-03 交流展示及びテーマ展示の立案・計画策定、開催		
IV -03-04 2025 (令和 7) 年度の特別展示及びテーマ展示の立案・計画策定、準備		
IV -03-05 展示関連の解説書・図録等の企画及び編集、発行		

IV -04 調査研究	70
IV -04-01 調査研究事業	
IV -04-02 ネットワーク事業	
IV -04-03 研究集会の企画・開催	
IV -04-04 研究成果の社会発信	
IV -04-05 レファレンス	
IV -04-06 外部資金獲得のための体制整備	
IV -04-07 国内外の博物館等が所蔵するアイヌ資料の調査の実施	
IV -04-08 刊行物	
IV -04-09 国際交流	
IV -05 資料の収集、保管、活用	100
IV -05-01 アイヌ文化関係資料等の受入及び貸出	
IV -05-02 博物館における列品等の整理及び整備	
IV -05-03 収蔵品管理システムへのデータ登録、外部公開、保守管理	
IV -05-04 資料の熟覧・画像利用	
IV -05-05 分析機器運用	
IV -05-06 資料収蔵環境整備（IPM、燻蒸を含む）	
IV -05-07 博物館ライブラリの運営	
IV -06 教育普及	107
IV -06-01 博物館における教育事業の企画立案及び実施	
IV -06-02 アイヌの文化伝承に資する研修の企画立案及び実施	
IV -06-03 学芸員を目指す学生に対する博物館実習の検討	
IV -06-04 教育旅行等で来館する学校に対する教育プログラム	
IV -06-05 学校教育と連携した取り組みの企画立案	
IV -07 一般運營業務	117
IV -07-01 利用サービス	
IV -07-02 広報企画	
IV -07-03 事業予算	

I 概要

I -01 理念・目的

理 念

この博物館は、先住民であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する。

（『「民族共生の象徴となる空間」における博物館の基本構想』2013年8月より）

目 的

1. アイヌの歴史・文化・精神世界等に関する正しい知識を提供し、理解を促進する博物館
2. アイヌの歴史・文化に関する十分な知識を持つ次世代の博物館専門家を育成する博物館
3. アイヌの歴史・文化に関する調査と研究を行う博物館
4. アイヌの歴史・文化等を展示する博物館等をつなぐ情報ネットワーク拠点となる博物館

（『「民族共生の象徴となる空間」における博物館の基本構想』2013年8月より）

I -02 沿 革

1965年	白老町でポロトコタン営業開始
1967年	白老町立白老民俗資料館開業
1984年	北海道ウタリ協会総会で「アイヌ民族に関する法律（案）」が採択される
1984年	アイヌ民族博物館開業
1987年	第5回国連人権委員会人権保護小委員会先住民作業部会にアイヌ民族の代表が参加
1992年	国連総会で野村義一北海道ウタリ協会理事長が記念演説
1993年	国連総会が「世界の先住民の国際年」を宣言（1995年～2004年を「世界の先住民の国

際の10年」、2005年～2014年を「第2次世界の先住民の国際の10年」に指定)

- 1995年3月 ウタリ対策のあり方に関する有識者懇談会設置
- 1996年4月 ウタリ対策のあり方に関する有識者懇談会が『報告書』を提出
- 1997年5月 「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」（アイヌ文化振興法）公布。この法律の成立に伴い北海道旧土人保護法、並びに旭川市旧土人保護地処分法が廃止される
- 1997年11月 アイヌ文化振興法の指定法人として財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構を指定
- 2007年9月 国連総会「先住民族の権利に関する国際連合宣言」採択
- 2008年6月 衆参両院「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」採択
- 2008年7月 アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会設置
- 2009年7月 アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会が『報告書』を提出
「民族共生の象徴となる空間」（民族共生象徴空間）の構想が初めて打ち出される
- 2009年12月 アイヌ政策推進会議（座長：内閣官房長官）発足
- 2010年3月 アイヌ政策推進会議に民族共生の象徴となる空間、北海道外アイヌの生活実態調査の両作業部会設置
- 2011年6月 両作業部会が『報告書』を提出（民族共生象徴空間の設置場所を北海道白老郡白老町のポロト湖畔に選定）
- 2011年8月 アイヌ政策推進会議に政策推進作業部会設置
- 2012年3月 「民族共生の象徴となる空間」における博物館の整備・運営に関する調査検討委員会（以下、博物館調査検討委員会）発足
- 2012年7月 『「民族共生の象徴となる空間」基本構想』（アイヌ政策関係省庁連絡会議）
- 2013年8月 『「民族共生の象徴となる空間」における博物館の基本構想』（博物館調査検討委員会）
- 2013年11月 博物館調査検討委員会の下に「展示・調査研究」、「施設整備」、「組織運営」の3つの専門部会を設置
- 2014年6月 「アイヌ文化の復興等を促進するための「民族共生の象徴となる空間」の整備及び管理運営に関する基本方針」が閣議決定
- 2015年3月 『「民族共生の象徴となる空間」における民族共生公園（仮称）基本構想』（国土交通省北海道開発局）、『「民族共生の象徴となる空間」における博物館基本計画報告書』（博物館調査検討委員会）
- 2015年7月 『国立のアイヌ文化博物館（仮称）基本計画』（文化庁）
- 2015年11月 文化庁が「国立のアイヌ文化博物館（仮称）設立準備室」を文化庁内と札幌（北海道大学北キャンパス総合研究棟3号館2階）に設置
- 2016年4月 『国立の民族共生公園（仮称）基本計画』（国土交通省北海道開発局）
- 2016年5月 アイヌ政策推進会議にて民族共生の象徴となる空間を「民族共生象徴空間」、中核施設の名称をそれぞれ「国立アイヌ民族博物館」、「国立民族共生公園」、「慰霊施設」とすることが決定される。それにともない博物館設立準備室も「国立アイヌ民族博物館設立準備室」となる
- 2016年5月 『国立アイヌ民族博物館展示計画』（文化庁）
- 2016年7月 『「民族共生象徴空間」基本構想（改訂版）』（アイヌ総合政策推進会議）
- 2017年3月 『国立アイヌ民族博物館展示基本設計』、『国立アイヌ民族博物館建物基本設計』公表
- 2017年6月 『アイヌ文化の復興等を促進するための「民族共生の象徴となる空間」の整備及び管理運営に関する基本方針について』の一部変更閣議決定

- 2017年9月 『国立アイヌ民族博物館展示実施設計』、『国立アイヌ民族博物館建物実施設計』策定
- 2017年12月 国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会設置
- 2018年1月 白老町の博物館建設予定地でアイヌ民族博物館主催のチセコテノミ（地鎮祭）実施
- 2018年3月 アイヌ民族博物館閉館
- 2018年4月 一般財団法人アイヌ民族博物館と公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構が合併して公益財団法人アイヌ民族文化財団設立
- 2018年5月 国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表現・新語検討ワーキング会議設置
- 2018年12月 民族共生象徴空間の愛称を「ウポポイ」（UPOPOY）とし、そのロゴと博物館のロゴを定める
- 2019年5月 「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」（アイヌ施策推進法）施行。この法律の成立に伴いアイヌ文化振興法が廃止される
- 2019年9月 「アイヌ施策の総合的かつ効果的な推進を図るための基本的な方針」閣議決定（この閣議決定により2014年の基本方針は廃止）
- 2019年9月 国立アイヌ民族博物館建物本体竣工、11月には博物館内（白老）にも準備室を設置
- 2020年2月 国立アイヌ民族博物館展示施工完了
- 2020年3月 国立アイヌ民族博物館設立準備室閉鎖
- 2020年4月 国立アイヌ民族博物館発足
- 2020年7月 民族共生象徴空間開業記念式典挙行（11日） 国立アイヌ民族博物館を含む民族共生象徴空間が開業（12日） 新型コロナウイルス感染症対策として、マスクの着用の義務化、入場入館前の検温と手指消毒の徹底とともに、博物館展示室への入室者を1時間当たり100人に制限する
- 2020年10月 展示室への入室制限を1時間当たり200人に緩和する
- 2021年6月 新型コロナウイルス感染症の蔓延により休館（6月1日～20日）
- 2021年7月 民族共生象徴空間開業1周年を迎える
- 2021年9月 新型コロナウイルス感染症の蔓延により休館（8月31日～9月30日）
- 2022年3月 2021年度のウポポイの入場者190,618名
- 2022年7月 民族共生象徴空間開業2周年を迎える
- 2022年11月 文化の日（3日）に無料入場を実施し、1日で6,490名の入場者を迎える
- 2023年3月 2022年度のウポポイ入場者数369,038名
- 2023年7月 ウポポイ（民族共生象徴空間）開業3周年記念式典挙行（8日）
- 2023年11月 文化の日（3日）に無料入場を実施し、1日で6,692名の入場者を迎える
- 2024年3月 2023年度のウポポイ入場者数333,097名
- 2024年11月 文化の日（3日）に無料入場を実施し、1日で7,131名の入場者を迎える
- 2025年3月 2024年度のウポポイ入場者数316,398名

I -03 館内におけるアイヌ語の表記・方言について

アイヌ語の復興を目的として、当館をはじめ民族共生象徴空間（ウポポイ）ではアイヌ語を第一言語と定めている。そのために館内及び展示室の解説パネルや案内サインにはアイヌ語が1行目、あるいは最初に表示されている。

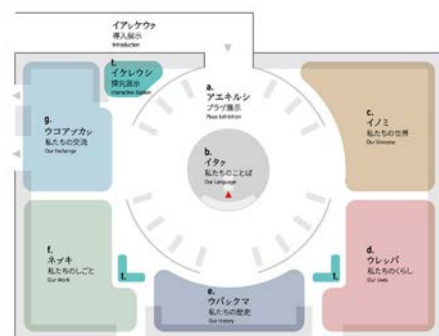


博物館の館名板 第1行目がアイヌ語

館名板の1行目にあるアイヌ語の館名は、国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表現・新語検討ワーキング会議が検討、提案し、国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会が決定したものである。「アヌココロ」＝「私たちが共有する」、「イコロマケナル」＝「宝物が入った建物」で、直訳すると「私たちが共有するアイヌの宝物が入った建物」となる。「私たちが共有する」が「国立」に対応し、「宝物が入った建物」が「博物館」を意味する。

また、アイヌ語は復興とともにその方言の多様性を守っていくために、当館では基本展示室の中テーマ解説のアイヌ語文の作成を、各地域でことばを受け継ぐ人たちに依頼した。執筆者は自分が学んでいる方言や書きたい方言で記述しているために、解説文ごとに異なる方言が使われている。基本展示の各テーマで使用された方言は以下の通りである。

私たちのことば	沙流方言
私たちの世界	釧路（鶴居）方言、静内（東別）方言、十勝（帯広）方言
私たちの暮らし	静内（東別）方言、三石方言、 石狩（旭川）方言
私たちの歴史	沙流方言、千歳方言、 十勝（本別、帯広）方言
私たちのしごと	白糠方言、十勝（本別、帯広）方言、 樺太方言
私たちの交流	沙流方言、千歳方言
展示室案内板	白老・幌別方言



I -04 博物館のロゴマークについて

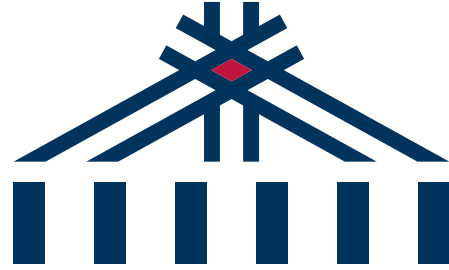
I -04-01 国立アイヌ民族博物館ロゴマークコンセプト

伝統的なアイヌの家屋における屋根を支える構造のひとつである三脚（ケトゥンニ）をイメージ。アイヌ文化の復興、新たな文化の創造を「支える」イメージ。

メインカラーとして、伝統的なアイヌの服飾に用いられることも多い、紺と赤を採用。

下の縦線の本数は、アイヌ語で「たくさん」を表す表現にも用いられる数「6」とし、多くの人びとが集うことをイメージ。博物館の基本展示を構成するテーマ展示の数「6」とも合致。

（『国立アイヌ民族博物館ロゴマークマニュアル』より）



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

I -04-02 その他のロゴマークの使い方

■カラー表示

Aタイプ



Bタイプ



Cタイプ



Dタイプ



■モノクロ表示

Aタイプ



Bタイプ



Cタイプ



Dタイプ



■白抜き表示

Aタイプ



Bタイプ



Cタイプ



Dタイプ



I -05 位置と周辺環境

I -05-01 民族共生象徴空間の候補地選定の経緯

特に自然環境や交通アクセス等の自然的・地理的条件、アイヌ文化振興の活動の基盤となる人材や施設等の集積状況、地元の関係機関等の協力体制等において優れている北海道白老町が候補地としてふさわしいと判断した。

白老町内においては、ポロト湖畔において、アイヌの人々が自ら設立したアイヌ文化に関する施設等を中心に舞踊等の伝承者の育成や体験学習等の活動が展開され、国内外から多くの観光客等が訪れているとともに、同湖の周辺の区域に、アイヌ文化の伝承活動等における利活用の実績のある森林、海洋等の自然環境等の資源がコンパクトにまとまって存在すること等から、同湖周辺の区域が象徴空間の中心的な区域として最もふさわしいと想定される。

(『「民族共生の象徴となる空間」作業部会報告書』アイヌ政策推進会議「民族共生の象徴となる空間」作業部会、2011年、pp.9-10より)

I -05-02 民族共生象徴空間設置対象地と周辺の概況

対象地は、社台川水系ウツナイ川の流域にあり、背後の山々から自然休養林、ポロト、ウツナイ川を経て、ヨコスト湿原、太平洋につながる一連の自然環境が形成されており、ポロトの近隣には、アイヌの伝承においてポロトと対をなすポイントも位置している。

対象地周辺のポロト遺跡からは縄文中期の土器などが出土しており、その時代にはすでに、この地域に人が居住していたことがうかがえる。また、古くからコタンをつなぐ海に沿ったネットワークを通じて遠距離交易が行われていた。

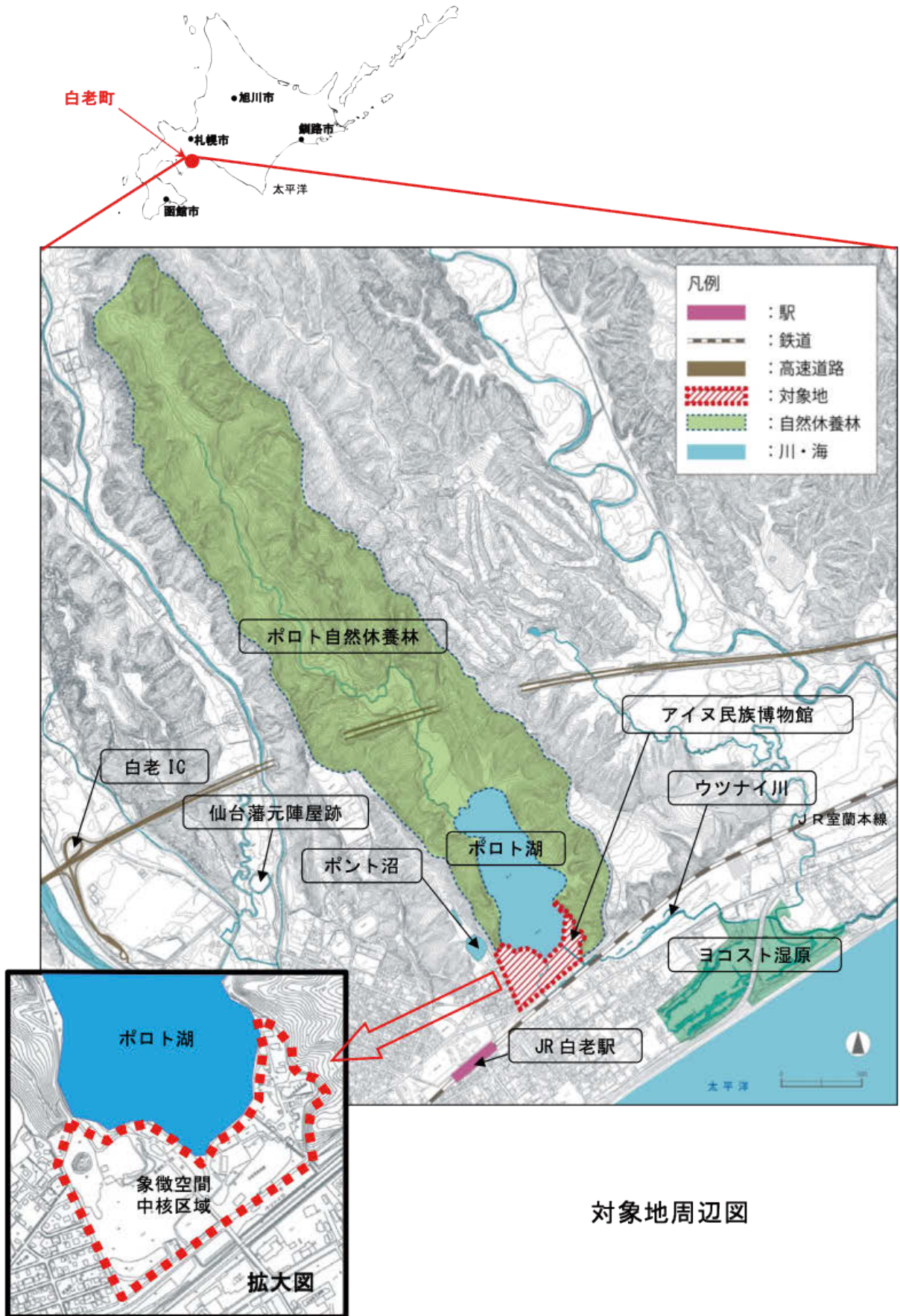
—中略—

交通の面では、JR 白老駅から北東約 500m に位置するとともに、道央自動車道白老 IC から道道白老大滝線と町道を介して約 3Km で接続しており、道南の函館方面及び道央の札幌方面のいずれからも交通条件の至便な場所にある。

(『「民族共生の象徴となる空間」における民族共生公園(仮称)基本構想』国土交通省北海道開発局、2015年、p.5より)



参考図 国立民族共生公園 全体平面図



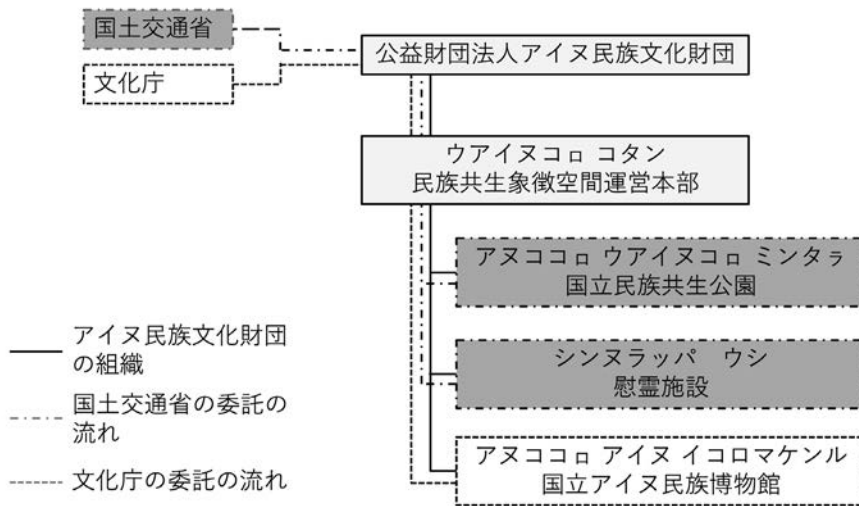
（『「民族共生の象徴となる空間」における民族共生公園（仮称）基本構想』国土交通省北海道開発局、2015年、p.6より）

II 管理運営

II -01 組織

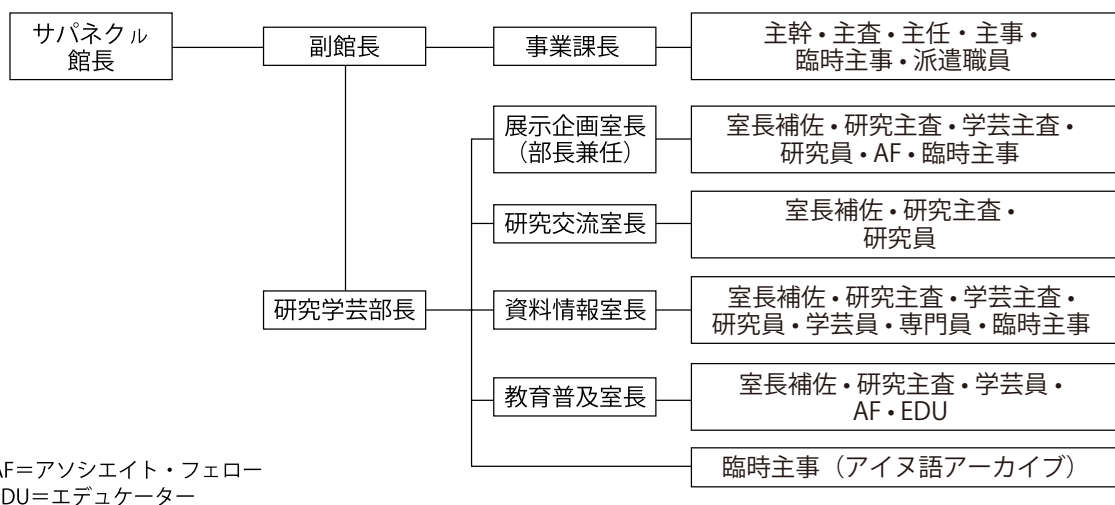
II -01-01 組織図

民族共生象徴空間の組織



国立アイヌ民族博物館組織図

2024（令和6）年度



II -01-02 人員構成

2024（令和6）年度国立アイヌ民族博物館 人員構成（2024年12月時点）

所属室・課	役職名	氏名
	館長	佐々木 史郎
	副館長	南 健一
	研究学芸部長	藪中 剛司
事業課	課長	成田 昭夫
事業課	主幹	羽山 亮太
事業課	主査	佐々木 智恵
事業課	主任	上林 春奈
事業課	主事	小林 真綾
事業課	主事	赤堀 友里恵
事業課	主事	宮本 ゆか
事業課	主事	澤口 利枝
事業課	臨時主事	多羽田 大助
展示企画室	室長（部長兼務）	藪中 剛司
展示企画室	室長補佐	鈴木 建治
展示企画室	室長補佐	関口 由彦
展示企画室	研究主査	小林 美紀
展示企画室	学芸主査	立石 信一
展示企画室	研究員	劉 高力
展示企画室	研究員	是澤 櫻子
展示企画室	アソシエイトフェロー	田村 実咲
展示企画室	臨時主事	江副 幹太
展示企画室	臨時主事	上林 大介
研究交流室	室長	霜村 紀子
研究交流室	室長補佐	宮地 鼓
研究交流室	研究主査	奥山 英登
研究交流室	研究員	赤田 昌倫
研究交流室	研究員	深澤 美香
研究交流室	研究員	谷地田 未緒
研究交流室	研究員	シン ウォンジ
資料情報室	室長	田村 将人
資料情報室	室長補佐	笹木 一義
資料情報室	研究主査	古田嶋 智子
資料情報室	学芸主査	八幡 巴絵
資料情報室	研究員	大江 克己
資料情報室	研究員	市川 暢子
資料情報室	学芸員	竹内 隼人

資料情報室	専門員	工藤 綾華
資料情報室	臨時主事（アイヌ語アーカイブ）	安田 千夏
資料情報室	臨時主事	宮谷 初美
資料情報室	臨時主事	中村 孝子
資料情報室	臨時主事	和泉 典子
教育普及室	室長	森岡 健治
教育普及室	室長補佐	北嶋 由紀
教育普及室	研究主査	中井 貴規
教育普及室	学芸員	長谷 仁美
教育普及室	学芸員	両角 佑子
教育普及室	学芸員	永石 理恵
教育普及室	アソシエイトフェロー	呉 松旆
教育普及室	エデュケーター	カサド パルド ケラール
教育普及室	エデュケーター	荒川 のぞみ
教育普及室	エデュケーター	三木 暁了
教育普及室	エデュケーター	内田 治子

II -01-03 専門グループ

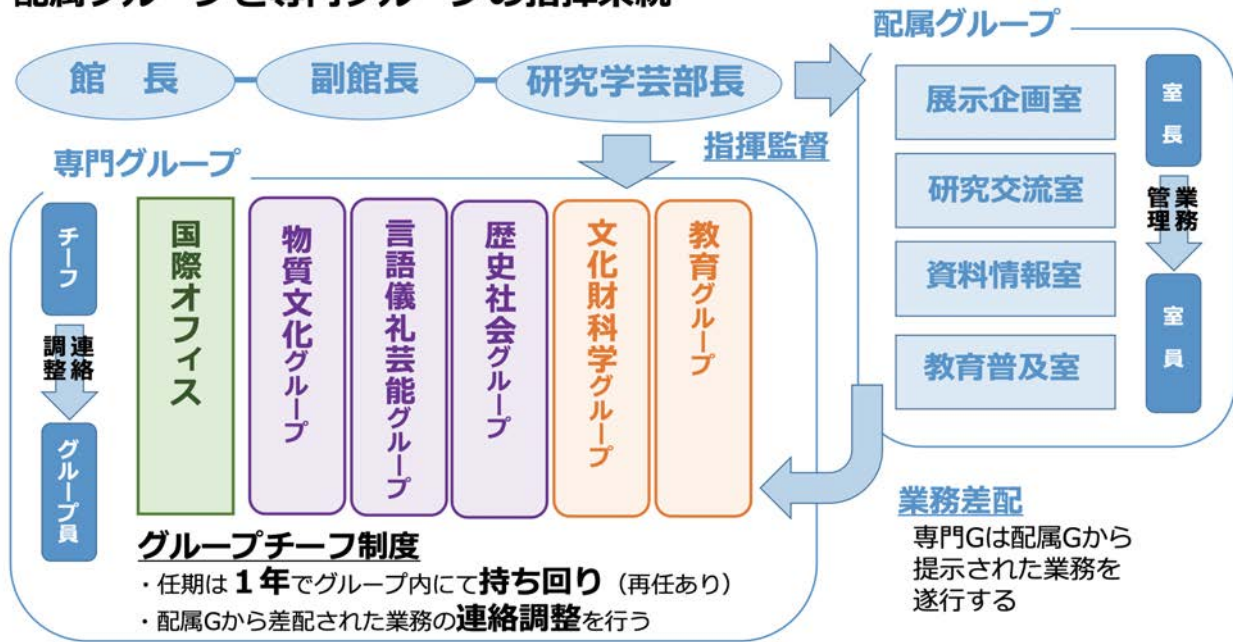
当館では、基本的に展示企画室、研究交流室、資料情報室、教育普及室の4室によって研究学芸業務がなされている。しかし、各研究員・学芸員はそれぞれの専門性をもって採用されているものの、各室の業務と合致していることは少ない。そのため専門が近い者どうしが集まり、室を越えて業務を処理することも多々あり、歪な状況にあった。

そこで、館長裁定による「国立アイヌ民族博物館における研究・学芸業務の実施体制について」に基づいて、5つの専門グループ（物質文化、言語儀礼芸能、歴史社会、文化財科学、教育）と国際オフィスを設置し、各室長から指示された用務を専門的に処理することとした。そこには、「専門的知見等を研究学芸部の業務に随時反映し処理する体制を整備することにより、博物館の機能強化及び調査研究・学芸業務の充実・深化等を図る」という狙いがある（「国立アイヌ民族博物館における研究・学芸業務の実施体制について」第1条による）。

研究学芸部所属の研究員・学芸員はいずれかの専門グループに所属する。国際オフィスには専門グループと重複して所属することを妨げない。なお、指揮系統としては、各グループとオフィスは研究学芸部長に直属する。また、各グループからチーフを選出し、研究学芸部長あるいは各グループ間の連絡調整を行う。チーフは1年交代として再任を妨げない。

この専門グループ、オフィスの体制は館長裁定により2020年9月1日より実施した。

配属グループと専門グループの指揮系統



2024（令和6）年度専門グループ構成（2024年4月時点）

【物質文化グループ】		
アイヌの歴史・文化の基礎研究 主に物質文化に関する各分野を専門とする		
《担当資料》	氏名	専門分野
民具資料一般 動植物標本	北嶋 由紀	アイヌ文化（生活技術）
	宮地 鼓	環境学
	八幡 巴絵	アイヌ文化（生活文化）
	鈴木 建治	考古学
	竹内 隼人	アイヌ文化（物質文化）
	長谷 仁美	アイヌ文化
	両角 佑子	美術科教育・博物館教育
内田 治子	教育心理学	
【言語儀礼芸能グループ】		
アイヌの歴史・文化の基礎研究 主に言語儀礼技能に関する各分野を専門とする		
《担当資料》	氏名	専門分野
映像・音声資料 民具資料（儀礼・芸能系）	中井 貴規	アイヌ文化、アイヌ語
	小林 美紀	アイヌ語
	深澤 美香	アイヌ語
	矢崎 春菜	アイヌ語
	竹内 隼人	アイヌ文化（物質文化）
	劉 高力	文化人類学
	谷地田 未緒	文化政策
	荒川 のぞみ	音楽科教育・民俗音楽学

【歴史社会グループ】		
アイヌの歴史・文化の基礎研究 主に歴史社会に関する各分野を専門とする		
《担当資料》 文書・絵図資料 現代資料一般 考古資料	氏名	専門分野
	関口 由彦	文化人類学
	鈴木 建治	考古学
	立石 信一	近現代史
	田村 将人	アイヌ近現代史
	霜村 紀子	美術史
	森岡 健治	考古学
	是澤 櫻子	文化人類学
	シン ウォンジ	地質学
	三木 暁了	東洋史
田村 実咲	文化人類学	
呉 松旆	文化人類学	
【文化財科学グループ】		
博物館機能強化のための研究 文化財科学に関する各分野を専門とする		
《担当資料》 資料全般の保存環境	氏名	専門分野
	赤田 昌倫	保存科学
	大江 克己	保存科学
古田嶋 智子	保存科学	
【教育グループ】		
博物館機能強化のための研究 教育に関する各分野を専門とする		
《担当資料》 教育普及資料	氏名	専門分野
	奥山 英登	博物館教育・科学教育
	笹木 一義	博物館学・博物館教育
	市川 暢子	教育学
	八幡 巴絵	アイヌ文化（生活文化）
	永石 理恵	博物館教育
カサド パルド ケラール	博物館教育	
【国際オフィス】		
博物館の多言語化及び国際交流に関する分野を専門とする		
主担当	氏名	専門分野
多言語化	シン ウォンジ	地質学
多言語化	劉 高力	文化人類学
多言語化	市川 暢子	教育学
多言語化	呉 松旆	文化人類学
国際交流	谷地田 未緒	文化政策

II -02 運営組織

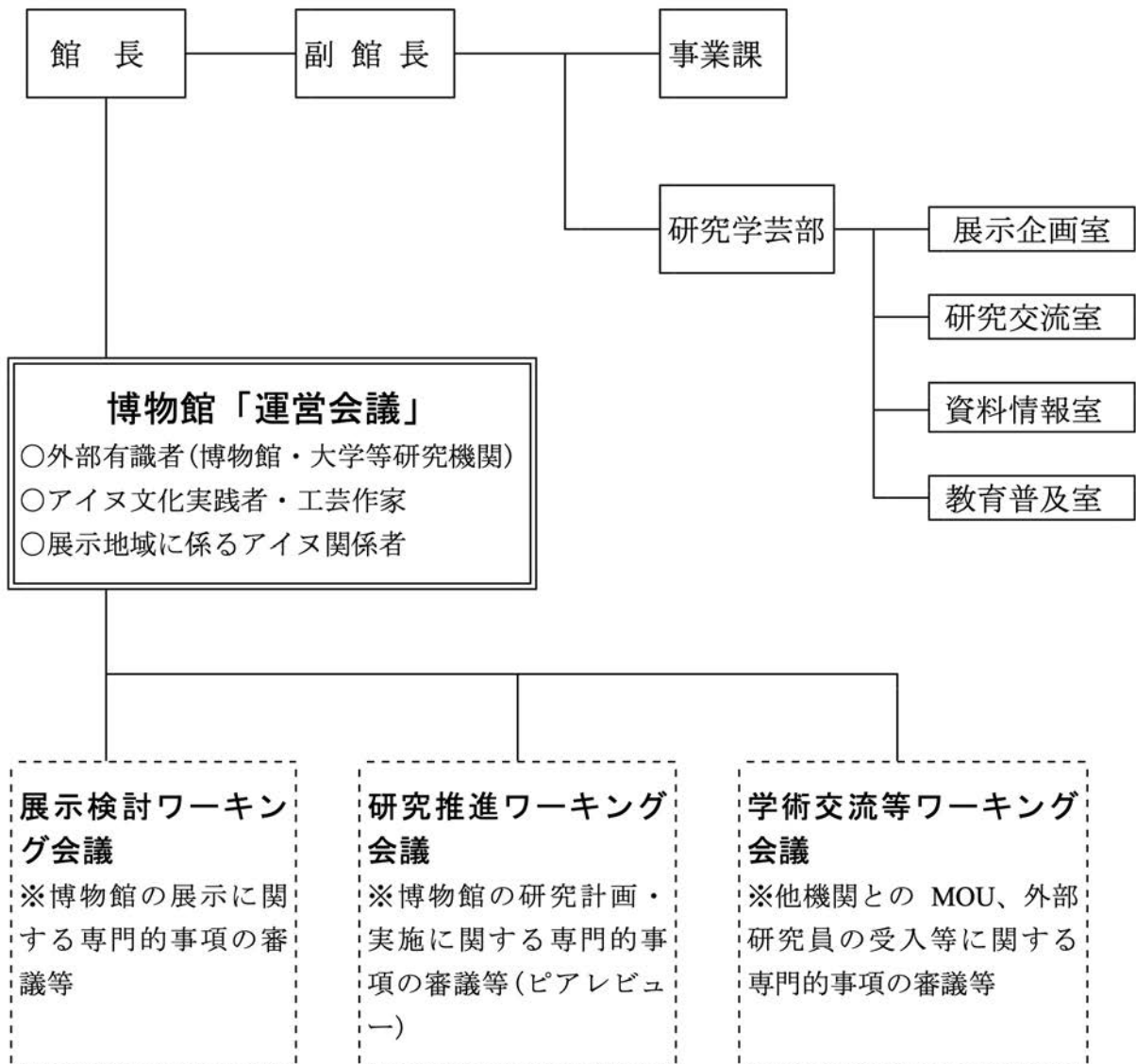
II -02-01 国立アイヌ民族博物館運営会議

当館では、「博物館の展示及び学術研究等に関する専門事項について、外部有識者及びアイヌ文化実践者等アイヌ関係者（以下「外部有識者等」という）の意見を聞くため」（公財ア事業第51号『国立アイヌ民族博物館運営会議設置要領』（2020年10月30日国立アイヌ民族博物館長裁定）第1条より）、運営会議を置いている。

なお、本運営会議は決定機関ではなく、諮問機関である。

1) 組織

当運営会議では、同要領第3条第4項に基づき、下にワーキング会議を設置している。それに必要な事項は運営会議の座長が別に定めるとあり、また、その構成員も座長が委嘱する。



国立アイヌ民族博物館運営会議組織図

2) 2024（令和6）年度運営会議構成員（五十音順）

氏名	所属・職
宇梶 剛士	俳優
小川 哲也	北海道アイヌ協会 副理事
小川 正人	北海道博物館 学芸副館長
○貝澤 和明	北海道アイヌ協会 事務局長
齋藤 玲子	国立民族学博物館 准教授
◎佐々木 利和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター 招へい教員
品川 欣也	東京国立博物館 学芸企画部企画課海外展室 室長
田澤 守	樺太アイヌ協会 会長
谷本 晃久	北海道大学大学院文学研究院 教授
廣野 洋	阿寒アイヌコンサルン 代表

◎：座長、○：副座長

3) 開催状況

2024（令和6）年度には以下の日程と議題で会議を開催した。

日時：2025年3月25日（火）13:00～15:00

会場：国立アイヌ民族博物館 1階 交流室

議題：

1. 審議事項
 - (1) 議長と副議長の選出
2. 報告事項
 - (1) 令和6年度の博物館の運営状況について
 - (2) 令和7年度の博物館の事業計画について
 - (3) 各ワーキング会議の報告
 - ・研究推進検討ワーキング会議の報告
 - ・展示検討ワーキング会議の報告
 - ・学術交流等ワーキング会議の報告
3. 諮問事項
 - 博物館の中期計画について
4. その他

4) ワーキング会議開催状況

2022年度の運営会議での諮問に基づき、展示検討、研究推進、学術交流等の3つのワーキング会議を組織し、展示、研究、学術交流等の3つの業務について、意見を求め、それに基づき、各業務の改善を図った。

① 展示検討ワーキング会議

2024（令和6）年度構成員（五十音順）

秋辺 日出男	阿寒アイヌ工芸協同組合専務理事 演出家
○大坂 拓	北海道博物館 学芸主査
岡田 育子	アイヌ文様刺繍サークルフッチコラチ 代表

貝澤 和明	北海道アイヌ協会 事務局長
貝澤 珠美	TAMA kor design ～タマ コロ デザイン 代表
北原 モコットゥナン	北海道大学アイヌ・先住民研究センター 教授
佐藤 優香	東京大学大学院情報学環 客員研究員
関根 真紀	二風谷民芸組合 工芸家 デザイナー
百瀬 響	北海道教育大学教育学部札幌校 教授

○：座長

開催状況

◆第1回ワーキング会議

日時：2024年5月29日（水）13:30～15:30

場所：国立アイヌ民族博物館 1階 交流室（オンライン対面併用ハイブリッド開催）

検討事項：

- (1) 基本展示室に関する事項
- (2) その他

◆第2回ワーキング会議

日時：2025年1月23日（木）13:00～15:00

場所：国立アイヌ民族博物館 1階 交流室（オンライン対面併用ハイブリッド開催）

報告事項：

- (1) パノラミックロビーの改善について
- (2) 「イランカラマテ像」の一時設置について
- (3) シアター新規映像について

検討事項：

- (1) 基本展示に関する事項—R6 基本展示改善
 - 1-1. ゾーニング（案）
 - 1-2. 歴史展示新規グラフィック（案）
 - 1-3. 次年度の計画
- (2) 特別展示に関する事項
- (3) その他

② 研究推進ワーキング会議

2024（令和6）年度構成員（五十音順）

秋山 純子	独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所保存科学研究センター保存環境研究室長
五十嵐 聡美	元北海道立近代美術館 学芸部長
鶴澤 加那子	北海道大学国際連携研究教育局 (GI-CoRE) 先住民・文化的多様性研究グローバルステーション (GSI) 助教
小川 義和	立正大学教授 / 埼玉県立川の博物館 館長
鈴木 信	公益財団法人北海道埋蔵文化財センター 常務理事
○谷本 晃久	北海道大学大学院文学研究院 教授

中川 裕	千葉大学名誉教授
------	----------

○：座長

開催状況

◆第1回ワーキング会議

日時：2024年7月2日（火）9:15～11:30

場所：国立アイヌ民族博物館 オンライン（zoom）併用

検討事項：

- (1) 調査研究事業実施要項の改正について
- (2) R6年度調査研究プロジェクト新規申請課題について
- (3) R6年度調査研究プロジェクト課題の変更について
- (4) その他

◆第2回ワーキング会議

日時：2025年2月1日（土）16:00～17:30

場所：国立アイヌ民族博物館 オンライン（zoom）併用

検討事項：

- (1) R7年度調査研究事業について
- (2) R7年度調査研究プロジェクト（基幹研究A）新規課題について
- (3) R6年度調査研究事業に関わる報告
- (4) その他

③ 学術交流等ワーキング会議

2024（令和6）年度構成員（五十音順）

小川 正人	北海道博物館 学芸副館長
○加藤 博文	北海道大学アイヌ・先住民研究センター 教授
齋藤 玲子	国立民族学博物館 准教授
品川 欣也	東京国立博物館学芸企画部企画課海外展室 室長
本田 優子	札幌大学アイヌ文化教育研究センター長

○：座長

開催状況

日時：2024年11月22日（金）10:00～12:00

場所：国立アイヌ民族博物館 オンライン併用

検討事項：

- (1) 本会議に関連する事項についての報告
- (2) 国内外の博物館及び大学等研究・教育機関との学術交流に関する事項
- (3) 外部研究者の博物館への受入及び称号付与に関する事項
- (4) 学術交流の推進に関する事項
- (5) その他

II -02-02 国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会

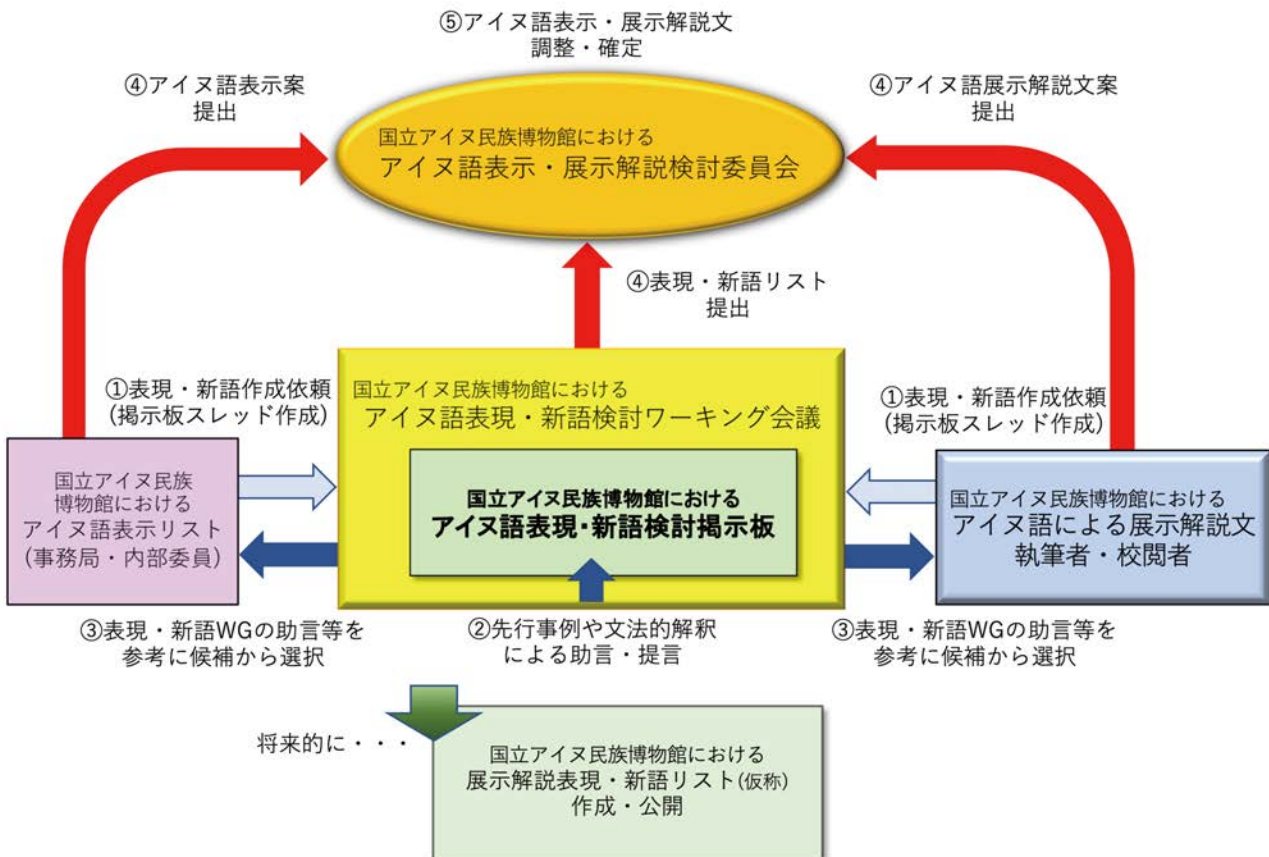
博物館におけるアイヌ語の表示と展示に用いるアイヌ語の表記の方法、方言の選定、新しい言葉の作成に際してのガイドラインなどについて検討するために、2017（平成29）年度に当時の（公財）アイヌ文化振興・研究推進機構が「国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会」を設置した。また、この委員会の設置要綱第3条第3項に基づいて、博物館で使用される数多くの専門用語をアイヌ語で表現するための新しい言葉について議論するために、同財団は2018（平成30）年度に「国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表現・新語検討ワーキング会議」を設置した。

この委員会とワーキング会議は、当初は博物館内のアイヌ語の表示について検討することが主目的だった。しかし、ウポポイ（民族共生象徴空間）全体でのアイヌ語のあり方についての議論が必要になったために、事実上ウポポイにおけるアイヌ語表示についての議論をする委員会とワーキング会議となった。

この委員会とワーキング会議は2020（令和2）年度の博物館の正式な発足に伴い、設置母体が博物館に変更された（委員委嘱者が財団理事長から博物館長に変更）。

1) 国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語検討の仕組み

アイヌ語表示・展示解説文作成イメージ



2) 2024（令和6）年度アイヌ語表示・展示解説検討委員会構成員

氏名	所属・職
大須賀 るえ子	白老楽しく・やさしいアイヌ語教室 講師
奥田 統己	札幌学院大学人文学部 教授
萱野 志朗	萱野茂二風谷アイヌ資料館 館長
◎北原 モコットウナン	北海道大学アイヌ・先住民研究センター 教授
○佐藤 知己	北海道大学大学院文学研究院 教授
関根 健司	平取町教育委員会生涯学習課アイヌ文化学習係 主幹
中川 裕	千葉大学名誉教授
中村 吉雄	千歳アイヌ協会 会長
村木 美幸	アイヌ民族文化財団民族共生象徴空間運営本部 本部長

◎：委員長、○：副委員長

3) 2024（令和6）年度アイヌ語表現・新語検討ワーキング会議構成員

氏名
奥田 統己
神崎 雅好
○北原 モコットウナン
葛野 大喜
◎佐藤 知己
関根 健司
浜田 隆史

◎：座長、○：副座長

4) 2024（令和6）年度実施状況

2024（令和6）年度には以下の日程で委員会とワーキング会議を開催した。

◆第1回委員会

日時：2024年8月22日（木）10:00～12:00

会場：国立アイヌ民族博物館 交流室（オンラインシステムを併用）

1. 開会
2. 委員長・副委員長の選出
3. 議事
 - (1) 今後のスケジュールについて
 - (2) ウアイヌコロ宣言について
 - (3) アイヌ語表現・新語検討について
 - (4) UPOPOY ガイドアプリについて
 - (5) その他
4. 閉会

◆第2回委員会

日時：2025年3月17日（月）10:00～12:00

会場：国立アイヌ民族博物館 研修室（オンラインシステムを併用）

1. 開会

2. 議事

(1) アイヌ語の解説文について

(2) 表現・新語の検討について

(3) 今後の予定について

(4) その他

3. 閉会

◆第1回ワーキング会議

日時：2025年2月14日（金）13:30～15:30

会場：国立アイヌ民族博物館 交流室（オンラインシステムを併用）

1. 開会

2. 座長・副座長の選出

3. 議題

(1) 表現・新語検討

(2) その他

4. 閉会

II -02-03 その他の運営組織

1) 外部委員を含むもの

アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク運営委員会（詳細はIV -04 参照）

国立アイヌ民族博物館鑑査会議（詳細はIV -05 参照）

国立アイヌ民族博物館買取協議会（詳細はIV -05 参照）

国立アイヌ民族博物館買取評価（詳細はIV -05 参照）

国立アイヌ民族博物館寄贈評価（詳細はIV -05 参照）

2) 館内の会議、委員会

博物館連絡会議

博物館全体連絡会議

情報セキュリティ委員会

広報委員会

図書委員会

印刷物等編集委員会

III 施設

III -01 施設概要

III -01-01 整備の基本方針

民族共生象徴空間の中核施設となる博物館として以下の方針にて整備

- ポロト湖畔の自然景観等、周辺環境との調和
- アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点
- 国内外の多様な人々に向けたアイヌの歴史・文化等の発信拠点

III -01-02 施設概要

建設場所：北海道白老郡白老町若草町（民族共生象徴空間内）

延べ面積：約 8,600m²（1階：3,500 m²、2階：4,800 m²、3階：300 m²）

規模：地上3階

構造：鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造

設計：久米設計

建築：竹中・田中特定建設企業体



III -02 建物の整備の基本方針と計画内容

（文化庁ホームページ「国立アイヌ民族博物館 建物基本設計」より）

基本方針① ポロト湖畔の自然景観等、周辺環境との調和

○自然豊かなポロト湖畔周辺の景観との調和

- ・ポロト湖畔周囲に広がるすり鉢状の山並みや自然林とゆるやかに連続する建物形状
- ・展示室ロビーにポロト湖畔が眺望できるスペースを確保

○国立民族共生公園と一体となった魅力ある空間の創出

- ・来館者が公園と相互に利用できるよう、公園入口側とポロト湖畔側にエントランスを設置

基本方針② アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点

○来館者がアイヌの歴史・文化に親しみやすい平面計画

- ・展示室ロビーから導入展示を経て展示室へ導く、期待感を高められる動線計画
- ・映像や音声でアイヌ文化を紹介するシアター、アイヌ文化の講座や講演会を行うスペースを用意

○確実な資料保存や研究に必要な空間の確保

- ・貴重な資料を展示、収蔵するため、展示室や収蔵庫の適切な環境を維持するとともに、調査・研究に必要なスペースを用意

基本方針③ 国内外の多様な人々に向けたアイヌの歴史・文化等の発信拠点


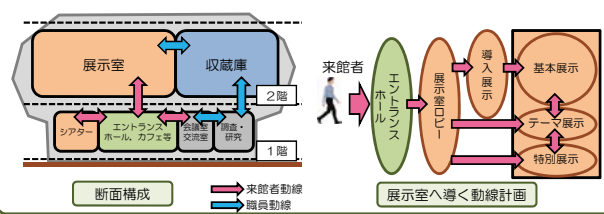
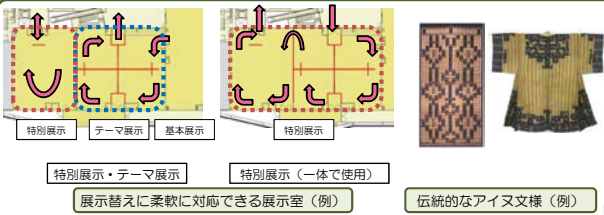
○展示替えに対応できる展示室

- ・展示室に可動間仕切り壁を設置し、国内外の博物館等の資料による企画展・巡回展の展示替えに柔軟に対応

○多言語対応、アイヌ文様の活用

- ・アイヌ語、日本語、英語等多言語に対応したサイン（案内表示）計画
- ・アイヌの伝統的な文様をエントランス周囲の外壁やガラス面に表現

国立アイヌ民族博物館 建物の整備の基本方針と計画内容

<p>【基本方針①】 ポロト湖畔の自然景観等、周辺環境との調和</p> <p>○自然豊かなポロト湖畔周辺の景観との調和</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポロト湖畔周囲に広がる、すり鉢状の山並みや自然林とゆるやかに連続する建物形状 ・展示室ロビーにポロト湖畔が眺望できるスペースを確保 <p>○国立民族共生公園と一体となった魅力ある空間の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者が公園と相互に利用できるよう、公園入口側とポロト湖畔側にエントランスを設置 	 <p style="text-align: center;">ポロト湖周辺の自然との調和 ポロト湖畔を眺望できる展示室ロビー</p>
<p>【基本方針②】 アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点</p> <p>○来館者がアイヌの歴史・文化に親しみやすい平面計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示室ロビーから導入展示を経て展示室へ導く、期待感を高められる動線計画 ・映像や音声でアイヌ文化を紹介するシアター、アイヌ文化の講座や講演会を行うスペースを用意 <p>○確実な資料保存や研究に必要な空間の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴重な資料を展示、収蔵するため、展示室や収蔵庫の適切な環境を維持するとともに、調査・研究に必要なスペースを用意 	 <p style="text-align: center;">断面構成 来館者動線 観覧動線</p> <p style="text-align: center;">展示室へ導く動線計画</p>
<p>【基本方針③】 国内外の多様な人々に向けた アイヌの歴史・文化等の発信拠点</p> <p>○展示替えに対応できる展示室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示室に可動間仕切り壁を設置し、国内外の博物館等の資料による企画展・巡回展の展示替えに柔軟に対応 <p>○多言語対応、アイヌ文様の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ語、日本語、英語等多言語に対応したサイン（案内表示）計画 ・アイヌの伝統的な文様をエントランス周囲の外壁やガラス面に表現 	 <p style="text-align: center;">特別展示 テーマ展示 基本展示 特別展示</p> <p style="text-align: center;">特別展示・テーマ展示 特別展示（一体で使用）</p> <p style="text-align: center;">展示替えに柔軟に対応できる展示室（例） 伝統的なアイヌ文様（例）</p>

文化庁ホームページ「国立アイヌ民族博物館 建物基本設計」より

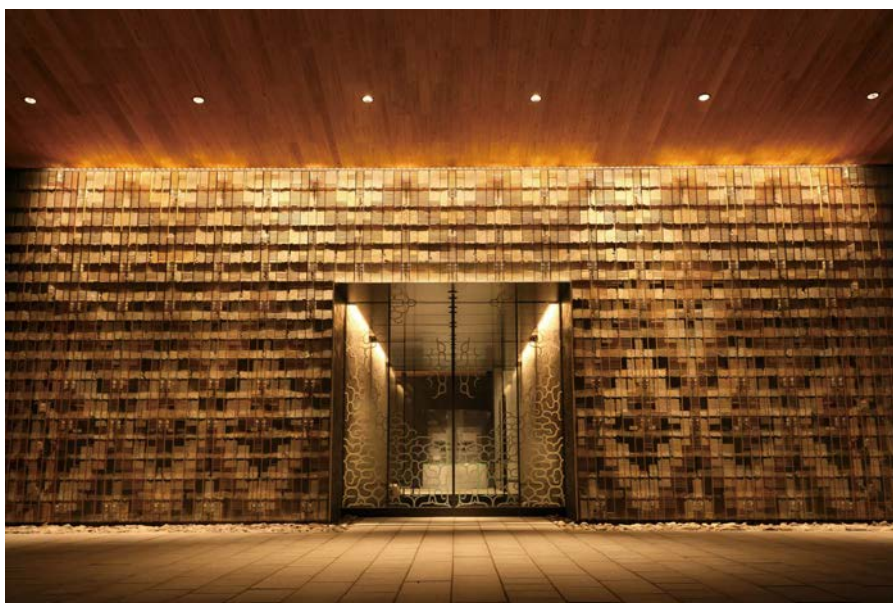
参考：博物館の建物を飾るアイヌの伝統的な文様について

博物館内には要所要所にアイヌ文様を図案化した模様を入れている。

例えば、博物館の正面エントランスの自動ドアの周囲には、アイヌのゴザ文様を図案化した模様を金属板で表現し、自動ドアのガラス面には衣服の文様にヒントを得た模様を入れて、この博物館がアイヌ文化を展示する博物館であることを強調している。また、透明なガラスに貼り付ける衝突防止用シートにも、アイヌ文様を図案化した模様を使用している。

1階ロビーからエレベータールームに向かう入り口の自動ドアには、アイヌの衣服に使われる切り伏せと刺繍の文様を施し、同じ模様をインフォメーション奥の壁面に投影している。また、1階と2階のトイレの洗面台の鏡にもアイヌ文様を図案化した模様を入れた。

これらの文様、模様はいずれも、文化伝承者でアイヌの服飾や刺繍を数多く手がけてきた津田命子氏がデザインしたものである。

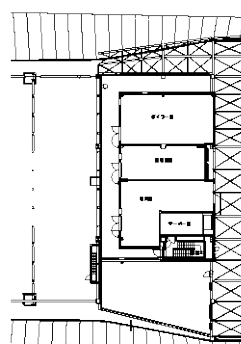
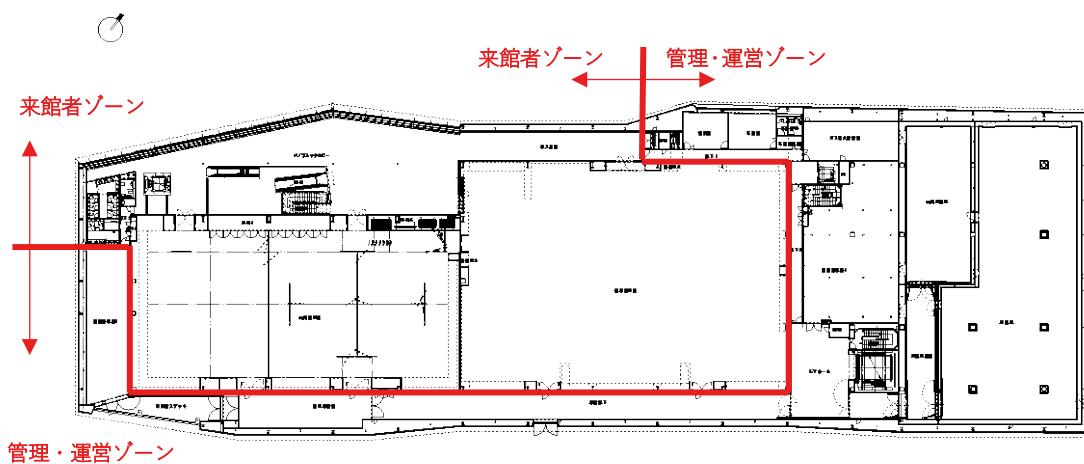
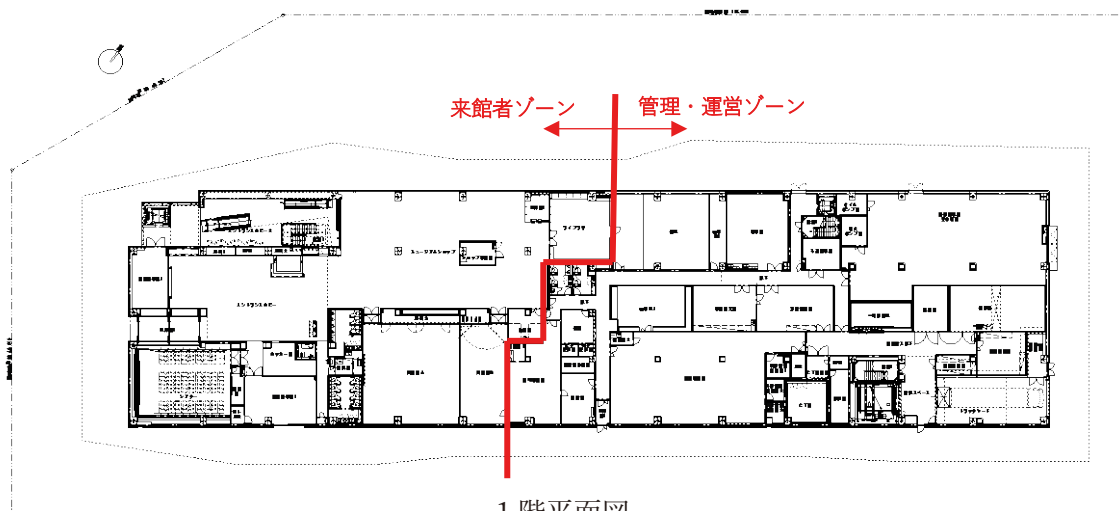


正面エントランスを飾るゴザ文様を図案化した模様



1階ロビーからエレベータールームへ続くドアのアイヌ文様

III -03 建物の平面図



III -04 1 階の施設

1 階の施設は一般来館者を迎え入れる「来館者ゾーン」と博物館のバックヤードである「管理・運営ゾーン」とに大別できる。

○ 来館者ゾーンの施設

風除室、エントランスロビー、シアター、交流室、ライブラリ、ミュージアムショップ、ロッカー室、救護室、トイレ、階段、エレベーター、エスカレーター

○ 管理・運営ゾーンの施設

管理事務室、警備員室、休憩室、調査研究室、物品庫 1、書庫、物品庫 2、研修室、修復復元室、分析実験室、CT 室、資料一時保管庫、燻蒸室、撮影室、梱包荷解室、トラックヤード、資料整備室、機械室

ここでは、そのうち主立った施設を紹介する。

III -04-01 1 階来館者ゾーンの施設

アパ サム（エントランスロビー）

大勢の来館者を迎えるため、風除室を 2 重とすることで館内空気環境の安定と防虫対策を行った。さらに、2 階の展示室に向かうエスカレーター等の交通部分を区画することで、より一層の防虫対策を図った。エントランスロビー壁面にはアイヌ語をはじめとした多言語による館内案内が映像で表示される。2 階の展示室に向かう動線には、6 面マルチモニターによる「アイヌ文化ゆかりの地ガイド」があり、アイヌ民族のこれまでの歩みや、現代のアイヌ文化に触れられる場所を紹介する。



イランカラパテ像設置後のエントランスロビー

また、2024年12月3日から藤戸竹喜氏、貝澤幸司氏、貝澤徹氏、貝澤守氏、貝澤貢男氏、瀧口政満氏、藤戸幸夫氏共同制作の「イランカラブテ像」の展示を行っている。本作品は、一般社団法人札幌大学ウレシパクラブが、ウレシパカンパニーの協力を得て、札幌駅西口コンコースに設置したモニュメントで、札幌駅リニューアル工事に伴い、当館で展示することになった。



イランカラブテ像

イノカスカラ トウンブ（シアター）

1階にはアイヌ文化を大画面映像でわかりやすく紹介するシアターがある。座席数96席、入場無料。現在用意しているプログラムは2本で、どちらも上映時間は約20分である。映像プログラム「アイヌの歴史と文化」では、人類が日本列島にやってきてから現代までのアイヌ民族の歴史と文化について解説する。

また、映像プログラム「世界が注目したアイヌの技」では、18世紀以降、世界から高い注目を集め、ヨーロッパとアメリカの博物館に約1万点收藏されているアイヌ民族資料について紹介する。



建物完成直後のシアター（両写真とも提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

ウウェネウサラ トウンブ（交流室）

館主催の教育普及事業や修学旅行での説明会（「はじめてのアイヌ博」）など来館者対応に利用する他、館の会議や研究集会、研修、ウポイ全体での集会や会議など多目的に利用するためのスペース。スクリーン、プロジェクター、ホワイトボード、演台、マイク・スピーカースystem、ビデオカメラなどプレゼンや会議に必要な装置を備える。

間仕切りによってAとBの区画に区切ることが



交流室

できる。

広さ：約 274 m²（交流室 A：約 186 m²、交流室 B：約 88 m²）

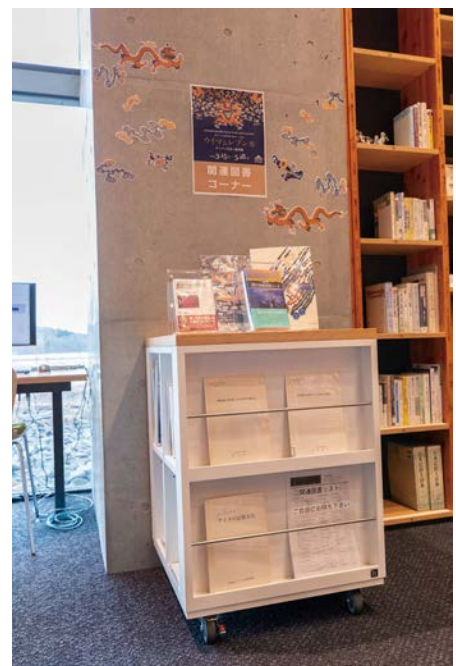
最大収容人数 A・B合わせて 169 名

カンピソシヌカラ トウンブ（ライブラリ）

アイヌに関する書籍を閲覧できるライブラリは、立ち寄りやすいようにガラスの間仕切りとし、室内の壁面には CLT で制作した棚を配置した（国土交通省北海道開発局営繕部編『国立アイヌ民族博物館事業記録』2020 年、p.76）。開館後は開架式図書室として、2023 年 5 月からの新型コロナウイルス感染症第 5 類移行に対応しながら運用している。



ライブラリ外観



ライブラリ小展示
（「ウイマムレプンカ サンタン交易と蝦夷錦」展）



ライブラリ内部

イコロマケンル イホク ウシ

（ミュージアムショップ）

1階北側の湖に面した空間にミュージアムショップが設置されている。ここでは木彫、刺繍などのアイヌ工芸品の他、アイヌ文様をデザイン化した商品、アイヌ料理の缶詰・レトルト食品、アイヌの歴史と文化についての書籍などを販売している。また、コーヒー他の飲料も販売され、湖に面した席で軽い飲食も可能。



ミュージアムショップ

チエトウン スウォブ オマ トウンブ（ロッカー室）

博物館内を快適に観覧できるよう、荷物を一時的に保管するコインロッカーを180基設置した（解錠時にコインは返還）。



ロッカー室

イカオイキ トウンブ（救護室）

来館者の急な体調不良などに備え、来館者ゾーン内に救護室を設けた。

2基のベッドと洗面台を備えており、体調不良の来館者が一時的に休憩できるようにしている。



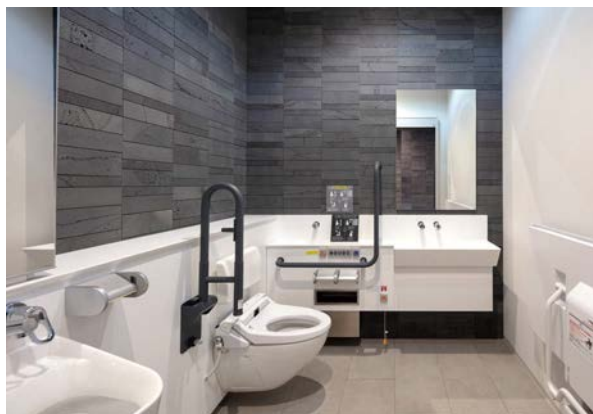
救護室

アシナル・セッ アシナル

(トイレ・バリアフリートイレ)

来館者ゾーンの1階と2階のトイレには必ずバリアフリートイレを設置し、障がいを持つ人だけでなく、様々なニーズを持つ人が利用できるようにした。

また、男女のトイレの手洗い場の鏡に津田命子氏デザインのアイヌ文様を図案化した模様を施し、トイレ空間に華やぎを持たせた。



バリアフリートイレ (写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部)



手洗い場の鏡のアイヌ文様 (写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部)

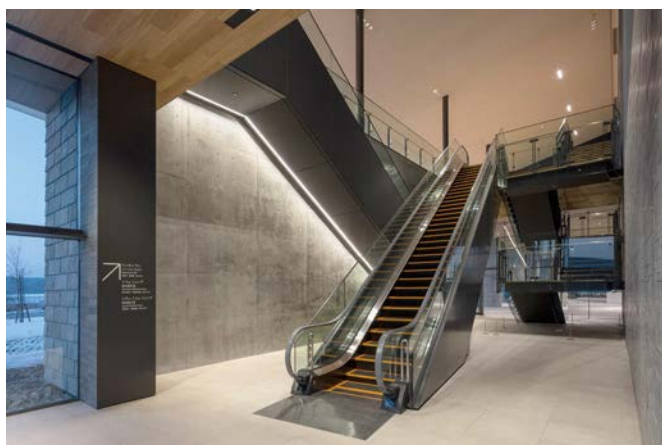


2階トイレ洗面台 (写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部)

ニカラ、トゥシエリキンペ、シモイエニカラ

(階段、エレベーター、エスカレーター)

1階ロビーから展示室へと向かう扉の向こうに広がる吹き抜けに、エレベーター、エスカレーター、階段が設置され、1階と2階とをつないでいる。エレベーターには内部に手すりが設けられ、日英のアナウンスが流れ、点字表示がなされている。



エスカレーター (写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部)



階段 (写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部)

III -04-02 1階管理・運営ゾーンの施設

キャンパスイェ トウンブ（調査研究室）

研究学芸部の研究員、学芸員が研究業務に従事する部屋である。広大な一間だが、中をブースで仕切り、研究に集中できる環境を整えている。打合せ用のブースとテーブル、研究員、学芸員がすぐに必要とする図書、資料等を収納する書棚、コピー・印刷機なども設置されている。

調査研究室に隣接して映像音響室が3室並び、また、各課、室の必要な書類等を収納するための物品庫も設けられている。



建物完成直後の調査研究室（写真提供：北海道開発局営繕部）



現在の調査研究室



トリプルトゥレップン

ヤイパカシス トウンブ（研修室）

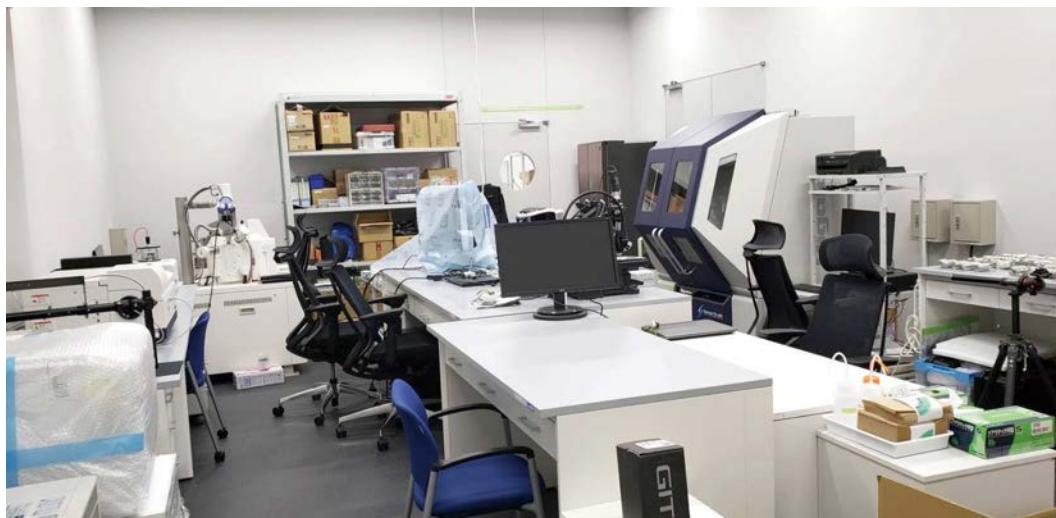
研修室は会議、打合せ、研究会、研修、資料熟覧など多目的に使える部屋である。食文化に関する研修もできるように水道、流し台、給湯設備も設けられている。また、ホワイトボードの他、モニター、マイクロフォン、スピーカーなどペーパーレスの会議やリモート会議、各種プレゼンにも対応できる設備も備えた。普段は机をロの字型に並べた会議形式の調度配置をしているが、用途に応じて机、椅子の並びは自由に変更できる。



研修室（左：窓方面、右：出入口方面）

イコロ ウンテ トウンブ (分析調査室)

当館では収蔵資料の科学分析も調査研究の一環として重視しており、またその成果を展示に活用している。当館で使用する分析機器には、蛍光X線分析装置、携帯型蛍光X線分析装置、X線回折装置、走査電子顕微鏡、X線CT装置、レントゲン装置、デジタルマイクロスコープ、三次元蛍光分光分析装置、ハイパースペクトルカメラ、キセノン型耐候試験機、純水製造装置、恒温恒湿装置、恒温装置、真空凍結乾燥機、3Dプリンタ、3Dスキャナがある。



分析調査室



蛍光 X 線分析装置

資料表面の元素分析を行う装置。アイヌ民族資料の中で、特に金属製品や絵画資料の調査に利用。鉄 (Fe) や銅 (Cu) の様に、資料を構成する元素分析から、利用された材料の調査を行う。



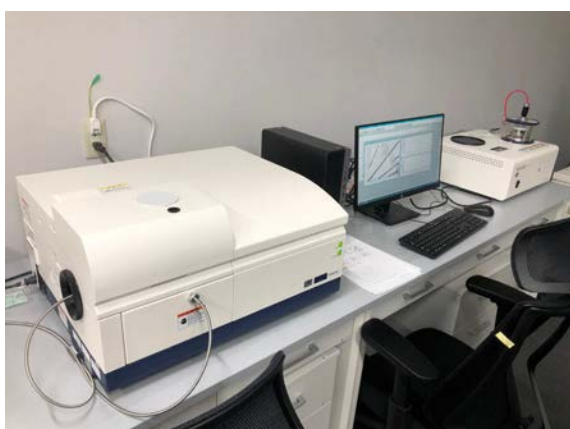
X 線回折装置

資料表面の化合物を調べる装置。アイヌ民族資料の中で、特に金属製品の調査に利用。例えば、鉄を調査した場合、酸化鉄 (Fe_3O_4) か塩化鉄 (FeCl_2) など、化合物の情報が得られる。この情報を基に、劣化具合の判断や修復方法の検討を行う。



走査電子顕微鏡

資料表面を数万倍まで拡大し観察する装置。拡大面の元素分析も可能。アイヌ民族資料の脱落片（繊維片、漆片、金属片等）の調査から、素材の加工法等を観察する。



三次元蛍光分光分析

資料表面の光学情報を捉える装置。アイヌ民族資料中で、特に染色製品（衣類等）の調査に利用。退色や繊維の劣化の様子などを調査し、劣化診断やコンディション向上に関する検討を行う。

分析調査室・CT室の利用について

★導入した分析装置一覧

・内部構造調査装置

調達機器
X線CT装置
レントゲン装置

・材質調査装置

調達機器
蛍光X線分析装置
携帯型蛍光X線分析装置
X線回折装置
三次元蛍光分光分析装置
ハイパースペクトルカメラ

・表面等観察装置

調達機器
走査電子顕微鏡
電動型ズーム顕微鏡、実体顕微鏡
デジタルマイクロスコープ
3Dスキャナ（広域用・高精細用）
3Dプリンタ

・処置装置類

調達機器
恒温恒湿装置
恒温装置
真空凍結乾燥機
生物処理装置（二酸化炭素殺虫処理装置）
キセノン型耐候試験機

CT トランプ (CT室)

当館には最新のコンピュータ断層撮影装置 (X線 CT) を備えた分析室がある。X線の漏洩を防ぐため、壁、天井、床は鉛張りとなっている。



X線断層撮影装置 (CT)

X線断層撮影装置 (CT) の概要

資料内部を三次元的に観察できる装置。アイヌ民族資料の中でも立体物の調査に利用。非破壊で安全に資料構造の把握や内面加工の観察ができる。

機器寸法 左右幅：約 3,760mm 総高：約 2,900mm 奥行：約 980mm

撮影範囲 高さ：1,400mm 程度 直径：600mm 程度

特 徴 ・アイヌ民族資料に合わせ装置性能を設計。

- ・金属製品等の資料を調査する高出力管球と、木製品等の細部を調査する管球を有する。
- ・画像検出器は、フラットパネルを使用。



CT 解析画像の例

イパカレ トゥンプ（燻蒸室）

博物館に搬入した直後の展示・収蔵資料には、文化財を劣化させる害虫が付着していたり内蔵していたりする場合がある。この部屋は、害虫や蛹、卵等の生物処理（二酸化炭素処理）を行うための部屋である。害虫の付着が見られない場合の経過観察でも使用する。ただし、カビの除去はこの装置ではできないため、アウトソーシングしている。



二酸化炭素処理装置

イノカ ウクトゥンプ（撮影室）

展示図録や調査研究、資料管理等に使用するための写真を撮影する部屋。大型照明装置、資料の背景となるスクリーン、資料を置く机などが装備されている。また天井近くにはキャットウォークが設置されており、そこから床面に向かって真下に撮影することができる。



撮影室

III -05 2階の施設

2階の施設も1階と同様に一般来館者を迎え入れる「来館者ゾーン」と博物館のバックヤードである「管理・運営ゾーン」とに大別できる。

○ 来館者ゾーンの施設

パノラミックロビー、基本展示室（導入展示、プラザ展示、6テーマの展示、探究展示 テンパテンパ）、特別展示室、トイレ、エレベーター、エスカレーター

○ 管理・運営ゾーンの施設

展示準備室、収蔵庫前室、一般収蔵庫、特別収蔵庫、館長室、応接室、機械室

III -05-01 来館者ゾーンの施設

インカウシ（パノラミックロビー）

1階のエントランスロビーからエスカレーターで2階に上がると、まず目に飛び込むのはポロト湖の眺望とウポポイの全景である。それらを見渡すことができるこの大空間をパノラミックロビーと呼ぶことにしている。ここでは四季を通じてポロトの様々な姿を楽しむことができる。パノラミックロビー中央には、博物館のコンセプトを伝えるパネルや映像を設置している。



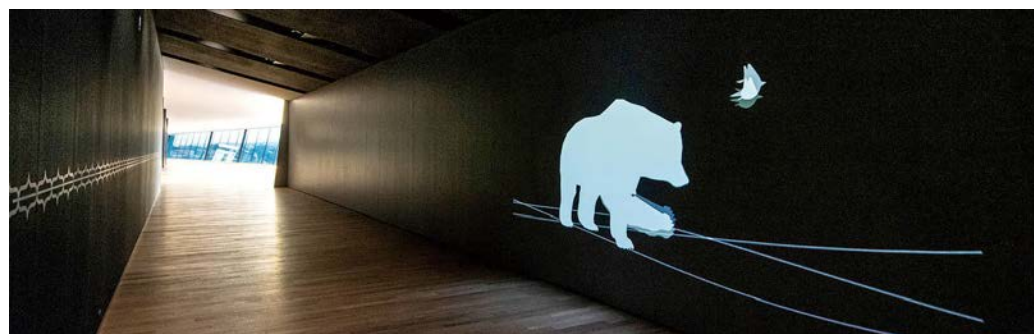
上：建物完成直後のパノラミックロビー 写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部 下：博物館のコンセプトを伝えるパネル

イコロ トウンブ（基本展示室）

約 1,250 m²ある基本展示室に設置されている基本展示は導入展示、プラザ展示、アイヌの視点で描く6つのテーマ（ことば、世界、暮らし、歴史、しごと、交流）、探究展示 テンパテンパから構成されている。

イアシケウク（導入展示）

ポロト湖を望むパノラミックロビーを抜けると、導入展示が始まる。そこでは、明かりを落としたトンネル状の空間にアイヌ民族を含む世界の諸民族が自分たちのことばであいさつする。その中からアイヌの人々が抜け出して、自分たちの活動を紹介します。世界の民族と出会い、そのひとつの民族であるアイヌの人々が来館者を展示室へ誘う。



導入展示（上：展示場入り口方向、下：待機画面）

アエキルシ（プラザ展示）

この博物館の展示の魅力のひとつは、プラザ方式という中心から周辺へと自由に展示室を回れる構成である。基本展示室の中央に設置したプラザにはアイヌ文化の粋を集めた、芸術品としても高いレベルにある作品を展示して、それを見るだけでもアイヌ文化の概略とすぐれた芸術性を理解できるようにしている。そして、より詳しく知りたい人には周辺の個別の展示を見て理解を深めてもらう構成となっている。



プラザ展示全景



プラザ展示（イナウ／女性の装い）

イタク（私たちのことば）

アイヌ語や口承文芸、地名やアイヌ語復興のための現在の取り組みを紹介する。資料の展示だけでなく、アイヌ語に親しめる空間にもなっている。いり端に座っているような気分でアイヌ語の語りを聞くことができるコーナーの他、アイヌ語の仕組みや発音を、ゲームを通して知ることができるコンテンツや、地名や会話についての映像もある。



私たちのことば全景



私たちのことば（囲炉裏）

イノミ（私たちの世界）

アイヌ文化の中で重要な位置を占める精神文化を紹介する展示。ありとあらゆるものにラマツ（靈魂）が宿るといふ世界観、その中で特に人間（アイヌ）と深い関わりを持つカムイという存在などアイヌの精神世界についてグラフィックを交えて解説する。樺太のクマの霊送り儀礼でクマを繋ぐ高さ6m余りの木の杭は当館で最大の展示物である。その周囲ではさまざまな儀礼に関わる諸道具を、使い方を含めて紹介する。



私たちの世界展示風景



私たちの世界（樺太アイヌのクマつなぎ杭）

ウレシバ（私たちの暮らし）

装い・食・住まいをはじめ音楽や舞踊、子どもたちの遊びにも触れながら、暮らしの文化について、道具や映像を通じて紹介する。衣服については、樹皮衣に使うオヒョウ樹皮の皮剥ぎから糸づくり、機織りまでを映像と織機類の実物で紹介する他、江戸時代以降に導入された木綿素材の衣服と刺繍についても展示する。また様々な食材と料理、伝統的な住居の構造、人の一生、伝統芸能、さらには伝承に携わる人々の取り組みなども映像や実物資料を交えて紹介する。



私たちの暮らし全景



私たちの暮らし
(d.1 今に受け継ぐ衣服と心、d.2 受け継がれる食文化)



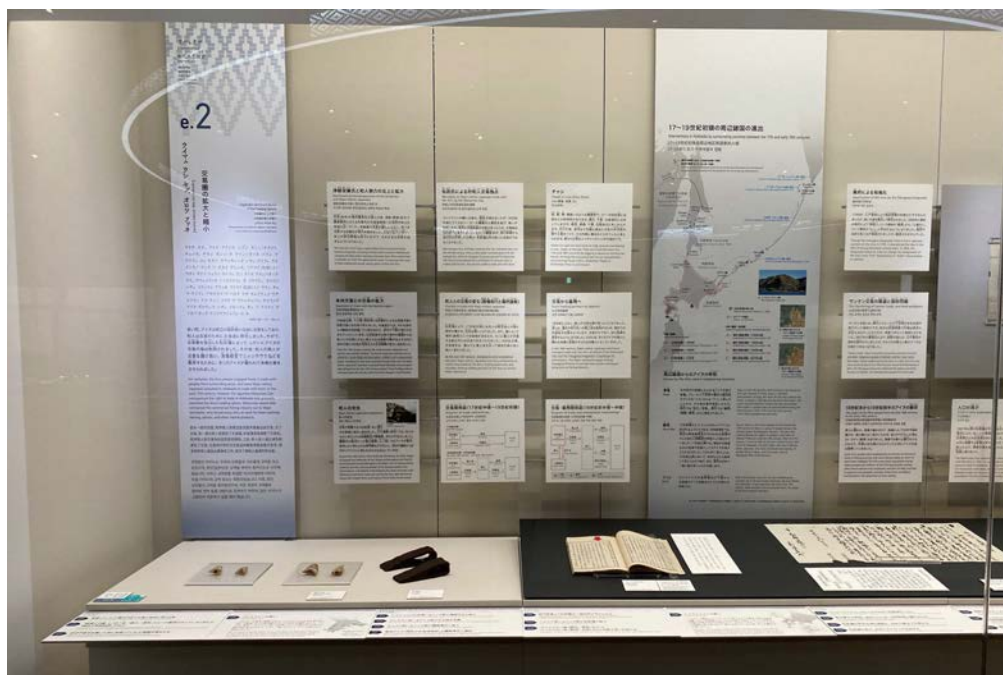
私たちの暮らし (d.3 住まう)

ウパクマ（私たちの歴史）

アイヌ民族が語り継ぎ、残してきた歴史と、周辺の民族が残したアイヌ民族の足跡を取り上げる。当館では北海道に人が移住してきた約3万年前から当館が開館する2020年までをアイヌ民族の歴史として、その視点で紹介する。上部壁面に事柄とそれに呼応する年代や地図が連動する年表が表示され、アイヌ民族の出来事を次々に紹介するとともに、展示ケースでは各時代をよく表す考古遺物や文書類、さらには実物資料を展示する。今年度、アイヌ民族の歴史に対する理解を促すために、解説文の改修を行った。



私たちの歴史全景



私たちの歴史（e.2 交易圏の拡大と縮小）

ネフキ（私たちのしごと）

アイヌ民族が過去から現在にわたって携わってきたしごとを取り上げる。前半は、狩猟・漁撈・農耕・採集など「伝統的」とされてきたしごとで使用された道具やその仕組みを紹介する。一年を通して行うしごとを検索するタッチパネルもある。後半では、明治以降に従事してきたしごとや工芸品を取り上げる。使う道具や作品などを通じて、現代のアイヌ民族の活動などを伝えるとともに、アイヌ民族が来館者と同じ時代を生きる人々であることを理解してもらう。



私たちのしごと展示風景



私たちのしごと（f.1 先祖のしごと）



私たちのしごと（f.3 現代のしごと）

ウコアツカシ（私たちの交流）

アイヌ民族を取り巻く周辺諸民族との過去から現在にいたるまでの交流を紹介する。展示のシンボルの一つとして北海道厚岸湖出土の板綴舟（厚岸町所蔵）を展示する。そのために厚岸町でクリーニング作業を行い、白老町に輸送後、展示に向けて微細クリーニング・補強処理作業を実施した。また、「北海道」という名称の名付け親である松浦武四郎の事績を紹介するコーナーも設けている。



私たちの交流全景



私たちの交流 (g.1 生活圏と海を越える交流)

イケレウシ「テンパテンパ」(探究展示 テンパテンパ)

体験を通じてアイヌ文化にふれることができるコーナー。ジオラマ・住居模型・タマサイ（首飾）作りキット、サケとシカの立体パズルなど、18の体験ユニットがあり、大人も子どもも楽しめる。来館者には探究展示とまわりの6テーマ展示を歩き来しながら、アイヌ文化への理解をさらに深めてもらうことをねらっている。(※「テンパテンパ」とは、「さわってね」という意味のアイヌ語。)



探究展示 テンパテンパ t.1



探究展示 テンパテンパ t.2

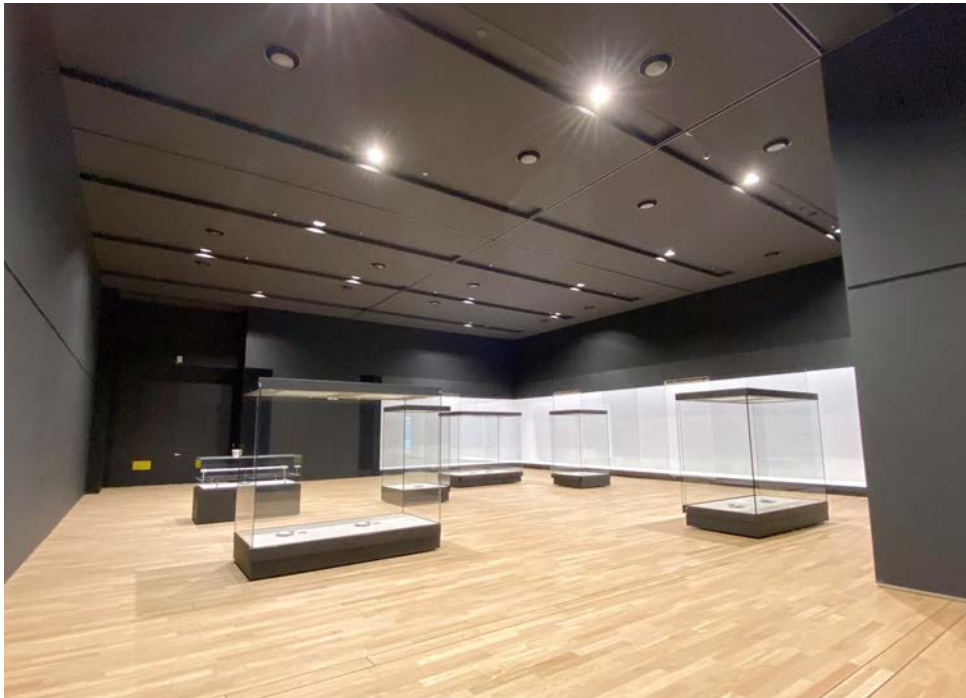


探究展示 テンパテンパ t.3

シサク イコロ トウンブ（特別展示室）

約 1,000 m²ある特別展示室は、規模の異なる特別展示とテーマ展示を実施するために、可動壁によって複数の部屋に仕切ることができる。

2024 年度は開催順に、第 8 回特別展示「生誕 90 年記念 藤戸竹喜の世界展」、第 9 回特別展示「驚異と怪異—想像界の生きものたち」、第 7 回テーマ展示「収蔵資料展」、第 8 回テーマ展示「ウイマムレプンカ サンタン交易と蝦夷錦」を実施した。



特別展示室



特別展示室

III -05-02 管理・運営ゾーンの施設

イコロプ（収蔵庫）

当館の収蔵庫は、収蔵庫前室、一般収蔵庫、特別収蔵庫からなる。

収蔵品は、着物、木製品、植物を利用した民具、動物の皮類、金属・石、絵画類、はく製、漆器類など多種多様である。そうした資料たちは、民具等の立体の資料から絵画等の平面の資料というように、多岐にわたる形状を有している。そこで、効率よく安全に収蔵して保管するために特注寸法の収蔵棚を設置した。また、東北地方太平洋沖地震や北海道胆振東部地震等の災害例を踏まえ、収蔵棚の本体構造は地震等による縦横の揺れが発生した場合でも容易に倒れないものとなっている。

収蔵庫前室、一般収蔵庫、特別収蔵庫ともに、24時間空調で温度20～22℃、湿度55%を維持することを目標としている。ただし、特別収蔵庫は漆器類を保管しているため、55%よりも若干高めに設定している。

将来的な収蔵資料の増加に備え、メザニン増設も可能な作りになっている。

イコロプセム（収蔵庫前室）

一般収蔵庫や特別収蔵庫が直接バックヤードに面しないための緩衝の役割を果たすとともに、計測器具、薄葉紙、マット等を収納しておくための部屋。資料情報の入力作業や簡易な資料調査も行うことが可能。

イコロプ（一般収蔵庫）

衣類、木製品、植物を利用した民具、動物の皮類、金属・石、絵画類、はく製、舟といった大型資料を収蔵している。



収蔵庫前室



一般収蔵庫全景（右側に舟を収納する棚）



イナウのような民具を立てて収納するための移動集密棚



棚上部には、資料落下防止対策として引き戸を備えている

シサク イコロ プ（特別収蔵庫）

素材により最適な温湿度条件が異なるため、特別収蔵庫にはシントコヤトウキといった漆器類を収蔵している。



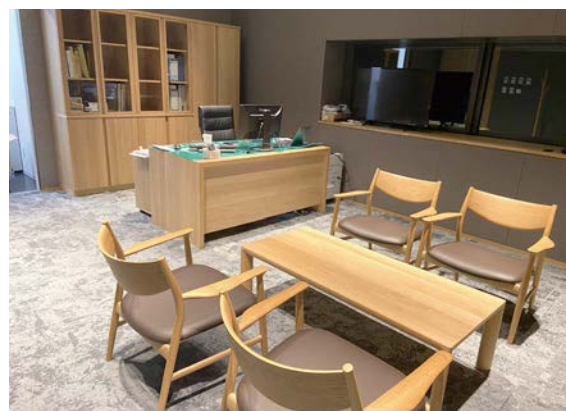
特別収蔵庫（棚設置前、写真提供：久米設計）



特別収蔵庫全景

サバネクル トウンブ（館長室）

館長の執務用のデスクと椅子、書類棚、給湯施設、少人数での打合せのためのテーブルと椅子が設置されている。ここでは4人までの打合せが可能。



館長室

ウエカッ トウンブ（応接室）

内外の賓客等を迎え入れることが可能な応接室。テーブル2脚と椅子8脚が設置され、最大8人での会合が可能。専用のトイレも完備されている。



応接室

IV 2024（令和6）年度事業

IV-01 2024（令和6）年度主要事項

2024年

(3月16日)

第6回テーマ展示：「ミナ ミナ『おぼけのマールとすてきなことば』展」開幕（会期：2024年3月16日～5月12日）

4月4日

葉袋浩之北海道環境生活部アイヌ政策監 視察

4月6日

盛山正仁文部科学大臣 視察

4月24日

ケ・ブランリ美術館 エマニュエル・カサエロー（Emmanuel Kasarhérou）館長 来館

4月27日

第6回テーマ展示関連イベント「ウポポイでマールがであったおともだち」

5月4日、5日

第6回テーマ展示関連イベント「なかいれいさんとおえかき」

5月12日

第6回テーマ展示関連イベント「ファミリー向けプログラム『ボン劇場』特別版」

5月14日

アイヌ政策推進北海道議会議員連盟 視察

5月15日

橋本幸国土交通省北海道局長 視察

6月5日

オーストラリア大使館 ジャスティン・ヘイハースト（Justin Hayhurst）大使 来館

6月8日

足立敏之参議院議員 視察

6月26日

アイリーン・マンロー（Irene Munro：ニール・ゴードン・マンロー医師ご令孫）氏 来館

土生栄二人事院人事官 視察

6月29日

第8回特別展示：「生誕90年記念 藤戸竹喜の世界展」開幕（会期：2024年6月29日～8月25日）

第8回特別展示関連イベント「ギャラリートーク」（本展展示企画監修 五十嵐聡美氏）

7月12日

國場幸之助国土交通副大臣 視察

7月15日

第8回特別展示関連スペシャルイベント 五十嵐聡美氏、藤戸康平氏のトークおよび映像鑑賞「全ては熊から教わった 木彫家 藤戸竹喜の世界」（映像提供：S T V札幌テレビ放送）

7月20日

高橋千鶴子衆議院議員 視察

7月24日

小泉龍司法務大臣 視察

8月25日

第8回特別展示関連イベント「ギャラリートーク」（本展展示企画監修 五十嵐聡美氏）

9月3日

今枝宗一郎文部科学副大臣 視察

9月5日

浦本元人北海道副知事 視察

9月14日

第9回特別展示：「驚異と怪異 想像界の生きものたち」開幕（会期：9月14日～11月17日）

第9回特別展示関連イベント「開会記念ギャラリートーク」（国立民族学博物館 山中由里子氏）

9月15日

第9回特別展示関連イベント「開会記念講演会『人はなぜモンスターを想像するのか？』」（国立民族学博物館 山中由里子氏）

9月17日

ウェールズ国際文化庁 エルネド・ハフ（Eluned Haf）氏、ニコラ・モーガン（Nicola Morgan）氏 来館

10月9日

中華人民共和国駐札幌総領事館 王根華総領事 来館

10月14日

第9回特別展示関連イベント「民博×アイヌ博クロストーク」（国立民族学博物館 山中由里子氏、イラストレーター 山丸ケニ氏）

10月26日

第9回特別展示関連イベント「対談＋ツアー『自然と幻獣 Natural Curiosities』」（国立民族学博物館 山中由里子氏、元海遊館館長 西田清徳氏）

10月29日

杉浦直紀法務省人権擁護局長 視察

11月7日

国立サーミ博物館 SIIDA（フィンランド・イナリ）と連携協定を締結

11月21日

伊東良孝内閣府特命担当大臣（地方創生・アイヌ施策） 視察

12月3日

エントランスロビーにてイランカラブテ像を展示

12月6日

ウェールズ政府 デイヴィド・ウォレン（David Warren）国際交流本部長 来館

12月14日

第7回テーマ展示：「収蔵資料展」開幕（会期：12月14日～2025年2月16日）

2025年

2月8日、9日

ホリデーイベント 動物の毛皮に触ってみようーアイヌ民族と北方先住民族の毛皮利用を知る・触るー
（共催：北極域研究加速プロジェクト（ArCSII）沿岸環境課題、北海道北方民族博物館）

3月15日

第8回テーマ展示：「ウイマムレブンカ サンタン交易と蝦夷錦」開幕（会期：2025年3月15日～5月18日）

第8回テーマ展示関連イベント「開会記念講演会『北方から来た交易民』」（館長 佐々木史郎）

3月22日

吉井章国土交通大臣政務官 視察

第8回テーマ展示関連講演会「間宮林蔵が歩いた足跡を追う 樺太（サハリン）・アムール・択捉島へ」（元北海道新聞記者／ノンフィクション作家 相原秀起氏）

IV -02 入館者数（月別）

新型コロナウイルス感染症対策の緩和により、博物館入館者数の制限を2022年9月24日に撤廃したことから、博物館入館者数はウポポイ入園者数とほぼ同数となる状況が続いていた。このため、2023年10月末で博物館入口での入館者数カウントを停止し、2023年度よりウポポイ入場者数を博物館入館者数と同等とみなすこととした。

ウポポイ入場者数（カッコ内は前年同月）

2024年

	ウポポイ月別	ウポポイ累計
4月	17,183 (15,881)	17,183 (15,881)
5月	32,113 (36,999)	49,296 (52,880)
6月	35,159 (39,101)	84,455 (91,981)
7月	34,873 (40,897)	119,328 (132,878)
8月	41,534 (45,670)	160,862 (178,548)
9月	39,510 (41,514)	200,372 (220,062)
10月	43,715 (41,529)	244,087 (261,591)
11月	27,156 (24,882)	271,243 (286,473)
12月	11,650 (10,705)	282,893 (297,178)

2025年

1月	10,530 (9,915)	293,423 (307,093)
----	----------------	-------------------

2月	12,919 (10,312)	306,352 (317,405)
3月	10,046 (15,692)	316,398 (333,097)

2024（令和6）年度ウポポイ入場者数



IV-03 展示

IV-03-01 基本展示における展示業務

1) 定期的な資料入替のため、基本展示室の展示資料について、以下の日程で展示替えを実施した。

- 第1回展示替え 2024年5月7日
- 第2回展示替え 2024年7月16日
- 第3回展示替え 2024年9月9日
- 第4回展示替え 2024年11月11日
- 第5回展示替え 2025年1月6日
- 第6回展示替え 2025年3月10日

2) 基本展示改善計画における展示改善業務

基本展示改善計画に則り、下記展示内容の改善及び新規展示物などの制作を実施した。

- ・パノラミックロビー 解説パネルの設置
- ・「私たちの歴史」グラフィックパネルの改修

IV-03-02 特別展示の企画立案・計画策定、開催

1) 第8回特別展示 「生誕90年記念 藤戸竹喜の世界展」

下記のとおり実施した。

主 催	国立アイヌ民族博物館、北海道新聞社
後 援	公益社団法人北海道アイヌ協会
実施会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実施期間	2024年6月29日（土）～2024年8月25日（日）[58日間]
入場者数	10,841名
入場料金	大人300円 高校生200円 中学生以下無料（ウポポイ入園料は別途）

概要

北海道を代表する木彫家、藤戸竹喜（ふじとたけき、1934-2018）は、少年期より熊彫りを始め、アイヌ民族の伝統的な彫りの技を受け継ぎながら、熊、狼、狐やシャチ、ラッコ、エビ、カニなど北に生きる動物たちや、先人たちの威厳あふれる肖像彫刻へと作域を広げ、独自の芸術世界を創造した。本展では、その芸術世界を以下の6つのテーマで構成した。

序章 旭川から阿寒へ、1章 樹霊観音、2章 エカシとフチ、3章 森羅の生命、4章 狼と少年の物語、終章 終わりのない旅

事業内容	出品協力及び展示数：鶴雅リゾート株式会社、一般財団法人前田一步園財団、正徳寺 約115点（木彫91点）
	関連事業： 外部講師による講演会、当館研究員及び学芸員によるギャラリートーク、映像上映会など計10回 <ul style="list-style-type: none"> ・スペシャルイベント 2024年7月15日（月） 五十嵐聡美、藤戸康平 ・ギャラリートーク 第1回 2024年6月29日（土） 五十嵐聡美 第2回 2024年7月14日（日） 第3回 2024年8月10日（土） 第4回 2024年8月11日（日） 第5回 2024年8月25日（日） 五十嵐聡美 ・映像上映会 上映作品「全ては熊から教わった 木彫家 藤戸竹喜の世界」（映像提供：STV札幌テレビ放送） 第1回 2024年6月30日（日） 第2回 2024年8月3日（土） 第3回 2024年8月17日（土） 第4回 2024年8月24日（土）
事業成果	藤戸竹喜の驚異的な仕事の全容を、初期から晩年に至る代表作約91点に加えて、藤戸竹喜が受け継ぎ、収集したアイヌコレクションをあわせて紹介した。生命あるものへの深い愛情に根ざした生氣あふれる表現と作家の木彫技術の高さ、さらにはアイヌ民具の収集に込められた思いを知らせることができた。
担当者	霜村紀子、関口由彦、鈴木建治、田村実咲



第8回特別展示：「生誕90年記念 藤戸竹喜の世界展」



第8回特別展示：「生誕90年記念 藤戸竹喜の世界展」



第8回特別展示：「生誕90年記念 藤戸竹喜の世界展」



第8回特別展示：「生誕90年記念 藤戸竹喜の世界展」

2) 第9回特別展示 「驚異と怪異 想像界の生きものたち」

下記のとおり実施した。

主 催	国立アイヌ民族博物館、国立民族学博物館、公益財団法人千里文化財団
後 援	公益社団法人北海道アイヌ協会
実 施 会 場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実 施 期 間	2024年9月14日（土）～2024年11月17日（日）[65日間]
入 場 者 数	18,192名
入 場 料 金	大人 300円 高校生 200円 中学生以下無料（ウポポイ入園料は別途）

概要

ヨーロッパや中東においては、犬頭人、一角獣といった不可思議ではあるが実在するかもしれない「驚異」は、自然誌の知識の一部として伝えられた。また、東アジアにおいては、奇怪な現象や異様な物体を説明しようとする心の動きが、「怪異」を生み出した。本展示では、常識や慣習から逸脱した「異」なるもの（異境・異人・異類）をめぐる人間の心理と想像力の働き、言説と視覚表象物の関係を解明するとともに、人間の想像力と環境の相関関係を究明する。「想像界」の生物多様性及び文化史を以下の構成で紹介した。

第一部：想像界の生物相 1水、2天、3地

第二部：想像界の変相 1聞く、2見る、3知る、4創る

本展は、国立民族学博物館で、2019年秋に開催された特別展「驚異と怪異—想像界の生きものたち」の巡回展である。

事 業 内 容	出品協力及び展示数：市立函館博物館、千歳市教育委員会、東北大学附属図書館、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館、八戸市博物館、北海道大学植物園・博物館、湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）、及び本館収蔵資料約500点
	<p>関連事業：</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部講師による講演会、当館研究員及び学芸員によるギャラリートークなど計8回 ・開会記念ギャラリートーク「驚異と怪異—想像界の生きものたち」 2024年9月14日（土） 山中由里子 ・開会記念講演会「人はなぜモンスターを想像するのか？」 2024年9月15日（日） 山中由里子 ・トークイベント「民博×アイヌ博クロストーク」 2024年10月14日（月・祝） 山中由里子 ・対談+ツアー「自然と幻獣 Natural Curiosities」 2024年10月26日（土） 山中由里子 ・ギャラリートーク 第1回 2024年9月21日（土） 第2回、第3回 2024年11月3日（日） 第4回 2024年11月17日（日）
事 業 成 果	人魚や龍、河童など、世界各地の人びとが創り出してきた不思議な生きものたちの多様性について絵画や書籍、祭具などを通して紹介し、人間の想像と創造の力の源泉を探求した。また、常識や慣習から逸脱した「異」なるもの（異境・異人・異類）をめぐる人間の心理と想像力の働き、言説と視覚表象物の関係を解明するとともに、人間の想像力と環境の相関関係を究明し、さらにアイヌの想像界など、当館ならではの資料も多く紹介した。
担 当 者	山中由里子（国立民族学博物館）、鈴木建治、笹木一義、関口由彦、是澤櫻子



第9回特別展示「驚異と怪異 想像界の生きものたち」



第9回特別展示「驚異と怪異 想像界の生きものたち」



第9回特別展示「驚異と怪異 想像界の生きものたち」



第9回特別展示「驚異と怪異 想像界の生きものたち」

IV-03-03 交流展示及びテーマ展示の立案・計画策定、開催

1) 第7回テーマ展示 「収蔵資料展」

下記のとおり実施した。

主 催	国立アイヌ民族博物館
後 援	公益社団法人北海道アイヌ協会
実施会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実施期間	2024年12月14日（土）～2025年2月16日（日）[65日間]
入場者数	18,063名
入場料金	無料
事業内容	<p>展示資料：本館収蔵資料 50 点</p> <p>以下の構成で、当館収蔵品を展示するとともに、資料収集や資料保存など「普段、展示では見えないしごと」について紹介した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 収集—さがす、あずかる、みせる 2. 保管—まもる、みる、つたえる 3. 活用—さわる（またはかたる）
関連事業	<p>当館学芸員による関連イベント計6回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学芸員なりきり体験「展示室でお話をきいてみよう」 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 2024年12月14日（土） 第2回 2024年12月21日（土） 第3回 2025年2月1日（土） ・学芸員なりきり体験「資料調書をかいてみよう」 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 2025年1月11日（土） ・学芸員なりきり体験「博物館の裏側をみてみよう」 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 2025年1月18日（土） 第2回 2025年2月15日（土）
事業成果	<p>本館は、アイヌの歴史や文化を展示する博物館等となることを目的のひとつとし、国内外に保管されているアイヌ文化関連資料を調査している。また、購入・寄贈・寄託という方法で資料の収集を行い、資料保存を行っている。本展示会では当館収蔵品を展示するとともに、資料収集や資料保存など「普段、展示では見えないしごと」について紹介することで、博物館活動に対する来館者の理解を促進した。</p>
担当者	大江克己、竹内隼人、八幡巴絵



第7回テーマ展示「収蔵資料展」



第7回テーマ展示「収蔵資料展」

2) 第8回テーマ展示 「ウイマムレプンカ サンタン交易と蝦夷錦」

下記のとおり実施した。

主 催	国立アイヌ民族博物館
後 援 者 名	公益社団法人北海道アイヌ協会、北海道新聞社
実施会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実施期間	2025年3月15日（土）～2025年5月18日（日）[65日間]
入場者数	36,030名
入場料金	無料
事業内容	出品協力及び展示数：厚岸町教育委員会、釧路市中央図書館、釧路市立博物館、市立函館博物館、函館市中央図書館、北海道大学附属図書館、松前町教育委員会、立教小学校、小田寛貴氏、中村和之氏及び本館収蔵資料約90点。
	サンタン交易と呼ばれるネットワークを、以下のテーマから紹介した。 1. サンタン交易とは？ 2. 蝦夷錦を運んだ舟と橋 3. 色いろな蝦夷錦・サンタン服 4. ガラス玉と銭貨
関連事業	外部講師による講演会、当館研究員及び学芸員によるギャラリートークなど計10回 ・開会記念講演会「北方から来た交易民」 2025年3月15日（土） 佐々木史郎 ・講演会「間宮林蔵が歩いた足跡を追う 樺太（サハリン）・アムール・択捉島へ」 2025年3月22日（土） 相原秀起 ・クロストーク「サンタン交易の現場を語る」 2025年5月3日（土） 中村和之、相原秀起、佐々木史郎 ・ギャラリートーク 第1回 2025年3月29日（土） 第2回 2025年4月12日（土） 第3回 2025年4月19日（土） 第4回 2025年4月26日（土） 第5回 2025年5月4日（日） 第6回 2025年5月10日（土） 第7回 2025年5月17日（土）
事業成果	北海道や樺太（サハリン）、ロシア極東地域の先住民族は、17～19世紀にかけてサンタン交易と呼ばれるネットワークを通じて様々なモノを流通させ、その交易ルートは「北東アジアのシルクロード」とも呼ばれてきた。このネットワークを通じてもたらされた中国の官服である蝦夷錦・サンタン服を中心に、ガラス玉や銭貨などを紹介することを通して、アイヌ民族の交易の実情について明らかにした。
担当者	佐々木史郎、田村将人、小林美紀、シンウォンジ



第8回テーマ展示「ウイマムレプンカ サンタン交易と蝦夷錦」



第8回テーマ展示「ウイマムレプンカ サンタン交易と蝦夷錦」

IV -03-04 2025（令和7）年度の特別展示及びテーマ展示の立案・計画策定、準備

- ・第10回特別展示：「開館5周年記念 ウィーン万国博覧会とアイヌ・コレクション」
を下記のとおり実施する。

実施会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実施期間	前期：2025年7月5日（土）～2025年8月31日（日）[58日間] 後期：2025年9月13日（土）～2025年11月16日（日）[65日間]

- ・第9回テーマ展示：「収蔵資料展 イコロ - 3（イイエレブ）」を下記のとおり実施する。

実施会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実施期間	2026年1月10日（土）～2026年2月23日（月・祝）[45日間]

- ・第10回テーマ展示：「ケレヤン、ヌカラヤン、ヌヤン さわる、みる、きく
国立アイヌ民族博物館2」を下記のとおり実施する。

実施会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実施期間	2026年3月14日（土）～2026年5月17日（日）[65日間]

IV -03-05 展示関連の解説書・図録等の企画及び編集、発行

第9回特別展示、第7回及び第8回テーマ展のパンフレットを作成し、特別展示室にて無料配布した。また、これらのパンフレットを、国内の博物館、図書館等の関係諸機関、さらに展示協力者等に発送した。第8回特別展示の公式図録「藤戸竹喜作品集 キムンカムイに導かれ」を制作、第9回特別展示の公式図録「驚異と怪異」を発行した。



パンフレット3種



展示図録2種

IV -04 調査研究

IV -04-01 調査研究事業

1. 調査研究プロジェクト

アイヌの歴史と文化に関する調査研究及び博物館機能強化を目的とした調査研究として、A 基幹研究及び悉皆調査（継続1件、新規4件）、B 個別研究（新規7件）、C 成果発表支援（継続1件、新規6件）を実施した。また、他の研究機関等と共同研究を行う K 共同研究（継続2件、新規2件）を実施した。プロジェクトは下記の一覧の通りである。

2024（令和6）年度調査研究プロジェクト課題一覧

課題番号	調査研究課題名	専門G	代表者	メンバー	研究協力者
A 基幹研究					
2022A01	17～19世紀の蝦夷地像に係る図像史料等の基礎的調査	歴史社会	霜村紀子	劉高力、シン ウォンジ、佐々木史郎、（永野正宏）	中村和之（函館大学）
2024A01	アイヌ民族資料の科学的保存に関する臨床的研究	文化財科学	大江克己	古田嶋智子、八幡巴絵、竹内隼人、笹木一義、奥山英登	
2024A02	近現代アイヌ民族史（誌）論II－〈実践〉から考える	歴史社会	田村将人	関口由彦、立石信一、是澤櫻子	内田順子（国立歴史民俗博物館）、山崎幸治（北海道大学アイヌ・先住民研究センター）、川村清志（国立歴史民俗博物館）、マーク・ウィンチェスター（国立民族学博物館）
2024A03	北海道東部のチャシからみる地域文化の形成史	歴史社会	藪中剛司	鈴木建治、大江克己、森岡健治	小田島賢（厚岸町教育委員会）、熊崎農夫博（前厚岸町教育委員会・学芸員）、赤堀祐斗（民族共生象徴空間運営本部）
2024 悉皆 01	道外アイヌ・コレクションに関する悉皆調査	物質文化	鈴木建治	赤田昌倫、藪中剛司、八幡巴絵、竹内隼人、田村実咲	
B 個別研究					
2024B01	国立アイヌ民族博物館の「未来館者」と「前来館者」の調査と、基本展示による意識変容と展示評価に関する基礎研究	教育	笹木一義	奥山英登、三木暁了、田村実咲	
2024B02	当博物館収蔵の知里真志保関連資料活用にもつた、公開基準の検討及び整備	言語儀礼芸能	ナアカイ（中井貴規）	小林美紀、深澤美香	山丸賢雄、荒田このみ、山道ヒビキ、早坂駿、川上さやか、上河彩（民族共生象徴空間運営本部）
2024B03	ベルリン国立民族博物館とハンブルク市立民族博物館所蔵のアイヌの服飾資料調査	物質文化	宮地鼓	北嶋由紀	山田美郷（民族共生象徴空間運営本部）
2024B04	スペインのカタルーニャ州におけるアイヌ関連資料の追加調査	教育	カサド・バルド・ケラール	八幡巴絵、中井貴規	

2024B05	民俗学系の博物館におけるマルチメディアコミュニケーションの可能性	言語儀礼 芸能	劉高力		
2024B06	立教小学校収蔵のパチラー八重子関連資料に関する総合調査	歴史社会	立石信一	田村将人、 大江克己	
2024B07	語形成の観点からみた道内地名の変化に関する研究	言語儀礼 芸能	小林美紀		
K 共同研究					
2023K02	石巻市博物館所蔵毛利惣七郎コレクションの総合的研究／毛利惣七郎コレクション（うちアイヌ資料を中心に）	物質文化 ／教育	八幡巴絵	赤田昌倫、 藪中剛司、 鈴木建治、 竹内隼人、 田村実咲	泉田邦彦、佐藤美子 (石巻市博物館)
2023K03 【終了】	苫小牧市美術博物館所蔵の舟に関する文理融合型の共同研究／舟	歴史社会 ／物質文化	鈴木建治	藪中剛司、 大江克己	岩波連、佐藤麻莉(苫小牧市美術博物館)
2024K01	蝦夷生計図説の研究：ウェブサイト構築と公開に向けて	言語儀礼 芸能	深澤美香	田村将人	谷本晃久（北海道大学）、海部陽介（東京大学総合研究博物館）、佐々木利和（国立アイヌ民族博物館）
2024K02	樺太アイヌの歴史と文化の研究－樺太アイヌ（エンチウ協会）との対話を通じて－	歴史社会 ／物質文化	鈴木建治	八幡巴絵、 是澤櫻子、 田村将人、 佐々木史郎	樺太アイヌ協会（会長 田澤守）
C 成果発表支援					
2023C08	北海道におけるオーロラに関する記録および口承／日本地球惑星科学連合 2024 大会	歴史社会	シンウオンジ		
2024C01	日本の学校教育における「先住民の知識」／ASERA55-2024 Conference	教育	奥山英登		
2024C02	研究プロジェクト 2021A01 の特別展アンケートの分析についての報告／全日本博物館学会第 50 回研究大会	教育	笹木一義 三木暁了		
2024C03	Transmission of the New,the Old and Memory:Case Studies from Community Museums in Singapore and Japan / ICOM ICME (民族学の博物館・コレクション国際委員会) 学会 2024 年大会	言語儀礼 芸能	劉高力		
2024C04	国立アイヌ民族博物館テーマ展示「白老の衣服文化」を振り返って／日本展示学会第 43 回研究大会	物質文化 ・教育	八幡巴絵		
2024C05	The development of the guided tour at the permanent exhibition of the National Ainu Museum as a catalyst for discussion on multi ethnicity/ ICOM CECA Annual Conference 2024	教育	笹木一義		
2024C06	胆振地方東部における 17 世紀巨大津波の来襲年代の推定／日本地質学会 第 131 年学術大会 2024 山形大会	歴史社会	シンウオンジ		

2. 連携協定の締結等

a) 新規締結

新規締結はなし

b) 既存の協定に関する事業報告

① 北海道大学アイヌ・先住民研究センター

締結日：2020年11月13日

締結内容：アイヌ・先住民に関する共同研究の推進、博物館活動の推進、研究者の相互交流、国際シンポジウム、ワークショップの共同開催、研究施設・機器の相互活用など。

② 苫小牧市教育委員会

締結日：2021年8月27日

締結内容：苫小牧市が所有するアイヌ資料（特に出土舟）に関する共同調査・研究など。5月、共同シンポジウム「アイヌの舟と交易」の開催（会場：苫小牧市民会館小ホール）。

③ 北海道アイヌ協会

締結日：2021年12月22日

締結内容：当館が所蔵するアイヌ資料の調査、アイヌ文化の継承及び創造発展に寄与する活動など。12～3月、文化実践・伝承者2名による資料調査等の実施。

④ 東京国立博物館

締結日：2023年3月14日

締結内容：東京国立博物館が所蔵するアイヌ資料及びその関連資料に関する共同調査など。12月、2025年開催の特別展に関する資料調査の実施。

⑤ 東京大学、北海道大学アイヌ・先住民研究センター

締結日：2023年9月1日

締結内容：東京大学総合研究博物館所蔵の「蝦夷生計図説」に関する共同研究など。資料の活字化・現代語訳・アイヌ語索引の作成とその公開。

⑥ 石巻市教育委員会

締結日：2023年10月26日

締結内容：石巻市が所有するアイヌ・コレクションに関する共同研究及び研究集会・共同展覧会の開催など。8・1月、アイヌ・コレクション（毛利総七郎収集品）の資料調査の実施。

⑦ 室蘭工業大学

締結日：2023年10月26日

締結内容：国立大学法人室蘭工業大学と「包括連携協定」を締結。北海道という地域の特色を活かした教育研究等について包括的な連携のもと相互に協力。6・7月科研費講演会・事務説明会、6月授業「胆振学入門」、8月国際交流センターによるウポポイ見学、9月工大祭「みっとでアイヌ文化体験♪」などの実施。

IV-04-02 ネットワーク事業

1) 「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」運営委員会及びネットワーク運営

a) 「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」運営委員会の開催

「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」運営委員会の会議を2024年6月、11月と2025年2月に3回開催し、ネットワーク運営に関する協議を行った。当運営委員会の委員名簿は以下の通りである。

参加組織	氏名	地域
旭川市博物館	飯岡 郁穂	旭川
北海道博物館	小川 正人	札幌
市立函館博物館	大矢 京右	函館
北海道大学植物園	加藤 克	札幌
北海道立北方民族博物館	笹倉 いる美	網走
北海道博物館協会学芸職員部会	持田 誠	浦幌
釧路市立博物館	城石 梨奈	釧路
平取町立二風谷アイヌ文化博物館	長田 佳宏	平取
松浦武一郎記念館	山本 命	松阪

- ・第1回会議：2024年6月13日
- ・第2回会議：2024年11月7日
- ・第3回会議：2025年2月21日

b) アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク（愛称ブンカラ）の運営

当館を中心にした、アイヌの歴史、文化等に関する資料情報の集約と利活用の促進や様々な事業を行う独自のネットワークを通じて、各種事業を実施した。

新たに5機関より入会申込があり、会員は73機関となった。

11月には会員機関の所属職員を対象としたアイヌの歴史・文化に関する基礎的知識及び各機関の実践事例等に関する研修会を対面、オンライン配信により実施し、92名の参加があった。会員機関向け会報「ブンカラ通信」3号（8月）および4号（1月）を発行した。

会員機関向け Web ページ「ブンカラ会員機関限定サイト」を運用した。

ブンカラ共同研究について、ブンカラ重点課題研究（課題設定型）とブンカラ共同利用研究（公募型）の実施要項と作成募集に係る項目を整理し、募集を開始した。重点課題「科学分析装置を用いたアイヌのマキリとイタの製作に係る基礎的研究」を試行的に開始し、さらに各研究課題の募集準備を行った。

ブンカラ共同研究について、ブンカラ重点課題研究（課題設定型）とブンカラ共同利用研究（公募型）の実施要項と作成募集に係る項目を整理し、事業を開始した。重点課題では「科学分析装置を用いたアイヌのマキリとイタの製作に係る基礎的研究」を試行的に開始し、さらに各研究課題の募集準備を行った。共同研究については、いしかり砂丘の風資料館「石狩市紅葉山33号遺跡出土「漆塗り弓（文様入り）」の研究」と恵庭市郷土資料館「13世紀に至る恵庭市域所在の擦文土坑墓の考古学的基礎研究の概要」が採択され、それぞれ年度末までに実績報告があった。

ブンカラ協働展示及びブンカラ協働 PR イベントを開催した。

令和6年度ブンカラ協働展示 Punkar network × MIE 2024

「三重から北海道へーアイヌ文化と出会った人々」

概要

北海道の名付け親である松浦武四郎（1818～1888）は現在の松阪市出身で、幕末期に6回にわたり、北海道の調査を行った。アイヌ民族と交流を深めながら、その生活やアイヌ語の地名などを記録し、多くの著書にまとめた。それらに描かれた絵図は、同じいまの伊勢市出身の村上島之允（1760～1808）による民族誌の影響を大きく受けている。また、現在の鈴鹿市に当たる白子の船頭だった大黒屋光太夫（1751～1828）は、アリューシャン列島に漂流してからロシアで10年の歳月を過ごし、北海道の根室まで戻って、そこでアイヌの暮らしにも触れた。さらに、伊勢の商家である川喜田家は、武四郎の後援者であるとともに、その後も長きにわたりアイヌ文化との関わりを持ち続けてきた。本展覧会では、このような18～19世紀に活躍した三重県（伊勢国）出身の人物とアイヌ文化との深い関わりを紹介するほか、アイヌの暮らしのさまざまな道具や、現代の作り手による作品の数々を展示した。

主 催	国立アイヌ民族博物館
共 催	松浦武四郎記念館、大黒屋光太夫記念館、公益財団法人石水博物館
後 援	公益社団法人北海道アイヌ協会
実 施 会 場	松浦武四郎記念館（松阪市小野江町383） 大黒屋光太夫記念館（鈴鹿市若松中一丁目1-8） 石水博物館（津市垂水3032番地18）
実 施 期 間	2024年11月29日（金）～2025年1月19日（日）
入 場 者 数	2,690名（松浦武四郎記念館：1,219名、大黒屋光太夫記念館：408名、石水博物館：1,063名※企画展「津藩校有造館と齋藤拙堂」と同時開催）
関連イベント	<p>【松浦武四郎記念館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 11月29日（金）12時～ オープニングトークイベント 「松浦武四郎が記した地域のエピソードとその魅力」 内田祐一（文化庁アイヌ文化振興調査官） ● 12月8日（日）10時～ トークイベント 「アイヌの装い」北嶋由紀（国立アイヌ民族博物館教育普及室室長補佐） ● 12月8日（日）14時～ ワークショップ「自分だけのミニタマサイを作ろう！」 ● 1月12日（日）10時～ トークイベント 「松浦武四郎と加賀伝蔵：伝蔵のアイヌ語通辞としてのその生涯」 石渡一人氏（別海町郷土資料館学芸員）、 深澤美香（国立アイヌ民族博物館研究員） ● 1月19日（日）14時～ 館長トークイベント 佐々木史郎（国立アイヌ民族博物館館長） 山本 命（松浦武四郎記念館館長） <p>【大黒屋光太夫記念館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 12月14日（土）14時30分～ ワークショップ「アイヌ民具にふれてみよう」 ● 12月21日（土）10時30分～ 講演会 「大黒屋光太夫がロシアに残した日本書籍」 鈴木建治（国立アイヌ民族博物館展示企画室室長補佐）



令和6年度 プンカラ協働展示 パンフレット



プンカラ協働展示の様子（松浦武四郎記念館）



ブンカラ協働展示の様子（大黒屋光太夫記念館）



ブンカラ協働展示の様子（石水博物館）

ブンカラ協働PRイベント

「Punkar network × KYOTO 2025 キヤウト コタン — 京都でふれるアイヌ文化」

概要

※キヤウト コタンは「京都」を表すアイヌ語です。19世紀のアイヌ語資料に登場します。
衣服の着用、民具や素材をさわる体験イベント、そして関西圏のアイヌ文化とかかわりの深い人物を紹介するトークイベント等を通じて、アイヌの歴史や文化を身近に感じることで、現代社会における多様性を受け入れ、尊重することに努めるとともに、アイヌ民族が置かれた現状について考える契機とすることを旨とした。

主 催	国立アイヌ民族博物館
共 催	松浦武四郎記念館、大黒屋光太夫記念館、公益財団法人石水博物館、京都府京都文化博物館、京都府立図書館
協 力	京都国立博物館
後 援	公益社団法人北海道アイヌ協会
実 施 会 場	京都国立博物館 明治古都館（京都市東山区茶屋町 527） 京都文化博物館（京都市中京区高倉通り三条上る東片町 623-1） 京都府立図書館（京都市左京区岡崎成勝寺町）
実 施 期 間	2025年3月13日（木）～3月23日（日）
入 場 者 数	7,356名（京都国立博物館 明治古都館）
関 連 イ ベ ン ト	<p>【京都国立博物館 明治古都館】</p> <p><ワークショップ></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 3月13日（木）～3月23日（日）「アイヌ民具にふれてみよう！」※会期中は常時開催 ● 3月22日（土）、3月23日（日）11:00～12:00、各回先着30名 「マグネットしおりづくり」 飯岡郁穂（旭川市博物館学芸員） <p><トークイベント></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 3月15日（土）11:00～11:45、16日（日）11:00～11:45 「京都大学樺太演習林のあった古丹岸周辺の樺太アイヌの話」 宮川 琢（北海道立北方民族博物館学芸員） ● 3月15日（土）14:00～15:00 「北海道人松浦武四郎と京都」 山本 命（松浦武四郎記念館館長） ● 3月16日（日）14:00～14:30 「北海道の地名について」 森岡健治（国立アイヌ民族博物館教育普及室室長） ● 3月18日（火）14:00～14:30、19日（水）14:00～14:30、20日（木）14:00～14:30 「松浦武四郎と物産会」 永野正宏（文化庁国立アイヌ民族博物館運営推進調査官） ● 3月21日（金）14:00～14:30、23日（日）16:00～16:30 「アイヌの装い」 宮地 鼓（国立アイヌ民族博物館研究交流室室長補佐） ● 3月22日（土）15:30～16:30 「近現代アイヌ史のなかの〈京都〉」 小川正人 （北海道博物館学芸副館長、ブンカラ運営委員会委員長） <p><その他イベント></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 3月22日（土）14:00～14:30、23日（日）15:00～15:30 ウポポイPRイベント「ウポポイのみどころ紹介 - トゥレップンも遊びにくるよ! -」 ● 3月23日（日）13:00～13:30 ウポポイPRイベント「ウポポイのみどころ紹介 - トゥレップンも遊びにくるよ! -」 トラリんと共演!一緒に記念撮影しませんか♪ <p>【京都文化博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 3月22日（土）13:30～14:30 映像上映イベント「アニメでみるアイヌのお話」 内田祐一（文化庁アイヌ文化振興調査官）



令和6年度 プンカラ協働PRイベント パンフレット



プンカラ協働PRイベント イベントの様子



ブンカラ協働PRイベント 会場の様子



ブンカラ通信 3号・第4号

2024（令和6）年度の会員機関一覧は以下の通りである（番号は入会申込み順による会員機関番号）。

2024（令和6）年度アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク会員機関一覧

No.	会員機関番号	施設・機関名
1	namnet001	富良野市博物館
2	namnet002	だて歴史文化ミュージアム
3	namnet003	湧別町ふるさと館 JRY
4	namnet004	浦幌町立博物館
5	namnet005	厚真町軽舞遺跡調査整理事務所
6	namnet006	天理大学附属天理参考館

7	namnet007	恵庭市郷土資料館
8	namnet008	厚岸町海事記念館
9	namnet009	平取町立二風谷アイヌ文化博物館
10	namnet010	沙流川歴史館
11	namnet011	根室市歴史と自然の資料館
12	namnet012	苫前町郷土資料館
13	namnet013	様似郷土館
14	namnet014	しらおいイオル事務所チキサニ
15	namnet015	登別市教育委員会（登別市郷土資料館）
16	namnet016	北海道立埋蔵文化財センター
17	namnet017	旭川市博物館
18	namnet018	美幌博物館
19	namnet019	弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民族資料館
20	namnet020	オホーツクミュージアムえさし
21	namnet021	松浦武四郎記念館
22	namnet022	北海道立北方四島交流センター
23	namnet023	下川町ふるさと交流館
24	namnet024	勝山館跡ガイダンス施設、重要文化財旧笹浪家住宅
25	namnet025	標茶町博物館ニタイ・ト
26	namnet026	仙台藩白老元陣屋資料館
27	namnet027	標津町ポー川史跡自然公園
28	namnet028	浜頓別町郷土資料館
29	namnet029	知内町郷土資料館
30	namnet030	新冠町郷土資料館
31	namnet031	北海道立北方民族博物館
32	namnet032	札幌市アイヌ文化交流センター（サッポロピリカコタン）
33	namnet033	北海道博物館
34	namnet034	市立函館博物館
35	namnet035	函館市北方民族資料館（公益財団法人函館市文化・スポーツ振興財団）
36	namnet036	大黒屋光太夫記念館
37	namnet037	北海道立文学館（公益財団法人北海道文学館）
38	namnet038	アポイ岳ジオパークビジターセンター
39	namnet039	釧路市立博物館
40	namnet040	北海道立近代美術館
41	namnet041	帯広百年記念館
42	namnet042	國學院大學博物館
43	namnet043	新ひだか町博物館
44	namnet044	大阪府立近つ飛鳥博物館
45	namnet045	新潟県立歴史博物館
46	namnet046	八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館
47	namnet047	知里幸恵 銀のしずく記念館
48	namnet048	余市水産博物館
49	namnet049	九州国立博物館

50	namnet050	最上徳内記念館
51	namnet051	室蘭市民俗資料館
52	namnet052	苫小牧市美術博物館
53	namnet053	美唄市郷土史料館
54	namnet054	幕別町蝦夷文化考古館
55	namnet055	日本民藝館
56	namnet056	阿寒アイヌ民族文化保存会
57	namnet057	三石民族文化保存会
58	namnet058	市立小樽美術館・市立小樽文学館
59	namnet059	別海町郷土資料館 附属施設加賀家文書館
60	namnet060	音更町郷土資料室
61	namnet061	石巻市博物館
62	namnet062	岩手県立博物館
63	namnet063	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園
64	namnet064	名寄市北国博物館
65	namnet065	斜里町立知床博物館
66	namnet066	いしかり砂丘の風資料館（石狩市教育委員会 社会教育部 文化財課）
67	namnet067	ノカピライウォロ・ビジターセンター
68	namnet068	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
69	namnet069	高島屋史料館 TOKYO
70	namnet070	たばこと塩の博物館
71	namnet071	公益財団法人 石水博物館
72	namnet072	七飯町歴史館
73	namnet073	厚沢部町郷土資料館

IV -04-03 研究集会の企画・開催

・ ArCS II 沿岸環境課題および北海道立北方民族博物館と当館主催のコラボイベントとして「動物の毛皮に触ってみようーアイヌ民族と北方民族の毛皮利用を知る・触るー」を開催し、交流室展示、ギャラリートーク、体験型イベントを行った。

開催日時・場所：2025年2月8、9日、国立アイヌ民族博物館 交流室

企画・運営（敬称略、順不同）：日下稜（北海道大学 低温科学研究所）、是澤櫻子（国立アイヌ民族博物館）、中田篤（北海道立北方民族博物館）

IV -04-04 研究成果の社会発信

研究成果の社会発信として、論文（査読有）6件、論文（査読無）7件、寄稿・解説等46件のほか、学会発表（国外）11件、学会発表（国内）19件、講演会・講義125件を実施した。

1) 2024年度研究業績

2024年度の研究業績として、1. 論文（査読有）、2. 論文（査読無）※学術雑誌、研究報告書等、3. 学会発表 <国際学会><国内学会>、4. 生涯学習・学校教育に関わる活動等、5. 寄稿・解説※一般誌、

新聞、6. 図書として区分した。

1. 論文（査読有）

※著者名（館スタッフにはアンダーライン）、論文標題、雑誌名、巻、号、発行年、最初と最後の頁、掲載論文の DOI

- 1) 立石信一、田村将人、麻田恭一，立教小学校所蔵のアイヌ資料コレクションの成立について：有賀千代吉とバチラー八重子の関係を中心に、『物質文化』，物質文化研究会，104，2024，55-71
- 2) シンウォンジ、深澤美香，近世史料にみる北海道の低緯度オーロラの記録、『北海道民族学』，北海道民族学会，21，2025
- 3) 小林美紀，アイヌ語における主語抱合と所属形的接頭辞 e-/o- による派生、『北方言語研究』，日本北方言語学会，15，2025，165-178
- 4) 深澤美香、小野洋平，基礎語彙による方言分類の諸問題 — Asai (1974) のアイヌ語方言データを最大限活用するために —，『北方言語研究』，日本北方言語学会，15，2025，141-163
- 5) Ono, Yohei, Fukazawa, Mika, Statistical Approaches to the Quantification of Regularity in Languages and Dialects: An Exercise in Ainu Dialects of Asai (1974), Northern Language Studies, The Japan Association of Northern Language Studies, 15, 2025, 179-202
- 6) 佐々木史郎，ロシアの地方博物館における先住民族文化展示，文化人類学，日本文化人類学会，89，1，2024，91-110，https://doi.org/10.14890/jjcanth.89.1_091

2. 論文（査読無）※学術雑誌，研究報告書等

※著者名（館スタッフにはアンダーライン）、論文標題、雑誌名、巻、号、発行年、最初と最後の頁

- 7) 笹木一義、工藤綾華，カンピソシヌカラトウンプ国立アイヌ民族博物館ライブラリ：「開かれた専門図書室」の開設準備から現在まで，LISN：Library & Information Science News，キハラ株式会社マーケティング部，210，2024，5-9
- 8) 山中由里子、鈴木建治、笹木一義、関口由彦、是澤櫻子編著，「驚異と怪異—想像界の生きものたち」北海道会場小冊子，国立アイヌ民族博物館，2024，1-16
- 9) Fukazawa, Mika, Numeral systems in Asia and Africa: A geolinguistic approach to linguistic patterns, Studies in Geolinguistics, Geolinguistic Society of Japan, 4, 2024, 156-166, 10.5281/zenodo.13948609
- 10) 大江克己、竹内隼人、八幡巴絵編著，第7回テーマ展示「収蔵資料展」小冊子，国立アイヌ民族博物館，2024，1-16
- 11) 佐々木史郎、田村将人、小林美紀、シンウォンジ著，第8回テーマ展示「ウイマムレブンカサントン交易と蝦夷錦」小冊子，国立アイヌ民族博物館，2025，1-16
- 12) 佐々木史郎，民族共生象徴空間におけるアイヌ文化の復興と新たな創造，創，清泉女子大学文化史学会，56，2023，47-83
- 13) 霜村紀子、宮地鼓、赤田昌倫、シンウォンジ、山本命、代田美里、龍泉寺由佳、桐田貴史著，令和6年度punkar協働展示「punkar network × MIE2024 三重から北海道へ—アイヌ文化と出会った人々」小冊子，国立アイヌ民族博物館，2024，1-20

3. 学会発表

<国際学会>

※発表者名（館スタッフにはアンダーライン）、発表表題、学会等名、発表年月日、発表場所（国名）

- 14) シンウォンジ, 『漂舟録』にみえるアイヌの家屋について：塩幕を中心に、東北アジア文化学会 2024 年春季聯合國際大会（韓国）、2024 年 6 月 29 日、大和大学（日本）
- 15) Wonji Shin, An Examination of Lee Ji-hang's Government Position During His Drift in 1696, 東北アジア文化学会 2024 年秋季聯合國際学術大会（韓国）、2024 年 10 月 26 日、釜慶大学校（韓国）
- 16) Mio Yachita, Navigating a New Phase: The Professionalization of Ainu Performing Arts Post-2020, 国際伝統音楽舞踊学会（International Council for Traditions of Music and Dance (ICTMD)) 2025 Wellington, 2025 年 1 月 14 日、ヴィクトリア大学ウェリントン／タキナコンベンションセンター（ニュージーランド）
- 17) Mio Yachita, A Catalyst for Cultural Revival or a New Form of Colonial Control? : An Analysis of Performing Arts Programs at UPOPOY National Ainu Museum and Park(Ireland), 国際批判的遺産学会（The Association of Critical Heritage Studies (ACHS)) 2024 Galway, 2024 年 6 月 6 日、アイルランド国立大学ゴールウェー（アイルランド）
- 18) Mio Yachita, Reconsidering the Cultural Policy of the Indigenous Ainu, 異文化コミュニケーション学会関西 (Society for Intercultural Education, Training and Research(SIETAR) JAPAN Kansai Chapter), 2024 年 4 月 27 日、オンライン、招待講演
- 19) Liu Gaoli, Transmission of the New, the Old, and Memory: Case Studies from Community Museums in Singapore and Japan, ICOM ICME, 2024 年 9 月 11 日、メキシコシティ（メキシコ合衆国）
- 20) Liu Gaoli, Museums in the Digital Age: Perspectives on Fostering Sustainable Preservation of Cultural Heritage Hybrid Spaces for Cultural Heritage and Community Engagement, AAS-in-Asia, 2024 年 7 月 9 日、(インドネシア)
- 21) Tomoko Kotajima, Masaki Suzuki, Masahide Inuzuka, Development of Emission Test Method Using Sampling Bag, 16th International Conference on Indoor Air Quality in Heritage and Historic Environments, 2024 年 11 月 19 日、Metropolitan Museum（アメリカ）
- 22) SASAKI, Kazuyoshi, The development of the guided tour at the permanent exhibition of the National Ainu Museum as a catalyst for discussion on multi ethnicity, Market of ideas, ICOM CECA (International Councils of Museums International Committee for Education and Cultural Action) Conference, 2024 年 11 月 20 日、Benaki Museum Pireos 138（ギリシア、アテネ）
- 23) Hideto OKUYAMA, Incorporating Indigenous Ainu Knowledge into formal science education in Japan, ASERA 55, Australasian Science Education Research Association, 2024 年 7 月 4 日、Massey University, Auckland Campus, Albany（ニュージーランド）
- 24) SASAKI, Shiro, Basic ideas of the architecture of the National Ainu Museum, ICOM-ICAMT (International Council of Museums, International Committee for Architecture and Museum Techniques) 50 Taiwan, 2024 年 10 月 10 日、国立故宮博物院（台湾）、招待講演

<国内学会>

※発表者名（館スタッフにはアンダーライン）、発表表題、学会等名、発表年月日、発表場所

- 25) シンウオンジ、北海道におけるオーロラに関する記録の史的検討、日本地球惑星科学連合2024年大会、2024年5月30日、幕張メッセ、招待講演
- 26) シンウオンジ、胆振地方東部における17世紀巨大津波の来襲年代の推定—家屋の数に注目して—、日本地質学会第131年学術大会（2024年山形）、2024年9月9日、山形大学
- 27) シンウオンジ、深澤美香、近世史料にみる北海道の低緯度オーロラ、2024年度北海道民族学会第2回研究会、2024年11月10日、しらおい創造空間 蔵
- 28) 谷地田未緒、阿寒湖アイヌコタンの現代的舞台芸術の系譜：「ユーカラ座」から「ロストカムイ」まで、日本文化政策学会第18回年次大会（八戸）、2025年3月16日、八戸美術館他
- 29) 谷地田未緒、民族共生象徴空間ウポポイにおけるアイヌの芸能を継承する取り組み、日本アートマネジメント学会第26回全国大会（札幌）、2024年12月15日、北海道教育大学／札幌市教育文化会館
- 30) 古田嶋智子、鈴木昌樹、犬塚将英、サンプリングバッグを利用した床面からの放散化学物質の測定方法、文化財保存修復学会第46回大会、2024年6月23日、帝京大学 八王子キャンパス
- 31) 笹木一義、奥山英登、シン・ウオンジ、三木暁了、佐藤優香、博物館来館者の、来館者像と展示メッセージ伝達の分析の試行：国立アイヌ民族博物館の来館者アンケートの自由回答分析より、全日本博物館学会第50回研究大会、2024年6月30日、北海道開拓の村
- 32) 八幡巴絵、鈴木建治、大江克己、国立アイヌ民族博物館テーマ展示「白老の衣服文化」を振り返って—地域展示の足掛かりとして—、日本展示学会第43回研究大会、2024年7月7日、金沢美術工芸大学
- 33) 八幡巴絵、白老地域に伝わるルウンペの伝承とその変遷について、2024年度北海道民族学会第2回研究会、2024年11月10日、しらおい創造空間 蔵、招待講演
- 34) 是澤櫻子、オンライン空間から考えるロシアの先住民族の社会運動研究の展開、日本文化人類学会第58回学会、2024年6月16日、北海道大学
- 35) 佐々木史郎、是澤櫻子、鈴木建治、レオポルド・フォン・シュレンクが見たサンタン交易、日本シベリア学会第10回研究大会、2025年2月15日、釧路公立大学
- 36) 是澤櫻子、学術的歴史実践としての「歴史（学）」はいかにして揺らぐのか—歴史経験の違いに佇み、考える、上智大学哲学会シンポジウム、2024年10月20日、上智大学、招待講演
- 37) 是澤櫻子、「学知史」という視点—『「学知史」から近現代を問い直す』から考える、京都民科歴史部会、2025年3月1日、立命館大学、招待あり
- 38) 深澤美香、小野洋平、基礎語彙による方言分類の諸問題—Asai (1974) のアイヌ語方言データを最大限活用するために—、日本北方言語学会、2024年9月22日、室蘭工業大学
- 39) 小野洋平、深澤美香、言語・方言における規則性の数量化に向けた統計学的試み—Asai (1974) のアイヌ語方言データを例として—、日本北方言語学会、2024年9月22日、室蘭工業大学
- 40) 大江克己、竹内隼人、八幡巴絵、X線CTを応用した形状偏差解析の有効性、日本文化財科学会第41回大会、2024年7月27日、青山学院大学

- 41) 大江克己、是澤櫻子、藪中剛司，重要文化財 白長覆輪太刀の科学分析，文化財保存修復学会第46回大会，2024年6月23日，帝京大学 八王子キャンパス
- 42) 大江克己、竹内隼人、八幡巴絵，アイヌ民族資料の形状比較・形状差観察へのX線CTの応用，2024年度北海道民族学会第2回研究会，2024年11月10日，しらおい創造空間 蔵
- 43) 大江克己，出土舟に関する科学分析について，国立アイヌ民族博物館・苫小牧市美術博物館共同シンポジウム『アイヌの舟と交易』，2024年5月18日，苫小牧市民会館

4. 生涯学習・学校教育に関わる活動等

<講演会・講義>

※講演・講義者名（館スタッフにはアンダーライン）、題目、講演会名等、主催者、実施年月日、発表場所

- 44) ナアカイ，動詞を用いた表現，アイヌ語指導者育成事業フォローアップ講座，2024年6月21日，国立オリンピック記念青少年総合センター
- 45) ナアカイ，数字の使い方，アイヌ語指導者育成事業フォローアップ講座，2024年6月22日，国立オリンピック記念青少年総合センター
- 46) ナアカイ，基本構文，アイヌ語指導者育成事業スクーリング，2024年10月12日，公益財団法人アイヌ民族文化財団会議室
- 47) ナアカイ，人称基礎，アイヌ語指導者育成事業スクーリング，2024年10月12日，公益財団法人アイヌ民族文化財団会議室
- 48) ナアカイ，人称（理論編），アイヌ語指導者育成事業スクーリング，2024年11月23日，公益財団法人アイヌ民族文化財団会議室
- 49) ナアカイ，疑問表現，アイヌ語指導者育成事業スクーリング，2024年11月23日，公益財団法人アイヌ民族文化財団会議室
- 50) ナアカイ，疑問詞・疑問文，アイヌ語指導者育成事業スクーリング，2024年12月6日，公益財団法人アイヌ民族文化財団会議室
- 51) ナアカイ，教授法，アイヌ語指導者育成事業スクーリング，2024年12月7日，公益財団法人アイヌ民族文化財団会議室
- 52) ナアカイ，アイヌ文化における川漁 marek という漁具～伝承者育成事業の経験より，2024年度札幌大谷大学「アイヌ文化論」，2024年5月30日，札幌大谷大学 オンデマンド方式による講義
- 53) ナアカイ，アイヌ文化におけるオオウバユリ トゥレブとその利用～伝承者育成事業の経験より②，2024年度札幌大谷大学「アイヌ文化論」，2024年6月4日，札幌大谷大学 オンデマンド方式による講義
- 54) ナアカイ，国立アイヌ民族博物館の役割と展示，2024年度札幌大谷大学「アイヌ文化論」，2024年6月11日，札幌大谷大学 オンデマンド方式による講義
- 55) ナアカイ，旭川地方のアイヌ語と文学，2024年度札幌大谷大学「アイヌ文化論」，2024年6月18日，札幌大谷大学 オンデマンド方式による講義
- 56) ナアカイ，アイヌの宗教儀礼～国立アイヌ民族博物館の展示を通して、アイヌの世界観を学ぶ，令和6年度放送大学「ウポボイで学ぶアイヌ文化」，2024年6月29日，放送大学北海道学習センター（北海道大学構内）

- 57) ナアカイ, アイヌ語の人称, アイヌ語ワークショップ2024「はじめてのアイヌ語」, 2024年9月27日, 室蘭工業大学 教育・研究3号館N207
- 58) ナアカイ, アイヌの世界観、口承文芸 ～国立アイヌ民族博物館の展示や私の体験を通じて、名寄市教育委員会連携企画「名寄で学ぼう！アイヌ文化」関連講演会, 2024年9月14日, 名寄市北国博物館2階講堂
- 59) ナアカイ, アイヌ文化における川漁 マレクという漁具～伝承者育成事業の経験より, 旭川市博物館第100回企画展「川と暮らし～あさひかわの人びとと川～」関連講演会, 2025年2月15日, 旭川市大雪クリスタルホール内レセプション室
- 60) 立石信一, ニュージーランドのミュージアムにおける展示の現在：テ・パパを中心に, シンポジウム「ニュージーランド国立博物館テ・パパ・トンガレワの現在—先住民と博物館の関係を考える」, 2024年10月26日, 北海道大学
- 61) 森岡健治, 文化財写真の撮影と保存, 札幌大学「博物館実習」講演会, 2024年7月4日, 札幌大学
- 62) 呉松施, 先住民の尊厳をいかに守るのか——台湾と日本の事例から, 2024年度南山大学人類学研究所第2回公開講演会, 2025年1月7日, 南山大学, 招待あり
- 63) 呉松施, 《龜山島》與台灣人類學本土研究, シンポジウム「重新閱讀《龜山島》：五十年後, 跟著王崧興一起穿越」, 2025年2月28日, (台湾) 宜蘭県立蘭陽博物館
- 64) 安田千夏, アイヌ語アーカイブを利用した自然観察, 平取町伝承者育成事業, 2024年4月23日, 国立アイヌ民族博物館研修室
- 65) 安田千夏, アイヌ語アーカイブを利用した自然観察, 平取町伝承者育成事業, 2024年5月30日, イオル文化交流センター
- 66) 安田千夏, アイヌ語アーカイブを利用した自然観察, 平取町伝承者育成事業, 2024年6月26日, 国立アイヌ民族博物館研修室
- 67) 安田千夏, アイヌ語アーカイブを利用した自然観察, 平取町伝承者育成事業, 2024年7月18日, イオル文化交流センター
- 68) 安田千夏, アイヌ語アーカイブを利用した自然観察, 平取町伝承者育成事業, 2024年8月2日, 支笏湖周辺
- 69) 安田千夏, アイヌ語アーカイブを利用した自然観察, 平取町伝承者育成事業, 2024年9月19日, イオル文化交流センター
- 70) 安田千夏, アイヌ語アーカイブを利用した自然観察, 平取町伝承者育成事業, 2024年10月31日, 国立アイヌ民族博物館研修室
- 71) 安田千夏, アイヌ語アーカイブを利用した自然観察, 平取町伝承者育成事業, 2024年12月5日, ウトナイ湖野生鳥獣保護センター
- 72) 安田千夏, アイヌ語アーカイブを利用した自然観察, 平取町伝承者育成事業, 2025年3月4～7日, 札幌大学, 網走市, 斜里町
- 73) 安田千夏, アイヌ語アーカイブを利用した自然観察, 平取町伝承者育成事業, 2025年3月27日, 国立アイヌ民族博物館研修室
- 74) 安田千夏, アイヌ語アーカイブについて, 慶應義塾大学藤田護ゼミ合宿, 2024年9月27日, 国立アイヌ民族博物館研修室
- 75) 谷地田未緒, 「アイヌ民族・文化について知ることは、なぜ「私たち」にとって大切なのか」, 立教大学社会デザイン研究科「文化政策論」, 2024年5月16日, 招待講演

- 76) 谷地田未緒, Indigenous art Practice & Knowledge in Contemporary World, ミャンマー現代美術協会（Association for Myanmar Contemporary Art: AMCA）ウェブナーシリーズ THE BRIDGE, 2024年7月28日, オンライン, 招待講演
- 77) 谷地田未緒, Cultural Policy of Ainu and the New National Ainu Museum & Park UPOPOY, トークイベント“Living Archives for Cultural Resilience and Resistance – Talk & Sharing Session about Japan’s Indigenous People Ainu”, クアラルンプール日本文化センター（国際交流基金）・GERIMIS 共催, 2024年12月4日, マレーシア ファイブアーツセンター, 招待講演
- 78) 谷地田未緒, ウポポイフィールドワークと講義「アイヌ文化について知ることが、なぜ「私たち」にとって大切なのか」, 熱中小学校白老分校, 2025年2月8日, しらおい創造空間蔵, 招待講演
- 79) 谷地田未緒, 「プロフェッショナル化、舞台化、継承の環境について：2つの研究プロジェクトからの考察」, 「芸能の継承と発展」研究報告会, 2025年2月16日, 国立アイヌ民族博物館交流室
- 80) 谷地田未緒, 「先住民観光において『配慮を求める仕組み』について」, 北海道大学×国立アイヌ民族博物館共同勉強会, 2025年3月27日, 国立アイヌ民族博物館交流室
- 81) 田村実咲, 「協働とは何だろうか？－多文化共生の現場から」, 北海道教育大学函館校 地域プロジェクト「道南地域におけるアイヌの人たちのための地域支援」, 2024年6月7日, 北海道教育大学函館校
- 82) 田村実咲, 講演「「他者」と出会う、「自分」に出会う」、ワークショップ「みんなの私物展」, 令和6年度北海道高等学校文化連盟室蘭支部文芸研究大会, 2024年8月21日, 室蘭市港の文学館
- 83) 田村実咲, 「北海道の木彫り熊」, 北海道立近代美術館美術講座プレミアム 第4回北海道の美術, 2024年10月24日, 北海道立近代美術館 講堂
- 84) 田村実咲, 「学業を仕事に 歴史と文化を旅する」, 北海道札幌東高校キャリアトーク, 2025年2月4日, 北海道札幌東高等学校
- 85) 小林美紀, アイヌ語クイズ, アイヌ語ワークショップ2024「はじめてのアイヌ語」, 2024年9月27日, 室蘭工業大学, 招待講演
- 86) 小林美紀, アイヌ語, 令和6年度放送大学「ウポポイで学ぶアイヌ文化」, 2024年6月30日, 放送大学北海道学習センター
- 87) 小林美紀, アイヌ語, 令和6年度講義科目, 2025年1月28日, 北洋大学
- 88) 小林美紀, アイヌ語, 令和6年度講義科目, 2025年1月29日, 北洋大学
- 89) 小林美紀, アイヌ語, 令和6年度講義科目, 2025年2月4日, 北洋大学
- 90) 小林美紀, アイヌ語, 令和6年度講義科目, 2025年2月5日, 北洋大学
- 91) 長谷仁美, アイヌ歴史文化論, 令和6年度講義科目, 2024年1月28日, 北洋大学
- 92) 長谷仁美, アイヌ歴史文化論, 令和6年度講義科目, 2024年1月29日, 北洋大学
- 93) 長谷仁美, アイヌ歴史文化論, 令和6年度講義科目, 2024年2月4日, 北洋大学
- 94) 長谷仁美, アイヌ歴史文化論, 令和6年度講義科目, 2024年2月5日, 北洋大学
- 95) 笹木一義, 博物館教育論, 令和6年度講義科目, 2024年9月24日, 札幌大学
- 96) 笹木一義, 博物館教育論, 令和6年度講義科目, 2024年10月1日, 札幌大学
- 97) 笹木一義, 博物館教育論, 令和6年度講義科目, 2024年10月8日, 札幌大学

- 98) 笹木一義, 博物館教育論, 令和6年度講義科目, 2024年10月15日, 札幌大学
- 99) 笹木一義, 博物館教育論, 令和6年度講義科目, 2024年10月22日, 札幌大学
- 100) 笹木一義, 博物館教育論, 令和6年度講義科目, 2024年10月29日, 札幌大学
- 101) 笹木一義, 博物館教育論, 令和6年度講義科目, 2024年11月5日, 札幌大学
- 102) 笹木一義, 博物館教育論, 令和6年度講義科目, 2024年11月12日, 札幌大学
- 103) 笹木一義, 博物館教育論, 令和6年度講義科目, 2024年11月19日, 札幌大学
- 104) 笹木一義, 博物館教育論, 令和6年度講義科目, 2024年11月26日, 札幌大学
- 105) 笹木一義, 博物館教育論, 令和6年度講義科目, 2024年12月3日, 札幌大学
- 106) 笹木一義, 博物館教育論, 令和6年度講義科目, 2024年12月10日, 札幌大学
- 107) 笹木一義, 博物館教育論, 令和6年度講義科目, 2024年12月17日, 札幌大学
- 108) 笹木一義, 博物館教育論, 令和6年度講義科目, 2025年1月7日, 札幌大学
- 109) 笹木一義, 博物館教育論, 令和6年度講義科目, 2025年1月14日, 札幌大学
- 110) 奥山英登, 鹿笛をつくってみよう!, 特定非営利活動法人エゾシカネットイベント, 特定非営利活動法人エゾシカネット, 2024年6月23日, 札幌市円山動物園, 招待講演
- 111) 北嶋由紀, アイヌの衣服文化, 2024年度「アイヌ文化論」, 2024年7月4日, 札幌大谷大学 オンデマンド方式による講義
- 112) 北嶋由紀, アイヌの衣服文化, 2024年度「アイヌ文化論」, 2024年7月11日, 札幌大谷大学 オンデマンド方式による講義
- 113) 北嶋由紀, 浦河町のアイヌ文化, 2024年度「アイヌ文化論」, 2024年7月25日, 札幌大谷大学 オンデマンド方式による講義
- 114) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A1, アイヌ文様（刺繍）の技法の種類について, 2024年4月5日, 札幌大学
- 115) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A1, アイヌ文様について, 2024年4月12日, 札幌大学
- 116) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A1, 現在のアイヌ工芸の作り手について, 2024年4月19日, 札幌大学
- 117) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A1, チヂリの刺しゅう（イカラリ）について, 2024年4月26日, 札幌大学
- 118) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A1, チヂリの刺しゅう（オホ）について, 2024年5月10日, 札幌大学
- 119) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A1, カバラミプの技法を用いたアイヌ文様の刺しゅうの下準備について, 2024年5月17日, 札幌大学
- 120) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A1, カバラミプの技法を用いたアイヌ文様の布の縫い付けについて, 2024年5月24日, 札幌大学
- 121) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A1, カバラミプの技法を用いたアイヌ文様のイカラリについて, 2024年5月31日, 札幌大学
- 122) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A1, ルウンペの技法を用いたアイヌ文様の下準備について, 2024年6月7日, 札幌大学
- 123) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A1, ルウンペの技法を用いたアイヌ文様の布の縫い付けについて, 2024年6月21日, 札幌大学
- 124) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A1, ルウンペの技法を用いたアイヌ文様のイカラリについて, 2024年6月28日, 札幌大学

- 125) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A1, アイヌ文様（刺繍）の種類や名称について, 2024年7月5日, 札幌大学
- 126) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A1, バッグの持ち手の作成と本体の下準備について, 2024年7月12日, 札幌大学
- 127) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A1, ポケットの取り付けと、バッグ本体の作成について, 2024年7月19日, 札幌大学
- 128) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A1, アイヌ文様の構成について, 2024年7月26日, 札幌大学
- 129) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A2, アイヌ工芸の織りについて, 2024年4月5日, 札幌大学
- 130) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A2, エムシアットの織りの種類と技法について, 2024年4月12日, 札幌大学
- 131) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A2, エムシアットの製作技法を用いたコースターの無文様部分の織り方について, 2024年4月19日, 札幌大学
- 132) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A2, 文様部分の織り方について1, 2024年4月26日, 札幌大学
- 133) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A2, 文様部分の織り方について2, 2024年5月10日, 札幌大学
- 134) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A2, 文様部分の織り方について3, 2024年5月17日, 札幌大学
- 135) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A2, 文様部分の織り方について4, 2024年5月24日, 札幌大学
- 136) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A2, エムシアットの文様について, 2024年5月31日, 札幌大学
- 137) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A2, エムシアットの製作技法を用いたブレスレットの文様のデザインについて, 2024年6月7日, 札幌大学
- 138) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A2, 文様の図案の作成1, 2024年6月21日, 札幌大学
- 139) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A2, 文様の図案の作成2, 2024年6月28日, 札幌大学
- 140) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A2, 文様の図案の作成3, 2024年7月7日, 札幌大学
- 141) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A2, 文様の図案の作成4, 2024年7月12日, 札幌大学
- 142) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A2, 文様の図案の作成5, 2024年7月19日, 札幌大学
- 143) 北嶋由紀, アイヌ工芸 A2, ブレスレットの金具の取り付け方法について, 2024年7月26日, 札幌大学
- 144) 北嶋由紀, アイヌ刺しゅう講習会（初級）, アイヌ刺しゅうの入ったバッグの材料の準備と刺しゅうの下準備について, 2024年6月6日, 北海道アイヌ協会
- 145) 北嶋由紀, アイヌ刺しゅう講習会（初級）, チヂリの刺しゅう方法について, 2024年6月13日, 北海道アイヌ協会
- 146) 北嶋由紀, アイヌ刺しゅう講習会（初級）, カパラの刺しゅう方法について, 2024年6月20日, 北海道アイヌ協会
- 147) 北嶋由紀, アイヌ刺しゅう講習会（初級）, ルウンペの刺しゅう方法について, 2024年6月27日, 北海道アイヌ協会
- 148) 北嶋由紀, アイヌ刺しゅう講習会（初級）, カロブの材料の準備と刺しゅうの下準備, 2024年9月5日, 北海道アイヌ協会
- 149) 北嶋由紀, アイヌ刺しゅう講習会（初級）, カパラの刺しゅう方法について, 2024年9月12日, 北海道アイヌ協会
- 150) 北嶋由紀, アイヌ刺しゅう講習会（初級）, アイヌ文様の入ったペットボトル入れの材料の準備と刺しゅうの下準備について, 2024年9月19日, 北海道アイヌ協会
- 151) 北嶋由紀, アイヌ刺しゅう講習会（初級）, ルウンペの刺しゅう方法について, 2024年9月

- 26日、北海道アイヌ協会
- 152) 深澤美香、アイヌ語概説、アイヌ語ワークショップ2024「はじめてのアイヌ語」、2024年9月27日、室蘭工業大学、招待あり
 - 153) 深澤美香、現代に続くアイヌ語、漫画『ゴールデンカムイ』と出会い直す Part 2、2025年1月17日、自由学校「遊」、招待あり
 - 154) 深澤美香、アイヌ語入門、令和6年度道北地区博物館等連絡協議会研修会、2024年11月13日、旭川市博物館、招待あり
 - 155) 深澤美香、ウポポイができるまで～白老町のポロト湖畔の歴史とアイヌ語～（第2回）、東京都立大学オープンユニバーシティ「ウポポイができるまで」、2024年6月20日、東京都立大学、招待あり
 - 156) 大江克己、竹内隼人、漆器の取扱い実践講座② 保管と取り扱い、令和6年度「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」（愛称ブンカラ）研修会、2024年11月8日、国立アイヌ民族博物館
 - 157) 宮地鼓、アイヌの装い、令和7年度ブンカラ協働PRイベント「キヤウト コタン 京都でふれるアイヌ文化」、2025年3月21日、京都国立博物館 明治古都館
 - 158) 宮地鼓、アイヌの装い、令和7年度ブンカラ協働PRイベント「キヤウト コタン 京都でふれるアイヌ文化」、2025年3月23日、京都国立博物館 明治古都館
 - 159) 森岡健治、北海道の地名について、令和7年度ブンカラ協働PRイベント「キヤウト コタン 京都でふれるアイヌ文化」、2025年3月16日、京都国立博物館 明治古都館
 - 160) 北嶋由紀、アイヌの装い、令和6年度ブンカラ協働展示「Punkar network × MIE2024 三重から北海道へーアイヌ文化と出会った人々」、2024年12月8日、松浦武四郎記念館
 - 161) 立石信一、大須賀るえ子、第5回 エカシ・フッチのお話 pewre utar nu yan、2024年12月1日、白老生活館
 - 162) 佐々木史郎、博物館の「脱植民地化」国立アイヌ民族博物館の場合、中央大学総合政策学部講義「民族と文化」特別講義、中央大学総合政策学部、2024年7月2日、Zoom
 - 163) 佐々木史郎、国立アイヌ民族博物館における教育普及活動、令和6年度北海道高等学校長協会商業部会夏季研究協議会、北海道高等学校長協会商業部会、2024年7月31日、苫小牧市文化交流センター
 - 164) 佐々木史郎、蝦夷錦を着た人たちー北方諸民族の間に残された絹織物ー、シンポジウム「北方先住民族の交易と産物」、市立函館博物館・国立アイヌ民族博物館、2024年8月17日、函館市中央図書館
 - 165) 佐々木史郎、国立アイヌ民族博物館設立の経緯、岩手大学教育学部 学生研修、岩手大学教育学部、2024年9月26日、国立アイヌ民族博物館
 - 166) 佐々木史郎、国立アイヌ民族博物館設立の経緯、光村図書出版株式会社 社員研修、光村図書出版株式会社、2024年10月17日、国立アイヌ民族博物館
 - 167) 佐々木史郎、アイヌの歴史と文化の正しい理解を促進するためにー国立アイヌ民族博物館の役割、第17回全国SR経営労務センター交流会講演会、北海道SR経営労務センター、2024年10月18日、グランドメルキュール札幌
 - 168) 石渡一人、深澤美香、松浦武四郎と加賀伝蔵：伝蔵のアイヌ語通辞としての生涯、令和6年度ブンカラ協働展示「Punkar network × MIE2024 三重から北海道へーアイヌ文化と出会った人々」トークイベント、2025年1月12日、松浦武四郎記念館

5. 寄稿・解説 ※一般誌、新聞

※著者名（館スタッフにはアンダーライン）、論文標題、雑誌新聞名、巻、号、発行年、最初と最後の頁

- 169) 中井貴規, <ウポポイ オルシペ> 86 ウポポイでマールが出会った「おともだち」 アイヌ文化に関わる動物たち, 北海道新聞, 2024年4月3日
- 170) 矢崎春菜, <ウポポイ オルシペ> 88 マールとアイヌ語を楽しもう 絵本のシーン 展示で体験, 北海道新聞, 2024年5月8日
- 171) 霜村紀子, <ウポポイ オルシペ> 91 生誕90年記念・藤戸竹喜の世界展 木彫り、一点ごとに物語, 北海道新聞, 2024年6月19日
- 172) 鈴木建治, <ウポポイ オルシペ> 93 藤戸竹喜の世界展 動物の一瞬切り取る, 北海道新聞, 2024年7月17日
- 173) 関口由彦, <ウポポイ オルシペ> 95 藤戸竹喜の「樹霊観音像」 熊木彫り一筋からの転機, 北海道新聞, 2024年8月7日
- 174) 鈴木建治, <ウポポイ オルシペ> 96 特別展「驚異と怪異」 想像界の生きもの紹介, 北海道新聞, 2024年8月28日
- 175) 笹木一義、是澤櫻子, <ウポポイ オルシペ> 98 特別展示「驚異と怪異」 世界から多彩な資料300件, 北海道新聞, 2024年9月25日
- 176) 関口由彦, <ウポポイ オルシペ> 99 アイヌの想像の世界 恐れが生んだ化け物, 北海道新聞, 2024年10月9日
- 177) 永石理恵, <ウポポイ オルシペ> 102 ギャラリートーク 展示の見方や裏側解説, 北海道新聞, 2024年11月20日
- 178) 八幡巴絵, <ウポポイ オルシペ> 103 14日から「収蔵資料展」 博物館の裏側、しごと紹介, 北海道新聞, 2024年12月4日
- 179) 八幡巴絵, <ウポポイ オルシペ> 104 「収蔵資料展」1章収集 背景や情報も大切, 北海道新聞, 2024年12月18日
- 180) 大江克己, <ウポポイ オルシペ> 105 収蔵資料を後世に伝える 特別な保管庫、状態診断も, 北海道新聞, 2025年1月15日
- 181) 大江克己, <ウポポイ オルシペ> 107 収集資料を収蔵庫内へ 汚れ除去、状態を改善, 北海道新聞, 2025年2月5日
- 182) 佐々木史郎, <ウポポイ オルシペ> 108 「サンタン交易と蝦夷錦」展 15日から 北東アジアのシルクロード, 北海道新聞, 2025年2月26日
- 183) 小林美紀, <ウポポイ オルシペ> 109 蝦夷錦の運搬、図説で 舟やそり使い伝来, 北海道新聞, 2025年3月12日
- 184) シンウォンジ, <ウポポイ オルシペ> 110 蝦夷錦 文様鮮やかな絹織物, 北海道新聞, 2025年3月26日
- 185) ナアカイ, セタ（「アイヌイタク エエラムアン？ アイヌ語してる？」）, 毎日小学生新聞, 2024年5月9日
- 186) ナアカイ, イパククニ（「アイヌイタク エエラムアン？ アイヌ語してる？」）, 毎日小学生新聞, 2024年8月8日
- 187) ナアカイ, レラ（「アイヌイタク エエラムアン？ アイヌ語してる？」）, 毎日小学生新聞,

2024年10月10日

- 188) ナアカイ, エサマン (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる?」), 毎日小学生新聞, 2024年12月26日
- 189) ナアカイ, イクパスイ (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる?」), 毎日小学生新聞, 2025年3月13日
- 190) 押野朱美, 谷地田未緒, 先住民族、音楽が紡ぐ絆 ウポボイの押野さん、谷地田さん NZ で国際学会参加, 北海道新聞, 2025年2月17日
- 191) 田村実咲, 〈基本展示室のこの展示を見て!!〉サケにまつわる資料を探してみよう!, ANUANU, 18号, 2024, 5
- 192) 小林美紀, サンベ (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる?」), 毎日小学生新聞, 2024年5月23日
- 193) 小林美紀, シリセセク (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる?」), 毎日小学生新聞, 2024年8月22日
- 194) 小林美紀, ウパシキキリ (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる?」), 毎日小学生新聞, 2024年11月14日
- 195) 小林美紀, オシッテス (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる?」), 毎日小学生新聞, 2025年1月30日
- 196) 長谷仁美, 永石理恵, 国立アイヌ民族博物館における「教員のための博物館の日」, 博物館研究, 59, 12 (通巻679号), 2024, 18-22
- 197) 劉高力, ICOM ICME 学会 2024年大会の報告, ANUANU, 18, 2024
- 198) 劉高力, 博物館の展示企画室ではどのような仕事をするのでしょうか, ANUANU, 18, 2024
- 199) 劉高力, ラホールは、実家だよ, 立命館大学アジア・日本研究所電子誌 アジア・マップ, 2, 2024
- 200) 笹木一義, 博物館 Pickup!: ジオラマ展示—ピスン ウレシパ 海辺のくらし/キムン ウレシパ 山のくらし (イケレウシ「テンパテンパ」探究展示 テンパテンパ t.1 / t.2 エリア), ANUANU, 18, 2024, 7
- 201) 奥山英登, 博物館 Pickup!: 探究展示 t.3 の動物たち, ANUANU, 19, 2025, 6
- 202) 是澤櫻子, 基本展示室のこの展示を見て!! 毛皮利用を知る, ANUANU, 16, 2024, 5
- 203) 是澤櫻子, 石田収蔵資料にみるサハリン先住民族との関係史, 『樺太紀行~徳丸の人類学者と樺太の北方諸民族~』板橋区立郷土資料館, 2025, 94-105
- 204) 深澤美香, ミクミク (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる?」), 毎日小学生新聞, 2024年4月25日
- 205) 深澤美香, コンブ (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる?」), 毎日小学生新聞, 2024年7月25日
- 206) 深澤美香, ト (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる?」), 毎日小学生新聞, 2024年10月24日
- 207) 深澤美香, ルブ (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる?」), 毎日小学生新聞, 2025年1月16日
- 208) 深澤美香, ウパシチリ (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる?」), 毎日小学生新聞, 2025年3月27日

- 209) 深澤美香, 見て見て！園内サイン「サパネクトゥンプ 館長室」, ANUANU, 19, 2025
- 210) 大江克己, 国立アイヌ民族博物館が導入した空調設備の特徴と運用方法, 文化財保存修復学会誌, 68, 2025, 123-126
- 211) 佐々木史郎, 津田命子先生の北海道功労賞受賞に寄せて, 北海道功労賞 受賞に輝く人々, 2024, 15-17
- 212) 佐々木史郎, 津田命子さんのご功績をたたえて, 北海道功労賞 受賞に輝く人々, 2024, 104-105
- 213) 佐々木史郎, 博物館 Pickup! : クロテンの毛皮とラッコの毛皮, ANUANU, 16, 2024, 7
- 214) 佐々木史郎, シベリアの空にきらめくシュプール 天の川, かまくら春秋, 655, 2024, 58-61

6. 図書

※著者名（館スタッフにはアンダーライン）、論文名、編者名、書名、出版社、発行年、
最初と最後の頁（総ページ数）

- 215) 立石信一, 歩くことから, 国松希根太『この地で息吹く』 分担執筆, 求龍堂, 2024, 68-71 (160)
- 216) 立石信一, 研究のための連携, 黒澤浩, 『博物館教育論（第2版）』 分担執筆, 講談社, 2025, 135-141 (192)
- 217) 川瀬由高、稲澤努、長沼さやか、藤川美代子、呉松旆, 『王崧興『亀山島』と漢人社会研究：翻訳・論考・資料』, 風響社, 2024, (576)
- 218) 田村実咲, 北海道大学大学院文学院文化多様性論講座博物館学研究室, 『開講！木彫り熊概論 歴史と文化を旅する』, 文学通信, 2024, (368)
- 219) 小林美紀, 『最新アイヌ学がわかる』 分担執筆, A & F, 2024, 96-101 (160)
- 220) 荒田このみ、小林美紀、中井貴規、深澤美香、山丸賢雄、山道ヒビキ、小林美紀, 『ウポポイのアイヌ語表示辞典』(国立アイヌ民族博物館研究プロジェクト「アイヌ語資料等のアーカイブ化とその活用に関する基礎研究」(2021A03) 報告書), 国立アイヌ民族博物館, 2025, (148)
- 221) 古田嶋智子, 『文化財保存環境学（第3版）』 分担執筆, 朝倉書店, 2025, (224)
- 222) 北嶋由紀、宮地鼓, 『アイヌ民族の衣服に関する調査研究報告書 Vol. 1—国立アイヌ民族博物館収蔵の樹皮衣・ルウンペー』, 国立アイヌ民族博物館, 2025, (54)
- 223) 佐々木史郎、北原モコトウナシ編, 『最新アイヌ学がわかる』, A & F, 2024, (160)
- 224) 市川暢子, ウラシベツの頭領が銀の釣針金の釣針の宝を宝壇に秘蔵する, 『金成マツ筆録 イヨッタテッカカポ フツチャンル 滝本イチ 口述ウエペケレ 6話の研究』 分担執筆, 白老町, 2025, 8-44, (220)

2) 外部資金の獲得状況

当館は、2024 年度から科学研究費助成事業（科研費）への応募資格を有し、研究課題7件を応募した。その結果、基盤研究（B）に1件、基盤研究（C）に4件採択されている。また、研究員・学芸員が所属（兼務）する他の機関から、科研の研究代表者や研究分担者、あるいは研究協力者として参画している。2024年度の科研費を含む外部資金獲得状況は以下の通りである。

※研究者名（館スタッフにはアンダーライン）、外部資金名、開始年度 - 終了年度、課題名、研究者役割

- 225) 古田嶋智子、日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)、2022-2024、博物館で用いるためのサンプリングバッグによる放散試験方法の開発、研究代表者
- 226) 谷地田未緒、日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)、2022-2025、アイヌ民族の〈舞踊〉に関する文化政策的研究：民俗文化財から民族文化遺産へ、研究代表者
- 227) 佐々木史郎、科学研究費助成事業 基盤研究 (A)、2021-2024、先住性と集団帰属意識の歴史的形成過程の検討、研究分担者
- 228) 大江克己、日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (A)、2023-2027、文化遺産アセットの効率的利活用を目指したミュージアム DX 技術の開発、研究協力者
- 229) 是澤櫻子、北極域研究加速プロジェクト (ArCS II) 社会文化課題 サブ課題3 「食とアイデンティティをめぐる先住民社会」、2021-2025、温暖化する北極域から見るエネルギー資源と食に関わる人間の安全保障、研究協力者
- 230) 笹木一義、国立研究開発法人 科学技術振興機構 JST-RISTEX [SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラム：シナリオ創出フェーズ]、2022-2024、市民の SDGs 取組に向けた行動変容のためのミュージアム活用シナリオの創出、研究協力者
- 231) 笹木一義、日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)、2021-2024、アイヌ文化の何をどう学ぶか—多文化共生のための博物館活用文化学習のデザインと評価、研究協力者
- 232) 深澤美香、東京外国語大学 AA 研共同利用・共同研究課題、2024-2026、アイヌ語現地調査資料のアーカイブズ構築にかんする学際的研究 (3)、共同研究員
- 233) ナアカイ、令和6年度科学研究費助成事業 挑戦的研究 (萌芽)、2024-2026、アイヌ民族教育における社会モデルに立った叙述法と教案の構築、研究協力者
- 234) 森岡健治、北海道大学、2024-2024、北海道大学アイヌ・先住民研究センター研究協力、客員研究員
- 235) 呉松施、日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (B)、2024-2027、台湾東海岸における海洋文化資源の利用と消費が生み出す多元的日本像についての研究、研究協力者
- 236) 小林美紀、東京外国語大学 AA 研共同利用・共同研究課題、2024-2026、アイヌ語現地調査資料のアーカイブズ構築にかんする学際的研究 (3)、共同研究員

3) 表彰・受賞

2024 年度に当館の研究員・学芸員が学会等から授与された表彰は以下の通りである。

- 237) シンウオンジ、北海道民族学会奨励賞、『松前家記附録外国部』の朝鮮漂客李先達関係資料について、北海道民族学、20, pp.17-31, 2024., 北海道民族学会、2024 年 6 月 22 日

IV -04-05 レファレンス

- ・利用者からの問合せ（以下、レファレンス）約 170 件分、ライブラリ 60 件分を対応した（2024 年 4 月から 2025 年 3 月）。
- ・当館の使命であるアイヌ民族の歴史と文化の正しい知識の提供と理解の促進を目指し、現在 web サイトにて公開している「よくある質問」の更新について検討した。

IV-04-06 外部資金獲得のための体制整備

当財団における公的研究費の管理・監査および研究活動における不正行為への対応等に関する規程・要領について周知し、日本学術振興会による研究倫理eラーニングコースを受講した。また、査読付きの学術論文執筆および学会誌等への投稿等を促進するための支援制度を整備した。

IV-04-07 国内外の博物館等が所蔵するアイヌ資料の調査の実施

2024年度は石巻市博物館所蔵のアイヌ資料245点について調査を行い、調書の作成と写真撮影を行った。

IV-04-08 刊行物

1) ニュースレター「アヌアヌ」

2024年度は16号から19号まで刊行した。部数は各10,000部で、関係各所に送付した。



16号から19号までの表紙

IV-04-09 国際交流

国際オフィスの活動

国際オフィスは博物館開館とともに専門グループとして設立された。国際オフィスは、博物館、国立民族共生公園、札幌の財団本部の3部署の担当者からなる「国際タスクフォース」（2020年立上げ）のメンバーとして、互いに情報共有をしながら国際交流案件を担当した。そのため以下には、国際タスクフォース分として、国立民族共生公園等の実績や、博物館が関わる財団全体の動きが含まれている。

1) 国際対応の環境整備等

- ・組織改編に従い、組織・部署名、肩書等の正式な英語名称をアップデートした。
- ・海外要人の対応や協定に向けての取り組みを、2020年に策定された基本方針に従い国際タスクフォースと連携して行った。

2) 協定の締結

2024年11月7日、民族共生象徴空間ウポポイ（当館を含む）の運営を行う「公益財団法人アイヌ民

族文化財団」と、フィンランド、イナリにある「国立サーミ博物館 SIIDA」との間で、連携協力協定を締結した。これはポロトコタン（旧アイヌ民族博物館）と1984（昭和59）年に結んだ姉妹館提携を更新するもの。40年を経て双方が国立施設となり、職員の相互交流、共同調査研究・展示などを共同で実施していくこととなった。締結は、40年前に調印式が行われたフィンランド・イナリの地で、野本正博副本部長、阿部範幸事務局長代理と、SIIDAのタイナ・マレット・ピエスキ館長が行った。



調印式



調印式後の記念写真

3) 海外要人受け入れ（大使等）

以下3件の海外要人を受け入れた。

2024年6月5日 オーストラリア大使館 ジャスティン・ヘイハースト (Justin Hayhurst) 大使

2024年10月9日 中華人民共和国駐札幌総領事館 王 根華 総領事

2024年12月6日 ウェールズ政府国際交流本部 デイヴィド・ウォレン (David Warren) 本部長

4) 国際交流・国際支援

(a) 先住民族の国際交流

2024年5月16日、2025年3月13日 カナダ ビショップス大学先住民学生交流

ケベック州にある同大学で、各学部にも所属する先住民の学生たちが、大学の先住民国際交流プログラムとして来日。同年度は同大学での年度をまたいだため、2回の訪問があった。プログラムの視察やレクチャーに加えて、交流会を実施した。



5月（左）と3月（右）のグループ受け入れの様子

2024年7月5日 アオテアロア・ニュージーランド マオリのハカと星座

アオテアロア・ニュージーランドから Vikki Demant 氏、Jade Kameta 氏、Te Kawehau Hoskins 准教授、Alison Jones 教授が来訪。星に関するアイヌとマオリの知識の交換会や視察の後、あいにくの雨が降る中、野外舞台で芸能を実演、ウポボイの職員にハカを教えてくださいました。



左：星の先住民知識に関する勉強会、右：雨の中ハカを演じる

2024年7月24日 ハワイポリネシアンカルチャーセンター（PCC）のダンス

一般社団法人 ベニウクルの早坂賀道氏、早坂ユカ氏、早坂由似氏、杉村忍氏、岩佐奈々子氏（北海道大学）とともに、ハワイポリネシアンカルチャーセンター（PCC）のダンサーである David V T Galea'i 氏、Viceson Hanohano Galea'i 氏、Jeralee Galea'i 氏が来訪。伝統芸能や博物館を視察した後、PCC のダンサーがファイヤーナイフダンスなどを上演した。



左：ファイヤーナイフダンスの様子、右：夜のコタンで記念写真

2024年5月6日、11月27日 ハワイからの来訪

5月6日はハワイにあるパロロ本願寺から、住職と檀家の皆さんがウポボイへ来訪。海外研修でハワイを訪れたメンバーが、伝統的チセの中で、意見交換と、フラとアイヌの踊りの交流などを行った。11月27日には、ハワイ語のイメージ教育を行っている保育園「Aha Pūnana Leo」から、Nāmaka Rawlins 氏ほか4名が来訪。アイヌ語を専門とする職員と、ハワイ語の言語復興について意見を交わした。



左：踊りの交流を行うパロロ本願寺グループ、右：ハワイ語保育園‘Aha Pūnana Leo グループ

2024年11月27日、2025年2月28日、3月13日 大学や博物館の専門家との交流

11月27日には、北海道大学先住民・文化的多様性研究グローバルステーション(GSI)が主催する国際シンポジウムのために、ゲストとして来日した方々をご案内した。来訪したゲストは、博物館や大学で、先住民の資料や返還に係る専門家。また翌年2月28日には、GSIと台湾の国立成功大学、台湾の原住民研究者とともにを行う研究会に合わせて、ウポポイを来訪。3月13日には、国立民族学博物館のシンポジウムのためにオーストラリアから来日した、先住民物質文化の専門家たちが展示や施設見学の後、同日に来訪していたカナダのグループとともに交流会を実施した。



左：返還に関する専門家グループ、右：先住民物質文化専門家グループ

2024年4月16日から20日 TULU 2024世界先住民観光サミット

2024 World Indigenous Tourism Summit (WITS)が台湾・高雄市で開催され、当財団から岡田恵介参加がプレゼンテーションを行った。同サミットは、先住民の観光政策に関する調査、経験の共有、協議を行い、政府、NGO、観光業界などからメンバーが参加した。同サミットをきっかけに、国際連合の専門機関で



プレゼンテーションの様子

ある世界観光機関（UN Tourism）が発行する『先住民観光グッドプラクティス集（Compendium of Good Practices in Indigenous Tourism）』のアジア太平洋版に、ウポボイの事例が掲載された。



刊行された本の表紙

2024年8月 ドイツ・ラウテンシュトラウフ＝ヨースト博物館からホホチリの寄託

ラウテンシュトラウフ＝ヨースト博物館から、世界に数点しか現存しないといわれているサハリン（樺太）のアイヌ資料「ホホチリ」の寄託を受けることとなり、8月に同資料が到着した。ラウテンシュトラウフ＝ヨースト博物館は、当館で毎日上映されているシアタープログラム「世界が目にしたアイヌの技」にも登場しているほか、過去に当館が、先方館の企画展「A Soul in Everything: Encounters with Ainu from the North of Japan」展（2021年11月～2022年2月）にも協力している。



左：資料到着時の受け入れの様子、右：当館に寄託された資料「ホホチリ」
(c) Loan: Rautenstrauch-Joest Museum, Cologne, Germany

(b) 海外の博物館・大学・研究機関との国際交流

上記のほか、博物館・大学との国際交流として、フランス ケ・ブランリー・ジャック・シラク博物館エマニュエル カサエロー（Emmanuel Kasarhérou）館長、フィンランド・センター所長アンナ＝マリア・ウィルヤネン（Anna-Maria Wiljanen）氏、米国シラキュース大学榎原千絵准教授他、室蘭工業大学留学生、カナダ・ケベック州立文明博物館、東京藝術大学グローバルアートプラクティス専攻留学生と鈴木ヒラク准教授、JICA「博物館とコミュニティ開発」コース参加者、ドイツ考古学研究所などを受け入れた。

(c) 上記以外の国際交流事業

上記のほか、国際タスクフォースとして、マンロー先生を偲ぶ会とアイリーン・マンロー氏、韓国・務安（ムアン）干潟世界遺産登録推進協議体、ウェールズ・アーツ・インターナショナル、ジャパン・ソサエティ・ニューヨーク、カナダ・アジア太平洋財団、対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」若手リーダー招へいグループ（カナダ）などを受け入れた。

また国際タスクフォースが関わった事業として、「ウポポイミュージックフェスティバル 2025」が開催され、2025年1月15日にハンガリーの口琴音楽ユニット「Zoord（ゾールド）」が、2月8日～11日にはキルギスから「Ustatshakirt（ウスタトシャキルト）」、南インドから「Morsing Waves（モールシンの波）」が来日し、国内ゲストとともに公演を行った。2025年3月8日、9日には、前年に連携協定を結んだ台湾の「原住民族委員会原住民族文化発展中心」にて、アイヌの芸能台湾公演が実施された。

IV -05 資料の収集、保管、活用

IV -05-01 アイヌ文化関係資料等の受入及び貸出

1) アイヌ文化関係資料等の受入

a) 資料の買取

資料買取の結果は、申出者3名、資料65件177点。概要や関係会議等は下記のとおり。

資料は、美術品、記録資料、および民具全般。これからの基本展示や調査等に向けて、型染め版画、記録ノート、イクパスイ、ニンカリなどを中心に購入した。

<関係会議等>

2024（令和6）年度第1回国立アイヌ民族博物館鑑査会議	2024年6月7日
2024（令和6）年度第1回国立アイヌ民族博物館買取協議会	2024年7月2日
2024（令和6）年度第1回国立アイヌ民族博物館買取評価	2024年7月31日
2024（令和6）年度第2回国立アイヌ民族博物館買取評価	2024年8月21日
2024（令和6）年度第3回国立アイヌ民族博物館鑑査会議	2024年8月30日
2024（令和6）年度第2回国立アイヌ民族博物館買取協議会	2024年10月11日
2024（令和6）年度第3回国立アイヌ民族博物館買取評価	2024年11月13日

b) 資料の寄贈

寄贈の結果は、申出者18名、資料70件708点。概要や関係会議等は下記のとおり。

資料は記録資料、歴史資料、および民具全般。これからの基本展示や調査等に向けて、カセットテープ、フィールドワークスケッチ、写真、古地図、サラニブなどを中心に受入した。

<関係会議等>

2024（令和6）年度第2回国立アイヌ民族博物館鑑査会議	2024年7月11日
2024（令和6）年度第1回国立アイヌ民族博物館寄贈評価	2024年7月31日
2024（令和6）年度第3回国立アイヌ民族博物館鑑査会議	2024年8月30日
2024（令和6）年度第2回国立アイヌ民族博物館寄贈評価	2024年11月13日
2024（令和6）年度第4回国立アイヌ民族博物館鑑査会議	2025年1月10日
2024（令和6）年度第3回国立アイヌ民族博物館寄贈評価	2025年2月10日

2) 資料の貸出

- ・ 6件 228点 貸出先は以下の通り
 - a) 九州国立博物館 九州国立博物館文化交流展「海の道、アジアの路」（平常展）
 - b) 帯広百年記念館 令和6年度アイヌ工芸品展「アットゥシと太布一糸がつなぐ文化」
 - c) 徳島県立博物館 令和6年度アイヌ工芸品展「アットゥシと太布一糸がつなぐ文化」
 - d) 松浦武四郎記念館 令和6年度プンカラ協働展示 三重から北海道へーアイヌ文化と出会った人々
 - e) 大黒屋光太夫記念館 令和6年度プンカラ協働展示 三重から北海道へーアイヌ文化と出会った人々
 - f) 株式会社東京光音 アイヌ語アナログ音声資料のデジタル化及び収録内容調査分析

3) 関係要領、収蔵品の定義、収集方針、買取基準等の制定

- ・ 2021年に定めた「国立アイヌ民族博物館鑑査会議、買取協議会、買取評価員、寄贈評価員の運営等に関する要領」「国立アイヌ民族博物館文化財貸借要領」のもと、各委員会の運営および資料貸与を行った。

4) 資料受入の大まかな流れ

- ・ 買取：希望申出⇒鑑査会議⇒買取協議会⇒買取評価⇒合意の上、契約へ
- ・ 寄贈：希望申出⇒鑑査会議⇒寄贈評価
- ・ 寄託：希望申出⇒鑑査会議⇒合意の上、契約へ

5) 関係会議の概要

- ・ 鑑査会議：8名で審議。収集方針の策定、文化財の買取、寄託者からの受託、寄贈者からの贈与、列品への編入又は解除、列品の修理、その他博物館において規定する事項を審議する。
- ・ 買取協議会：5人以上で審議。鑑査会議をうけて、資料等の買取の適否について、外部有識者の公正な意見を求めるために開催。
- ・ 買取評価：7人以上で行う。買取協議会をうけて、買取予定価格算定のため、外部有識者の意見に基づいて客観的に行う。
- ・ 寄贈評価：5人以上で行う。寄贈資料の評価額算定のため、外部有識者の意見に基づいて客観的に行う。



2024年度買取資料：木彫り熊（藤戸竹喜か）

IV-05-02 博物館における列品等の整理及び整備

1) 2023（令和5）年度資料クリーニング点数

- ・作業期間／2024年4月～2025年3月 実施数／4,000点

2) 資料確認及び移送資料の再梱包

2021（令和3）年度に、旧社台小学校から当館収蔵庫への移送が完了したため、資料確認及び収蔵庫にて保管するための再梱包作業を行った。

IV-05-03 収蔵品管理システムへのデータ登録、外部公開、保守管理

当館では、アイヌの歴史・文化等に関する調査と研究を行うため、展示や研究対象となる資料を収集している。当館収蔵品について、目的・用途に応じて体系的に分類・整理のうえ、データベースとして一元的に管理し、適切な保存に努める。あわせて、収蔵品情報を一般の利用に供する。一元管理用の管理システムと一般の利用に供する公開システムがある。

- ・収蔵品管理システム：データベースのうち、当館収蔵品及び利用等に関する履歴、教育活動の記録等の情報をデータベース化して一元管理するシステム。
- ・収蔵品公開システム：データベースのうち、収蔵品管理システムで管理する収蔵品等の主な情報を抽出して公開し、一般の利用に供するシステム。

1) 収蔵品管理システム登録状況

旧（一財）アイヌ民族博物館の資料と2015（平成27）年度から2024（令和6）年度一回目までの文化庁購入資料について登録作業を行った。令和7年3月31日時点での総登録件数は以下のとおり。

〈資料に関わる登録・修正〉

- ・資料登録件数 14,025 件
- ・資料修正件数 6,095 件（管理資料名、管理資料名カナ、管理資料名ローマ字表記、公開用資料名、原資料名、コレクション名等の修正）
- ・画像登録件数 17,304 件（7,845 件新規登録）
- ・音声登録件数 14 件

〈その他、特別利用・辞書機能に関する登録〉

- ・展示 211 件 基本展示や特別展示等で使用した資料、旧（一財）アイヌ民族博物館時代の展示資料の登録
- ・修理 48 件（6,419 点） 資料クリーニングについて月ごとでの登録
- ・その他利用 173 件 特別観覧の登録
- ・教育 1 件 教育コンテンツとしての登録
- ・和暦辞書 1 件 令和の登録
- ・アイヌ語辞書 89 件 主に、公開用の単語を登録
- ・和名辞書 27 件 主に、公開用の単語を登録
- ・住所録 35 件 美術資料の作者名や資料貸借の担当者名などを登録
- ・コレクション 39 件 年度別の購入、寄贈資料についても登録
- ・分類 85 件 大中小について登録
- ・テーマ 63 件 公開用のための検索ワードとして登録

2) 公開件数

当館公式 web サイトにて公開 (<https://archives.nam.go.jp/DB/>)。2025 年 3 月時点で以下のとおり。
アクセス数は 72,668 (2024 年 4 月～2025 年 3 月)。

- ・資料公開件数：259 件
- ・画像公開件数：589 件

3) 保守管理

システムの定期メンテナンスを 2 回実施。2024 年 10 月 10 日、2025 年 3 月 21 日ともに異常なし。

IV -05-04 資料の熟覧・画像利用

博物館が所蔵する資料の利用に係る規定、要領、要項は以下の通り。

- ・国立アイヌ民族博物館列品管理規定
- ・国立アイヌ民族博物館資料利用要項
- ・国立アイヌ民族博物館職員資料利用要領
- ・国立アイヌ民族博物館特別観覧要領

1) 列品等の特別観覧

- ・15 件 223 点の申請すべての対応を行った（職員特別観覧 49 件 1,836 点）

2) 資料等の画像利用

- ・35 件 112 点の申請のうち 28 件 97 点の許可の対応を行った（職員画像利用 8 件 53 点）

3) 特別観覧等の計画

共同研究における列品等の特別観覧申請 0 件。

4) 列品等の出品調整

当館事業の基本展示・特別展示等に係る列品等の出品の調整について、職員列品陳列申請を作成し、館内周知を行い、整備した。またそれを基に収蔵品管理システムを使い、各展示にて使用した履歴やこれから使用するという情報を登録し、同時期に使用できないことに気づかせる仕組みにした。また、展示後に収蔵庫へ保管してから 365 日間は休日とし、その期間に当てはまる列品の使用は極力控えるように促した。

IV -05-05 分析機器運用

CT など調査分析機器等を適切に運用するとともに、良好な状態で使用できるよう保守管理を行った。

1) 科学分析装置の運用

当館設置の科学分析装置について運用した。運用実績（件数 / 使用数）は下記の通りである。

- a) 蛍光 X 線分析装置 : 金属製資料、絵画資料等の調査（20 件 / 120 回使用）

- b) 携帯型蛍光 X 線分析装置 : 金属製資料、絵画資料等の調査 (10 件 /100 回使用)
- c) X 線回折装置 : 顔料の結晶構造調査 (1 件 /5 回使用)
- d) 走査電子顕微鏡 : 染色繊維試料等の拡大観察 (1 件 /5 回使用)
- e) X 線 CT 装置 : 収蔵品、借用品等の構造診断、形状解析 (55 件 /275 回使用)
- f) レントゲン撮影装置 : 考古資料等の内部観察 (1 件 /10 回使用)
- g) デジタルマイクロスコープ : 繊維試料、刺繍試料等の拡大観察 (3 件 /33 回使用)
- h) 三次元蛍光分光分析装置 : 顔料試料等の彩色分析 (10 件 /100 回使用)
- i) ハイパースペクトルカメラ : 絵画資料等の彩色調査 (2 件 /6 回使用)
- j) キセノン型耐候試験機器 : 染色資料片の劣化試験 (0 件 /0 回使用)
- k) 恒温恒湿装置、恒温装置 : 調湿剤の調湿、試験等に伴う利用 (1 件 /1 回使用)
- l) 真空凍結乾燥機 : 凍結資料の乾燥処理 (1 件 /1 回使用)
- m) 三次元スキャナ : 大型形状資料等のデータ取得、解析 (5 件 /30 回使用)
- n) 三次元プリンタ : 資料整備、展覧会、研究プロジェクト等での利用 (10 件 /50 回使用)

2) 科学分析装置の保守管理について

調査研究等で利用できるよう保守管理を実施した。下記に実施内容を記す。

- a) 蛍光 X 線分析装置 : 機器点検 (1 回実施)
- b) X 線回折装置 : 機器点検 (2 回実施)
- c) 走査電子顕微鏡 : 機器点検 (1 回実施)
- d) X 線 CT 装置 : 機器点検 (2 回実施、制御用ソフトウェアの保守含む)
- e) 三次元蛍光分光分析装置 : 機器点検 (1 回実施)
- f) 恒温恒湿装置、恒温装置 : 機器点検 (1 回実施)
- g) 三次元プリンタ : 機器点検 (2 回実施)

3) 共同研究等に応じた、分析等計画調整

当館設置の科学分析装置を当館研究プロジェクトで利用した。使用した研究プロジェクト名及び利用実績 (件数 / 使用数) を下記に記す。

a) 蛍光 X 線分析装置	: 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究 (10 件 /100 回使用) 2024PC01 13 世紀に至る恵庭市域所在の擦文土坑墓の考古学的基礎研究 (10 件 /20 回使用)
b) 携帯型蛍光 X 線分析装置	: 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究 (8 件 /80 回使用)
c) X 線回折装置	: 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究 (1 件 /5 回使用)
d) X 線 CT 装置	: 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究 (40 件 /200 回使用) 2024PC01 13 世紀に至る恵庭市域所在の擦文土坑墓の考古学的基礎研究 (10 件 /10 回使用) 2024PC02 石狩市紅葉山 33 号遺跡出土「漆塗り弓 (文様入り)」の調査研究 (1 件 /10 回使用)
e) デジタルマイクロスコープ	: 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究 (2 件 /21 回使用)
f) 三次元蛍光分光分析装置	: 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究 (10 件 /100 回使用)
g) ハイパースペクトルカメラ	: 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究 (2 件 /6 回使用)
h) 三次元スキャナ	: 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究、2021A07 チャンの形成に関する考古学的研究 (5 件 /30 回使用)

i) 三次元プリンタ	:2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（5件/25回使用） 2024PC01 13世紀に至る恵庭市域所在の擦文土坑墓の考古学的基礎研究 （3件/15回使用）
------------	---

4) 苫小牧市教育委員会より寄託の勇払弁天海岸出土丸木舟について

苫小牧市教育委員会より寄託を受けた勇払弁天海岸出土丸木舟について、協定に基づき関連調査及び修理の実施について対応した。関連調査として、取得した三次元データのデータ作成ならびに、厚岸町出土板綴舟との形状解析を行い、関連学会での成果公表を行った。

IV -05-06 資料収蔵環境整備（IPM、燻蒸を含む）

博物館における文化財資料の収蔵環境整備（IPM、燻蒸を含む）に関する計画を作成し、適宜実施した。

1) 収蔵庫内の空気汚染物質濃度について

収蔵庫内の空気汚染物質濃度の測定を実施した。有機酸濃度、アンモニア濃度共に東京文化財研究所の指針値以下の値を確認し、問題ない状態を確認した（収蔵庫：3地点測定）。

2) 収蔵庫内の温湿度制御について

空調制御による一般収蔵庫、特別収蔵庫内の温湿度制御を実施した。空調負荷を減らすため昨年の設定値を見直し、温度 22℃（± 2℃）、相対湿度 55%（± 4%）での制御とした。安定した推移を確認し庫内環境が維持できるよう対応した（測定箇所：17箇所、温湿度データ回収：12回実施）。

3) 展示室及び展示ケース内の温湿度制御

空調制御による基本展示室、特別展示室の温湿度測定を実施した。温度 22℃（± 2℃）、相対湿度 55%（± 4%）を目標値に制御し、安定した推移が維持できるよう対応した（測定箇所：77箇所、温湿度データ回収：12回実施）。安定した推移での制御を達成したが、昨年と同様に夏季（7～8月）と冬季（12～2月）は、基本展示室、特別展示室共に、外気の影響による相対湿度の乱れが確認された。特に夏場の相対湿度の上昇が顕著で、展示ケースにも影響を及ぼしている。空調制御値等の調整（設定温度や露点温度の調整 計 15回程実施）に加え、除湿機能を付随させることを予定し、次年度への対策を行った。各室内の温湿度制御を施して問題のない値への是正対応、展示ケース内設置の調湿剤について交換作業を実施した。交換数は約 100点である。

4) 展示ケース内の空気汚染物質濃度の低減

基本展示室、特別展示室の展示ケース内の空気汚染物質濃度の調査、ガス吸着剤の設置を実施した。有機酸濃度、アンモニア濃度共に東京文化財研究所の指針値以下の値を確認し、問題ない状態の維持を確認した（計測地点：21地点測定）。なお、展示内容によっては、資料自体や支持具、造作類からのガスの放散が懸念される場合もある。こうした事態にも対応できるようガス吸着剤の設置交換を行い、資料の安全な展示ができるよう対応した（作業：10回実施）。

5) 害虫トラップの設置による虫害の監視

館内各所に害虫トラップを設置し 1ヶ月毎に回収して捕獲された害虫を調査した。昨年度に続き、館

内の害虫の侵入は少ない状態を維持できた（設置箇所：105箇所）。

6) 列品や借用品等の生物処理について

列品や借用品等について、必要に応じて下記の生物処理を実施し対応した。

- ・薬剤燻蒸（酸化エチレン・フルオロカーボン製剤による殺虫及び殺菌処理）

1回目：実施日/2024年8月 処理点数/約200点（民具資料、紙資料、図書類等）

- ・凍結処理（-20℃環境下での殺虫処置）

1回目：実施日/2024年4月 処理点数/1点（基本展示用 図書類）

2回目：実施日/2024年10月 処理点数/10点（調査研究用 図書類）

7) 特別展示に関する重要文化財の借用に伴う環境整備

秋の特別展示（第9回特別展示「驚異と怪異—想像界の生きものたち」）では、国指定品（重要文化財）

1件を出品した。継続的な国指定品の展示ができるよう、国宝・重要文化財の環境水準の維持制御を視座に継続的な環境整備を実施した。今年度も国指定文化財の借用に問題ない状態の評価を得ており、翌年度以降に計画している国指定品の借用にも支障のないよう、対応を継続する。

8) 当館収蔵庫におけるIPMメンテナンスの実施

当館収蔵庫内のIPMメンテナンスを実施し、収蔵庫内の清浄度の向上を図った（実施日 2025年3月5日～3月7日）。対象は、一般収蔵庫、特別収蔵庫、前室の3室に加えた、各室の空気層である。微細な塵埃や細部の汚れ等の除去を行った。床面を対象にダスト解析を行うと、作業エリアや頻りに展示替えを行う資料付近の汚れが顕著であった（採集箇所/8箇所、拭き取り調査箇所/7箇所、塵埃調査/12箇所）。日常的に清掃を実施しているが、微細な汚れは除去しきれないことが確認された。年1回のIPMメンテナンスを行うことで細かなケアを施す必要がある。

9) シアターで発生したカビの殺菌及び除去対応

2023年度の夏にシアター壁面等へカビが発生した件について、6月から10月にかけてシアター内空調の除湿機能を稼働させ、室内の相対湿度を低下させる対応を実施した。その結果、本年はカビの発生は見られず良好な環境を維持している。次年度も継続して対応する。

IV -05-07 博物館ライブラリの運営

- ・図書の閲覧（6,443人、うち子どもは801名）、複写（81件）、レファレンス（60件）に対応した。
- ・特別展示等とタイアップしてライブラリ内において小展示を2回実施した。
- ・図書館システムへの図書の登録作業を約1,700冊分行った（登録数総計約33,900冊）。

IV -06 教育普及

IV -06-01 博物館における教育事業の企画立案及び実施

1) 遠隔授業

オンライン会議システムを利用し、3校を対象に計2回遠隔授業を実施した。具体的には下記の通り。

- ・幌延町立幌延中学校および幌延町立間寒別中学校3年生に対して、施設説明やアイヌの歴史・文化の解説等を行った（4月21日）。
- ・稚内市立潮見が丘中学校3年生に対して、施設説明やアイヌの歴史・文化の解説等を行った（8月28日）。

※人数および団体数はIV -06-04 教育旅行等で来館する学校に対する教育プログラムに含まれる。

2) 出前授業

大分県高田高校より依頼があり、12月にニセコにて出前授業を実施した。

3) ホリデーイベント

ホリデーイベントとして、特別展示・テーマ展示に関連するイベントを中心に、通算50回実施した。

内容別の内訳は、工作型6件、講演型10件、対話型16件、ガイド型18件であり、延べ参加者数は2,465名であった。

昨年度に引き続き、記録およびプログラムの評価・検証を目的として、各イベントにおいてアンケートを実施した。

ArCS II 沿岸環境課題・北海道立北方民族博物館との共催イベント「動物の毛皮に触ってみよう」を、昨年度2月に開催した。

開催日	イベントタイトル	外部講師・協力等 (所属は開催時のもの)	計参加人数/名 (内部スタッフ含む)	備考
2024年 4月27日(土)	第6回テーマ展示「ミナ ミナ『おばけのマールとすてきなことば』展」：ウポポイでマールがであったおともだち		19	
5月4日(土)	第6回テーマ展示「ミナ ミナ『おばけのマールとすてきなことば』展」：なかいれいさんとおえかき [1]	イラストレーター なかいれい氏（「おばけのマール」シリーズ え）	52	
5月5日(日)	第6回テーマ展示「ミナ ミナ『おばけのマールとすてきなことば』展」：なかいれいさんとおえかき [2]	イラストレーター なかいれい氏（「おばけのマール」シリーズ え）	61	
5月12日(日)	第6回テーマ展示「ミナ ミナ『おばけのマールとすてきなことば』展」：ファミリー向けプログラム「ボン劇場」特別版（AM）		17	
5月12日(日)	第6回テーマ展示「ミナ ミナ『おばけのマールとすてきなことば』展」：ファミリー向けプログラム「ボン劇場」特別版（PM）		13	
6月29日(土)	第8回特別展示「生誕90年記念 藤戸竹喜の世界展」：ギャラリートーク [1]	五十嵐聡美氏（展示企画監修）	40	
6月30日(日)	第8回特別展示「生誕90年記念 藤戸竹喜の世界展」：映像上映会 [1]		42	
7月14日(日)	第8回特別展示「生誕90年記念 藤戸竹喜の世界展」：ギャラリートーク [2]		36	

7月15日（月）	第8回特別展示「生誕90年記念 藤戸竹喜の世界展」: スペシャルイベント	五十嵐聡美氏（展示企画監修）、藤戸康平	72	
7月27日（土）	博物館のバックヤードツアー「サバネクルに会いに行こう」		5	
8月3日（土）	第8回特別展示「生誕90年記念 藤戸竹喜の世界展」: 映像上映会 [2]		43	
8月10日（土）	第8回特別展示「生誕90年記念 藤戸竹喜の世界展」: ギャラリートーク [3]		36	
8月11日（日）	第8回特別展示「生誕90年記念 藤戸竹喜の世界展」: ギャラリートーク [4]		18	
8月12日（月）	博物館のバックヤードツアー「サバネクルに会いに行こう」		8	
8月17日（土）	第8回特別展示「生誕90年記念 藤戸竹喜の世界展」: 映像上映会 [3]		56	
8月24日（土）	第8回特別展示「生誕90年記念 藤戸竹喜の世界展」: 映像上映会 [4]		76	
8月25日（日）	第8回特別展示「生誕90年記念 藤戸竹喜の世界展」: ギャラリートーク [5]	五十嵐聡美氏（展示企画監修）	38	
9月14日（土）	第9回特別展示「驚異と怪異—想像界の生きものたち」: 開会記念ギャラリートーク	山中由里子氏（国立民族学博物館教授）	17	
9月15日（日）	第9回特別展示「驚異と怪異—想像界の生きものたち」: 開会記念講演会「人はなぜモンスターを想像するのか？」	山中由里子氏（国立民族学博物館教授）	57	
9月21日（土）	第9回特別展示「驚異と怪異—想像界の生きものたち」: ギャラリートーク第1回		18	
10月14日（月）	第9回特別展示「驚異と怪異—想像界の生きものたち」: 民博×アイヌ博クロストーク	山中由里子氏（国立民族学博物館教授）、イラストレーター山丸ケニ氏	62	
10月26日（土）	第9回特別展示「驚異と怪異—想像界の生きものたち」: 対談+ツアー「自然と幻獣 Natural Curiosities」	山中由里子氏（国立民族学博物館教授）、西田清徳氏（元海遊館館長）	18	
10月27日（日）	ホリデーイベント「だれでもアイヌ語教室」AM		14	
10月27日（日）	ホリデーイベント「だれでもアイヌ語教室」PM		8	
11月3日（日）	第9回特別展示「驚異と怪異—想像界の生きものたち」: ギャラリートーク第2回		16	
11月3日（日）	第9回特別展示「驚異と怪異—想像界の生きものたち」: ギャラリートーク第3回		14	
11月16日（土）	ホリデーイベント「クイズに挑戦！アイヌ語の特徴を探ろう」		6	
11月17日（日）	第9回特別展示「驚異と怪異—想像界の生きものたち」: ギャラリートーク第4回		19	
11月23日（土）	ホリデーイベント「アイヌ文様の入ったバッグを作ろう！」		10	
11月24日（日）	ホリデーイベント「アイヌ文様の入ったバッグを作ろう！」		7	
12月7日（土）	ホリデーイベント「だれでもアイヌ語教室」AM		13	
12月7日（土）	ホリデーイベント「だれでもアイヌ語教室」PM		14	
12月14日（土）	第7回テーマ展示「収蔵資料展」:学芸員なりきり体験 展示室でお話をきいてみよう 第1回		12	
12月21日（土）	第7回テーマ展示「収蔵資料展」:学芸員なりきり体験 展示室でお話をきいてみよう 第2回		13	
2025年 1月11日（土）	第7回テーマ展示「収蔵資料展」:学芸員なりきり体験 資料調書をかいてみよう		5	
1月13日（月）	ホリデーイベント「アイヌ語で書き初め」		43	
1月18日（土）	第7回テーマ展示「収蔵資料展」:学芸員なりきり体験 博物館の裏側をみてみよう 第1回		8	

1月25日(土)	ホリデーイベント「ケムニシクルー アイヌがみたオーロラ」		29	
1月26日(日)	ホリデーイベント 展示体験「テンパテンパしてみよう！」		151	
2月1日(土)	第7回テーマ展示「収蔵資料展」：学芸員なりきり体験 展示室でお話をきいてみよう 第3回		23	
2月8日(土)	ホリデーイベント「動物の毛皮に触ってみようーアイヌ民族と北方先住民族の毛皮利用を知る・触るー」	共催：北極域研究加速プロジェクト (ArCS II) 沿岸環境課題 北海道立北方民族博物館	259	
2月9日(日)	ホリデーイベント「動物の毛皮に触ってみようーアイヌ民族と北方先住民族の毛皮利用を知る・触るー」	共催：北極域研究加速プロジェクト (ArCS II) 沿岸環境課題 北海道立北方民族博物館	407	
2月15日(土)	第7回テーマ展示「収蔵資料展」：学芸員なりきり体験 博物館の裏側をみてみよう 第2回		8	
2月16日(日)	ホリデーイベント 展示体験「テンパテンパしてみよう！」		100	
2月23日(日)	ホリデーイベント「だれでもアイヌ語教室～トアップ～」AM		8	
2月23日(日)	ホリデーイベント「だれでもアイヌ語教室～トアップ～」PM		8	
3月15日(土)	第8回テーマ展示「ウイマムレブンカ サンタン交易と蝦夷錦」開会記念講演会 北方から来た交易民		47	
3月20日(木)	ホリデーイベント 展示体験「テンパテンパしてみよう！」		355	
3月22日(土)	第8回テーマ展示「ウイマムレブンカ サンタン交易と蝦夷錦」関連講演会 間宮林蔵が歩いた足跡を追う 樺太(サハリン)・アムール・択捉島へ	相原秀起氏(元北海道新聞記者/ノンフィクション作家)	34	
3月29日(土)	ウイマムレブンカ ギャラリートーク 第一回		30	
			2,465	



第6回テーマ展示「ミナ ミナ『おばけのマールとすてきなことば』展」：なかいれいさんとおえかき（5月4日、5日開催）



第8回特別展示「生誕90年記念 藤戸竹喜の世界展」スペシャルイベント（7月15日開催）



第9回特別展示「驚異と怪異—想像界の生きものたち」：対談＋ツアー「自然と幻獣 Natural Curiosities」（10月26日開催）



ホリデーイベント「アイヌ文様が入ったバッグを作ろう！」（11月23日、24日開催）



第7回テーマ展示「収蔵資料展」：学芸員なりきり体験 博物館の裏側をみてみよう 第1回（1月18日開催）



ホリデーイベント「だれでもアイヌ語教室～トップ～」(2月23日開催)

4) ギャラリートーク

本年度より新たな取組として、基本展示室におけるギャラリートークを定期的で開催した。実施日には1日2回（午前・午後）、通算110回実施し、延べ参加者数は1,494名であった。各職員による専門的な解説のほか、英語・中国語・韓国語等、職員の対応可能言語でのギャラリートークも実施した。



基本展示室ギャラリートーク



基本展示室ギャラリートーク

5) 館外での教育普及事業の実施

2024年8月7日と8日、文科省旧庁舎6階第二講堂にて「こども霞が関見学デー」に参加した。マレク漁体験やシカ笛体験などを実施し、アイヌ文化の発信と当館のPRを行った。

6) 社会人向け研修の実施

来館した20団体（社会人、大学、教育委員会、官公庁他）845名に対して、アイヌ民族の歴史・文化や博物館の概要などについての研修を実施した。

7) 教材教具等の開発

「展示資料をまもる設備類」の開発、作成、配架を行った。また、着物とアイヌ語についてのワークシートを開発中。

昨年度作成したマレク漁セットの付属品として、チェブケレの開発を行い、完成品が納品された。

IV -06-02 アイヌの文化伝承に資する研修の企画立案及び実施

当館と協定を結んでいる（公社）北海道アイヌ協会のアイヌ工芸者技術研修事業については、2名の参加者が当館にて資料熟覧などの研修を行った。

当館主催のアイヌの人たちに対する研修については、「展示資料（アイヌ衣服）複製事業」（2か年計画の2年目）を講師1名、技術者2名にて実施し、完成した着物を3月に納品した。

また、2月に「分析、環境、修復（修理）に関する座学」を実施し、3名の参加者が当館にて保存科学に関する研修を行った。

IV -06-03 学芸員を目指す学生に対する博物館実習の検討

博物館実習の実施について、前年度の検討内容を基に研究学芸部内に対しアンケート調査を行った。各部署の内部職員による回答を収集した上で、現状の館内状況や設備において、満足かつ円滑な学芸員実習を行うことが可能か検討し、次年度以降の計画を作成した。

IV -06-04 教育旅行等で来館する学校に対する教育プログラム

教育旅行で来館する学校教育団体向けに、学習プログラム「はじめてのアイヌ博」を実施した。具体的には、より有意義な展示見学のため、来館した小・中・高等学校等に対して、前提となる知識・見学の要点について解説を行った。2024年度は、137校、137件、引率含め9,210名に実施した。

実施にあたっては、事前連絡を行い、児童・生徒の実態に即した内容を提供した。同年11月より、事前連絡時に、「当館webサイト上のワークシートへの誘導」「動画教材に関する周知」を実施した。

また、「はじめてのアイヌ博」プログラムをさらに深めた内容にするための検討を行った。プログラム実施内訳等は下記の通り（小数点第1位以下は切り上げ）。

■校種内訳

校種	件数	割合
小学校	60	44%
中学校	27	20%
中学校（特別支援学級）	0	0%
高等学校	40	30%
特別支援学級	0	0%
特別支援学校中学部	2	2%
特別支援学校高等部	4	3%
その他	4	3%
合計	137	

■地域内訳

地域	件数	割合
オホーツク	2	2%
札幌	14	11%
空知	3	3%
釧路	0	0%
後志	8	6%
根室	1	1%
宗谷	2	2%
十勝	3	3%
上川	1	1%
石狩	6	5%
胆振	46	34%
渡島	2	1%
日高	0	0%
留萌	0	0%
檜山	2	3%
道外	47	35%
合計	137	

■学年内訳

学年種別	学年	件数	割合
小学校	1	0	0%
	2	0	0%
	3	0	0%
	4	32	25%
	5	3	3%
	6	25	19%
中学校	1	14	11%
	2	4	4%
	3	9	7%
高等学校	1	5	4%
	2	34	26%
	3	1	1%
特別支援学級	1	0	0%
	2	0	0%
	3	0	0%
	4	0	0%
	5	0	0%
	6	0	0%
特別支援学校 中学部	1	0	0%
	2	1	1%
	3	1	1%
特別支援学校 高等部	1	2	2%
	2	0	0%
	3	2	2%
その他		4	3%
合計		137	

■利用教科内訳

利用教科科目	件数	割合
社会科	7	6%
地理	0	0%
歴史	0	0%
公民	0	0%
道徳	0	0%
総合的な学習／探求	57	43%
特別活動	68	51%
その他の教科	3	3%
教科がわかるケース	135	99%
教科がわからないケース	2	2%
実施件数	137	

■選択プログラム内訳

プログラム種別	件数	割合
はじめてのアイヌ博	90	66%
はじめてのアイヌ博 (クイズ)	45	33%
遠隔授業	2	2%
教材開発協力	0	0%
連携学習	0	0%
合計	137	

■受講者内訳

受講者区分	人数	割合
児童生徒	8,403	92%
引率	807	9%
合計	9,210	

■平均滞在時間

平均滞在時間	176分	2h56m
--------	------	-------

IV -06-05 学校教育と連携した取り組みの企画立案

・アイヌ民族の歴史や文化に対する理解を深める教員向けの研修会として、「令和6年度『教員のための博物館の日 at 国立アイヌ民族博物館』」を7月29日（月）に開催した。受講対象は昨年度と同様に、全国の小・中・高等学校の教務主任、研究部長、道徳教育推進教諭等、アイヌ民族に関する教育の推進を担う教員、またはその推進に意欲的な教員および教育委員会等の教育に関する機関の職員とした。現地参加23名、リモート参加14組の教職員らが参加した。次年度も継続して実施し、アイヌ民族の歴史や文化に対する教員の理解や指導力の向上を図る。

・学校授業用の動画教材開発「アイヌ民族に関する指導教材」

動画教材、活用ガイド、授業に係る学習指導案とワークシートについて、教員等に配信できる「アイヌ民族に関する指導教材」webサイト (<https://kyozai.nam.go.jp/>) を2023年4月より公開中。2024年度は72件のパスワード請求があった。動画教材、活用ガイドについては、当館のwebサイト (<https://nam.go.jp/>) 上でも公開した(2025年3月)。学習指導案、授業事例、ワークシートなどのより詳しい内容については、引き続き動画教材専用webサイト (<https://kyozai.nam.go.jp/>) で案内している。

・白老町立白老中学校の生徒2名に対して、職場体験学習（9月5日、6日）の対応を行った。

国や教育委員会が行う教員や公務員を対象としたアイヌの歴史・文化に関する研修への協力

・北海道開発局職員計173名を対象に研修を行った（7月24日、8月29日、9月11日、10月23日）。

・全国都道府県在京文教担当者連絡協議会39名を対象に研修を行った（10月4日）。

・北海道胆振総合振興局35名を対象に研修を行った（10月22日）。

・北海道教育庁義務教育課44名を対象に研修を行った（2月13日）。

※人数および団体数はIV -06-01 6 社会人向け研修の実施の報告に含まれる。

IV -07 一般運営業務

IV -07-01 利用サービス

1) 感染症対策全般

2023年5月8日以降、職員の基本的な感染症対策等は「新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付け変更後の対応について（令和5年5月2日付け公財ア総第24号）」に基づき実施してきたが、国において通常の医療提供体制となるなど、制度の変更がなされたことから同通知を2024年7月8日付けで廃止し、下記の体制に変更した。

- ・新型コロナウイルス感染症のみならず、他の感染症を含めた感染拡大防止の対策として、「手洗い等の手指衛生」、「換気」等の基本的な感染対策は今後も継続して実施する。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染による重症化リスクの高い職員に対し、流行期における換気の悪い場所等の回避やマスク着用を推奨する。
- ・アルコール消毒器の設置は、当面の間、継続する。
- ・検温器・アクリル板等、パーティションの設置及び消毒作業については実施しない。
- ・国及び北海道の方針を踏まえ、来客、関係者及びウポポイ来場者等のマスク着用・手指消毒については個人の判断に委ねるものとし、要請は行わない。
- ・「新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付け変更後の基本的感染対策等について（令和5年4月21日付け閣内人第322号）」に基づく対応を継続して実施する。
- ・新規感染者及び治癒等の報告、取りまとめは実施しないが、業務継続対応の一環として、発症時及び陽性判明時の所属長への報告は継続して実施する。

2) 観覧者の利便性向上のための対策

a) 館内での利用案内

来館者が快適に博物館を利用できるように、館内では1階、2階と案内スタッフをポジションごとに配置し、展示室への案内、障がい者、高齢者等の利用サポート、外国人への多言語案内等、常に来館者のニーズに合った対応ができるように努めた。

b) 受付

来館者の要望に応えられるように、各施設でプログラムの案内、チラシやパンフレットの配布、また来訪者への連絡対応、外国人来館者への多言語対応等の各種サービスの提供を行った。

c) 館内放送

来館者からの要望で、迷子等の搜索や拾得物の問合せがあった場合は、無線機等でスタッフ間での情報共有を行い対応した。

d) 障がい者・高齢者等の利用サポート

車椅子、杖の利用者、またご高齢の来館者については、積極的に声掛けを行い、要望への対応、各展示室への案内等、ニーズに合ったサポートを行った。

e) 音声ガイド機・シアター多言語ガイドの貸出及びガイドアプリの利用案内

新型コロナウイルス拡大防止のため貸出を見合わせていた音声ガイド機について、2023年5月より貸出を開始した。シアター多言語ガイドの貸出を実施した。ガイドアプリはウポポイ及び当館ホームページ（<https://ainu-upopoy.jp/guide/service/>）や看板、声掛けにより利用案内を実施した。

f) 多言語対応数

最大8言語（アイヌ語、日本語、英語、中国語簡体字、中国語繁体字、韓国語、ロシア語、タイ語）。このうちメインとなる言語はアイヌ語、日本語、英語、中国語簡体字、韓国語の5言語。

g) 接遇向上

来館者の満足度及びサービスの向上のため、定期的に接遇研修等を実施し、スタッフの資質向上に努めた。また施設利用アンケートの実施等により、来館者の満足度やニーズの把握を適切に行い、サービスの向上に努めた。

h) 施設利用アンケートによる来館者の満足度やニーズの把握

ウポポイ来場者アンケートの内容をエクセルデータで蓄積し、随時当館職員へ共有することで、来館者への対応の向上に努めた。

i) 日常点検

研究員、学芸員、アソシエイトフェロー、エドューケーター全29名が、チェックシートの項目に沿って、交代で基本展示室及び特別展示室の点検、確認を行った。また、年4回に分けて基本展示室と特別展示室の展示ケースについて定期点検を実施した。このように周期を定めた点検作業を実施することで異常の兆候をできる限り早く見つけ、すぐに適切な処置をすることにより、突発的な故障、不具合などによる業務への支障を未然に防いだ。

3) 災害・傷病者の発生に備えた対策

a) 防火体制

博物館を含むウポポイ各施設に防火管理者を置き、施設毎の消防計画を作成するとともに、ウポポイ全体の消防計画を作成し、自衛消防隊を編成している。本年度は自衛消防隊が活動する災害の発生はなかったが、消防計画、法令等に基づき消防用施設の点検を実施した。

b) 訓練等

「文化財防火デー（1月26日）」の一環として、当館においては1月27日に総合防災訓練を実施し、研究学芸部、事業課の職員が、火災発見から、消火、来園者の避難誘導、救護等の流れを確認した。また、3月7日には、ウポポイ全体の消防訓練が行われ、31名が通報連絡、消火、避難誘導の方法を確認した。

2024年10月21日、11月18日、12月23日、2025年3月2日に応急救命講習を実施し、AEDの使用方法や胸骨圧迫等の応急処置方法について、125名のウポポイ関係者が（一財）公園財団応急手当普及員から指導を受けた。

c) 傷病者対応

来園者に傷病者が発生した場合、一時的な対応として、各施設に備え付けた救急用具を使用するなどにより応急処置を実施した。緊急性が高いと判断された場合や、本人または家族から要請があった場合には119番通報し、救急車の出動要請を行った。

傷病者が発生した場合には、発生場所、けがの症状の程度、氏名・年齢・性別、けがや病気の原因等について可能な限り記録して消防隊員に伝えることで、迅速な救護に繋げた。なお、民族共生象徴空間内の利用者等に体調不良、症状の悪化等が生じた場合は、協力医療機関協定（令和元年12月12日締結）に基づき、白老町立国民健康保険病院において迅速に適切な対応を行った。

IV -07-02 広報企画

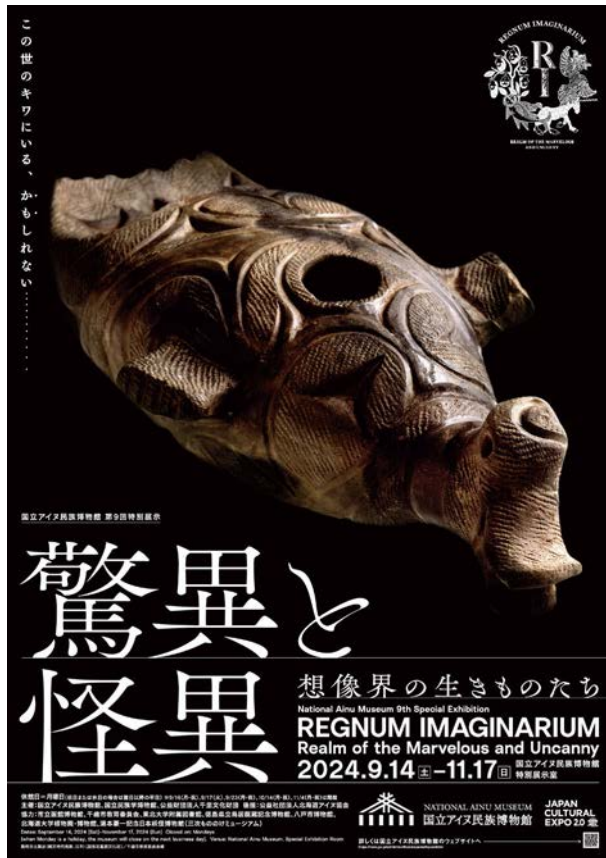
1) 特別展示・テーマ展示のポスター・チラシの作成と配布及びメディア取材関係

a) 第8回特別展示「生誕90年記念 藤戸竹喜の世界展」ポスター



- ・ 広報物製作部数・配付先
 - チラシ 60,000部、ポスター 1,000部
 - 全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計3,611件送付
- ・ 内覧会の取材
 - メディア 5社（苫小牧民報社、室蘭民報社、北海道新聞社、NHK室蘭放送局、読売新聞社）
- ・ メディア掲載実績
 - 新聞27件、テレビ番組2件、雑誌9件、WEBメディア6件、メールニュース1件、SNS記事15件

b) 第9回特別展示「驚異と怪異—想像界の生きものたち」ポスター2種



・広報物製作部数・配付先チラシ発行数

チラシ4種 計74,160部、ポスター2種 計2,000部、パンフレット 6,000部

全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計3,595件送付

・内覧会の取材

メディア 6社（苫小牧民報社、室蘭民報社、北海道新聞社、HBC報道部、朝日新聞北海道支社、白老町広報編集室）

・メディア掲載実績

新聞25件、テレビ番組1件、雑誌7件、WEBメディア41件、メールニュース3件

SNS記事33件（内部発信18件、関連業者・施設からの発信15件）

WEBプロモーションを3週間実施（7月18日～8月7日）

c) 第7回テーマ展示「収蔵資料展」ポスター



- ・ 広報物製作部数・配付先
 チラシ 48,000部、ポスター 1,000部、パンフレット 4,000部
 全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計 3,605件送付
- ・ 内覧会の取材
 メディア 4社（室蘭民報社、苫小牧民報社、北海道新聞社、NHK 苫小牧支局）
- ・ メディア掲載実績
 新聞 26件、テレビ番組 1件、雑誌 7件、WEBメディア 36件、メールニュース 3件、
 SNS記事 15件

Youtube：<https://www.youtube.com/@upopoy>

「第8回特別展示（藤戸竹喜の世界展）」～「第7回テーマ展示（収蔵資料展）」では、展覧会に関する情報が毎週 SNS（Instagram や Facebook）に掲載されるように広報を行った

c) 園内マップ・パンフレット

来園者に各施設やプログラムについて情報を提供するため、園内マップ及びプログラムのパンフレットを製作し配布した。プログラムに変更があった場合は随時内容の修正を行ったほか、臨時の変更があった場合や、特別イベントの実施時には、ウポポイ web サイト及び園内のデジタルサイネージへの掲載や、ポスター等を設置することで、常に最新の情報を来園者へ提供した。

d) そのほかの広報

施設やプログラム等の営業情報、イベント等の企画情報等を各種報道機関、雑誌や Web 等に発信した。また、取材対応し、施設の認知、利用促進への広報活動を図った。

3) ロゴマーク並びに PR キャラクターを利用した広報活動

公共団体や報道メディアほか、一般事業者や団体などからのロゴマーク並びに PR キャラクター「トレッポん」の利用依頼について対応を行った。

利用の周知のために公式 web サイトに専用ページを作成し、専用のアドレスにて利用申請を受付けし管理運営を図った。

<https://ainu-upopoy.jp/download>

4) 教育旅行誘致に関する事業

北海道観光機構主催の各事業に参加し、各エリアの教育旅行事業者、学校関係者に対し博物館及び学校団体向け体験プログラムについて個別説明を行った。

「北海道教育旅行説明会・相談会」

<宇都宮・富山・山形・金沢・大阪・東京>の参加

宇都宮 2024年8月22日（木）：TKP 宇都宮カンファレンスセンター

富山 2024年8月22日（木）：ボルファートとやま

山形 2024年8月23日（金）：山形県生涯学習センター遊学館

金沢 2024年8月23日（金）：IT ビジネスプラザ武蔵

大阪 2024年12月17日（火）：AP イノゲート大阪

東京 2024年12月18日（水）：AP 品川

「他県連携相互送客促進事業」

<沖縄・新潟・福岡・兵庫・宮城>

沖縄 2024年8月30日（金）：みんなの貸会議室那覇旭町店

新潟 2024年9月9日（月）：CoCoLo 南館

福岡 2024年9月13日（金）：第三博多偕成ビル

兵庫 2024年10月15日（火）：三宮国際ビル

宮城 2024年11月08日（金）：TKP 仙台青葉通カンファレンスセンター

また、広島空港振興協議会が主催する「修学旅行セミナー」に参加し、広島県内の教育旅行事業者、学

校関係者に対し同様に個別説明を行った。

広島 2024年08月08日（木）：TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅北口

・高校向けアイヌ関連書籍パッケージ貸出サービス“UPOPOY LIBRARY”の開始

アイヌ民族に関連する書籍50冊を一つのパッケージとして、半年間、高校図書館に無料で貸し出すサービスを開始した。今年度においては、日常生活の中でアイヌ文化に触れる機会が少ない西日本の3県（岡山県・広島県・徳島県）4校の利用があった。

あわせて、多くの生徒や先生にアイヌに関連する書籍を読んでいただくため、貸出期間中、読書感想文の募集を行うほか、アイヌ文化を学校図書館で気軽に体験できる“UPOPOY LIBRARY EVENT”を実施した。次年度は貸出先を全国（北海道を除く）へ拡大し実施予定である。

・高校生が企業と共に「共生社会」を考える1日会議“ウアイヌコロ会議”の開催

全国からウポポイに高校生が集まり「共生社会」について考える1日会議“ウアイヌコロ会議”を1月11日（土）に開催し、14校78名（道内：5校35名、道外：9校43名）が参加した。「ウポポイ探究学習プログラム」を受講した道内の高校生と全国の高校生が、多様な価値観を認め合い生き生きと暮らせる社会を実現するために、ウポポイと道内外の企業の取組みを参考に議論し、それぞれの役割について考える機会となった

5) 地方自治体等が行うウポポイ PR 活動等との連携

白老町主催の「ウポポイ PR 事業」に参加した。他に、白老町、（一社）白老観光協会と共同し主に修学旅行での来場が多い地域において、ウポポイ PR 及び誘致活動を行った。

東京 2024年10月4日～5日：ウポポイ PR 事業（代々木公園ケヤキ並木）

京都 2024年11月16日～17日：ウポポイ PR 事業（京都市中京区河原町広場）

水戸 2024年12月4日～6日：教育旅行誘致活動（水戸市内）

九州 2025年1月14日～17日：教育旅行誘致活動（福岡、佐賀、熊本）

四国 2025年1月21日～23日：教育旅行誘致活動（香川、愛媛）

6) 博物館の各種イベント、展示等に関する広報業務

・「第8回特別展示（藤戸竹喜の世界展）」の特設サイトを2024年5月に公開した。

・PRTIMES「非営利団体サポートプロジェクト」を利用し、専用サイトで「第9回特別展示（驚異と怪異）」から「第7回テーマ展示（収蔵資料展）」までの情報を発信した。PRTIMES「第9回特別展示（驚異と怪異）」における掲載ページは、39サイトに2次掲載済み。「第7回テーマ展示（収蔵資料展）」は28サイトに2次掲載した。

・「EventBank」における広報を11月より開始した。12月に「第7回テーマ展示（収蔵資料展）」を登録し、13のサイト、23のアプリに2次掲載。

・白老町の回覧板における広報を2024年12月から2回実施した。

・プッシュ型のツールとして、白老町のLINE公式アカウントで広報できるように準備を整えた。館内全体に周知済み。運用について令和7年度から開始する予定。

・広告について新聞社3社、広告代理店1社と契約したほか、運営本部広報課とも連携し、各媒体への広報を行った。年間広報実績（第8回特別展示～第7回テーマ展示）は次の通り。

新聞（記事・広告含む）：76件、メールニュース：8件、雑誌（記事・広告含む）：23件、

WEBメディア：89件、TV番組：4件、WEBプロモーション実施：1件（7月18日～8月7日）

7) 図録やガイドブック、研究紀要、ニュースレター等刊行物の編集／発行

- ・当館における研究成果及び活動内容等を研究機関等に発信するために、国立アイヌ民族博物館ニュースレター「アヌアヌ」16号～19号を発行した。
「アヌアヌ」16～18号まで関係機関・関係者等に配布した。配布先総数は10,088か所、部数26,588部（内訳 16号：3,377か所8,944部、17号：3,357か所8,823部、18号：3,354か所8,821部）。
- ・国立アイヌ民族博物館年報2022（令和4）年度を編集／発行し、関係各所に配布した。
- ・国立アイヌ民族博物館研究紀要第2号について印刷を行った。第3号について、投稿論文の公募、査読を経て、3月に電子版を発行した。

IV -07-03 事業予算

当館は文化庁直営だが、その運営は公益財団法人アイヌ民族文化財団に委託されている。その事業費は文化庁から財団に送られる委託費と入場料やテナント料などの事業収入とでまかなわれる。

収入		支出	
内 訳	予算額（千円）	費 目	予算額（千円）
入場料・テナント料等	172,240	設備備品費	44,240
委託費	1,389,707	人件費	398,196
		事業費	603,516
		再委託費	374,000
		一般管理費	141,995
計	1,561,947	計	1,561,947

本誌は、当博物館ウェブサイト上で電子版を公開しています。
This annual report is available online on our museum website below.
<https://nam.go.jp/>

国立アイヌ民族博物館

年報 2024（令和6）年度

National Ainu Museum Annual Report 2024

発行日 2026年3月31日

編集・発行 国立アイヌ民族博物館
北海道白老町若草町2丁目3番1号
<https://nam.go.jp/>

Edited and Published by National Ainu Museum
2-3-1, Wakakusa cho, Shiraoi, Hokkaido, JAPAN
<https://nam.go.jp/>

Not for Sale

ISSN 2758-5131

非売品

© 2026 国立アイヌ民族博物館

an=ukokor aynu ikor oma kenru
National Ainu Museum
Annual Report
2024



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館



ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間